よくお読みになってご使用ください
★取扱書は車の中に保管しましょう★

# CELICA

# 取扱書 トヨタ セリカ

CONTENTS


メーターの見方, 使い方

運転装置, 室内装備の使い方

ラジオ, ヒーター, エア・コンディショナーの使い方

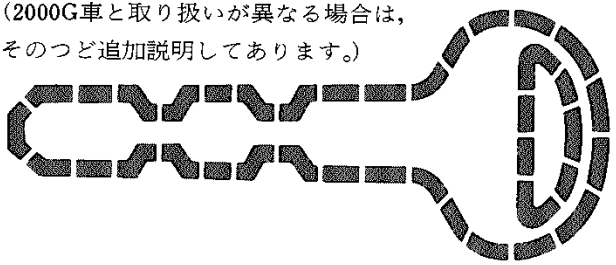
このような取り扱いは危険ですからやめてください

いざ!というときのために

車の手入れと経済運転のコツ

# “あなたを守る”3つのキー・ポイント

このたび，トヨタ車をお買いあげいただきありがとうございます。この取扱書には，車の正しい取り扱い方法と手入れについて説明してあります。
車の取り扱いを十分ご存じのかたも，セリカ独自の装備，取り扱いがありますのでもう一度お読みください。
なお，本書はXXの2000G車を基本に編集してあります。
(2000G車と取り扱いが異なる場合は，
そのつど追加説明してあります。)



1. 万一，取り扱いを誤ると故障や事故の原因になりますので，ご使用前に必ず本書をお読みください。
2. いざというときのために，本書は必ず車の中に保管してください。
3. もし，異常や故障などの不具合が生じた場合は，お近くのトヨタ・サービス工場までご連絡ください。
   なお，整備手帳に，全国の主要トヨタ・サービス網が掲載されています。

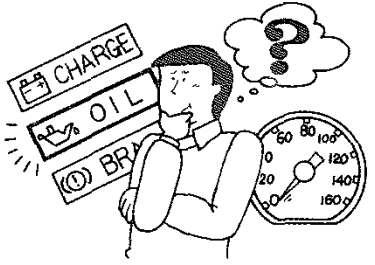
無断複製禁止

# CONTENTS 目次

## はじめに


オーナーのみなさまへひとこと…… 4
車種一覧表…… 5

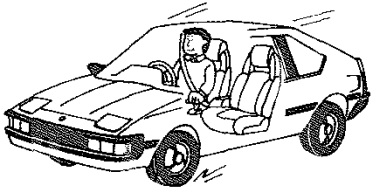

## メーターの見方，使い方





計器盤各部の名称…… 8
メーター，ランプの見方…… 9
速度計　積算距離計　区間距離計　エンジン回転計 12／ 燃料計 13／ 燃料残量警告灯　水温計 15／ 電圧計　充電警告灯 16／ 油圧計　油圧警告灯　油温警告灯 17／ ターボ作動表示灯&ターボ作動警告灯 18／ エンジン警告灯 19／ 排気温警告灯　ブレーキ警告灯 20／ 半ドア警告灯　前照灯の上向き表示灯 21／ 方向指示灯表示灯&非常点滅灯表示灯 22


## 運転装置，室内装備の使い方

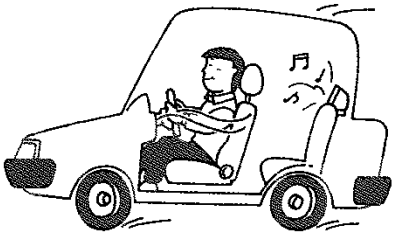



運転装置の操作……24
エンジン・スイッチ(エンジンのかけかた) 24／ マニュアル・トランスミッション 26／ オートマチック・トランスミッション 27／ 駐車ブレーキ・レバー　チルト・ステアリング(上下調整式ハンドル) 33／ ミラー 34／ 任意速度警報装置 35
スイッチの使い方……36
ライト・スイッチ 36／ 方向指示レバー　フロント・ワイパー&ウオッシャー・スイッチ 39／ 前照灯クリーナー　リヤ・ワイパー&ウオッシャー・スイッチ 41／ リヤ・ウインドゥ・ガラス曇り取りスイッチ 42／ 計器照度調整スイッチ　フォグ・ランプ・スイッチ　駐車灯スイッチ 43／ 非常点滅灯スイッチ　オート・ドライブ(自動定速走行装置) 44
シートの調整……47
フロント・シート 47／ リヤ・シート 51
シート・ベルトの装着……52
フロント・シート・ベルト 53／ リヤ・シート・ベルト 54
車体各部の開閉……55
ドア 55／ 電磁式ドア施錠装置 56／ 電動ウインドゥ 57／ ボンネット 60／ 燃料タンク・キャップ　トランク 61／ バック・ドア 62／ サン・ルーフ 63
室内装備の使い方……65
時計 65／ エンジン・キー照明　足元照明 66／ 室内灯　スポット・ライト　デッキ・ルーム灯　シガレット・ライター 67／ 灰皿 68／ グローブ・ボックス(小物入れ)　車検証&取扱書入れ 69／ フタ付きコンソール・ボックス(小物入れ)　ドア・アーム・レスト・ポケット　ドア・ポケット　ポケット付きリヤ・アーム・レスト 70／ 背もたれポケット　サン・バイザー(日よけ)　バニティ・ミラー(化粧ミラー)　荷物固定ベルト 71／ デッキ・ルーム・カバー　メモライザー　ハンディ・マップ・ランプ 72／ クルーズ・コンピューター(走行情報表示装置) 73


無断複製禁止

# CONTENTS 目次

## ラジオ，ヒーター，エア・コンディショナーの使い方




ラジオ，ステレオの使い方……80

ヒーター，エア・コンディショナーの使い方……92

吹き出し口 92／　ヒーター 93／　エア・コンディショナー 97／　オート・エア・コンディショナー 99／　ワンタッチ式排煙装置 100


## このような取り扱いは危険ですからやめてください！


駐停車について…… 102

エンジンの始動について…… 103

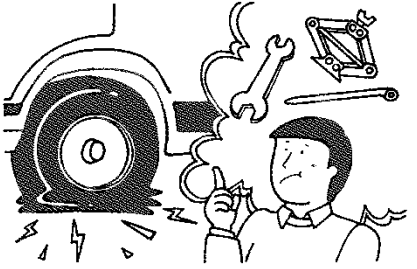
走行するときは…… 104

安全のために…… 107

故障を防ぐために…… 108

お子様を乗せるときは…… 111


## いざ！というときのために




工具とジャッキ…… 114

格納場所　工具 114／　ジャッキ 115

パンクの処置…… 116

スペア・タイヤ 116／　タイヤ交換 117

タイヤ・チェーンの装着…… 121

万一のときの処置…… 123

故障したら　夜間，休日の修理連絡先 123／　走行中，エンジンが停止したときは　走行中，車体床下に強い衝撃を受けたときは　エンストして始動できなくなったときは 124／　保安炎筒の使いかた 125


無断複製禁止

# CONTENTS 目次


メーターの見方，使い方

運転装置，室内装備の使い方

ラジオ，ヒーター，エア・コンディショナーの使い方

このような取り扱いは危険ですからやめてください！ 注意

いざ！というときのために

車の手入れと経済運転のコツ


## いざ！というときのために


故障したときの応急処置…… 126

バッテリーあがりの処置 126／ オーバー・ヒートの処置 けん引のしかた 127

ヒューズについて…… 128

ヒューズ・ボックス 128／ ヒューズの交換 サーキット・ブレーカー 131

電球について…… 132


## 車の手入れと経済運転のコツ




車の手入れ…… 134

車を美しく保つには 134／ リヤ・シートの取りはずしかた 137

ムダなく運転するコツ…… 137

寒冷地での取り扱い…… 140

〈装備品一覧表〉…… 144

〈燃料，油脂，冷却水容量〉…… 146

〈索引〉…… 147


無断複製禁止

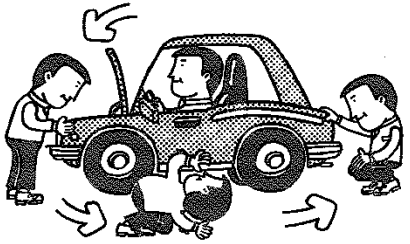
# オーナーのみなさまへひとこと

お車を安全・快適にご使用いただくためには，日ごろから愛車の健康管理が大切です。
車の部品はすべて正常であっても使っているうちに徐々に摩耗，劣化していくのが普通です。それに，車の使われ方は千差万別です。
日ごろから点検，整備は怠らないようにしてください。

TOYOTA
GENUINE PARTS

**■運行前点検**

法令でも定められています。
事故や故障を未然に防ぐために必ず行なってください。ドライバーの義務です。
点検のしかたは整備手帳を参照してください。



**■定期点検**

法令でも定められています。
整備手帳にもとづいて必ず定期点検をお受けください。なお詳しくは，整備手帳を参照してください。

**■定期交換部品**

車の部品の中には使用中に摩耗，劣化したりして，新しい部品と交換する必要のあるものがあります。
機能上重要な部品ですので整備手帳にもとづいて定期交換を行なうことをおすすめします。
新品と交換される場合はトヨタが品質を保証して安心してご使用いただけるトヨタ純正部品をご指定ください。

無断複製禁止

# 車種一覧表

この取扱書は次の車両について説明してあります。

クーペ／リフトバック

| 排気量 | グレード | エンジン型式 |
|---|---|---|
| 1600 | GT | 4A－GEU |
| | GT－R | |
| 1800 | SV | 1S－U |
| | ST | |
| | SX | |
| | GT－T | 3T－GTEU |
| | GT－TR | |

XX

| 排気量 | グレード | エンジン型式 |
|---|---|---|
| 2000 | S | 1G－EU<br>M－TEU |
| | G | |
| | GT | 1G－GEU |
| 2800 | GT | 5M－GEU |

★車をゆずられる場合，次のオーナーのために本書を車につけておいてください。

★キー・ナンバーを控えておいてください。万一，キーを紛失した場合には，ナンバーをトヨタ販売店へご連絡いただければ，専用のカッターにより純正のキーを作ることができます。

無断複製禁止

無断複製禁止

# メーターの見方，使い方

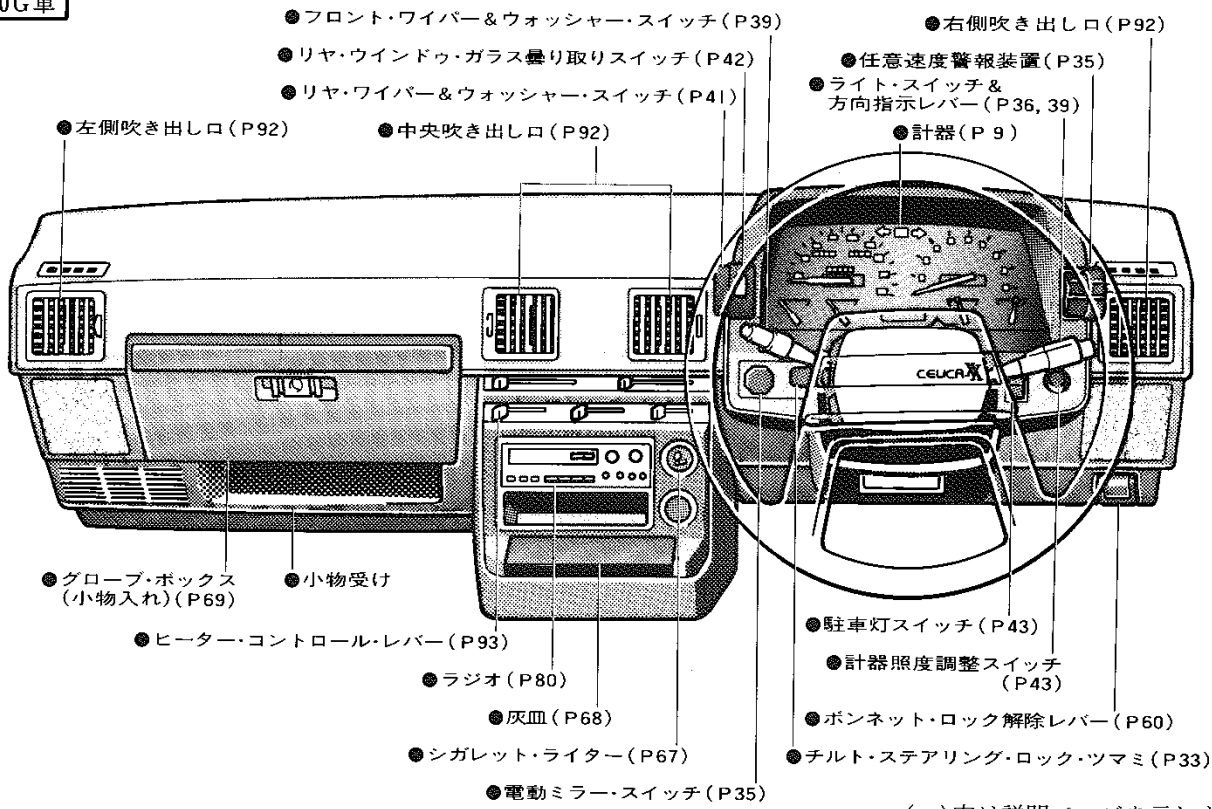

計器盤各部の名称 …… 8
メーター，ランプの見方 …… 9
❶速度計／❷積算距離計／❸区間距離計／❹エンジン回転計 …… 12
❺燃料計 …… 13
❻燃料残量警告灯 …… 15
❼水温計 …… 15
❽電圧計 …… 16
❾充電警告灯 …… 16
❿油圧計 …… 17
⓫油圧警告灯 …… 17
⓬油温警告灯 …… 17
⓭ターボ作動表示灯＆ターボ作動警告灯 …… 18
⓮エンジン警告灯 …… 19
⓯排気温警告灯 …… 20
⓰フレーキ警告灯 …… 20
⓱半トア警告灯 …… 21
⓲前照灯の上向き表示灯 …… 21
⓳方向指示灯表示灯＆非常点滅灯表示灯 …… 22




無断複製禁止

# 計器盤各部の名称

2000G車




（　）内は説明ページを示します。

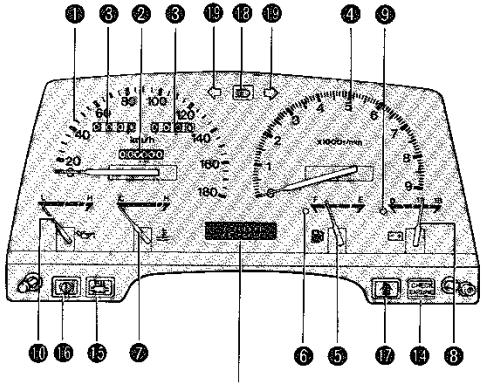
無断複製禁止

# メーター，ランプの見方

❶～⓳で示すメーター，ランプは12ページ以降に名称および機能を説明してあります。

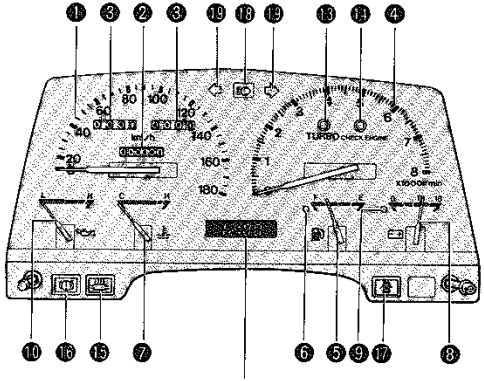
指針式メーター

▶1600GT，GT−R，1800SX，2000GT，S，G車(ターボ車を除く)
SXはエンジン警告灯⓳なし




❽時計(P65)

▶2000S，G車(ターボ車)



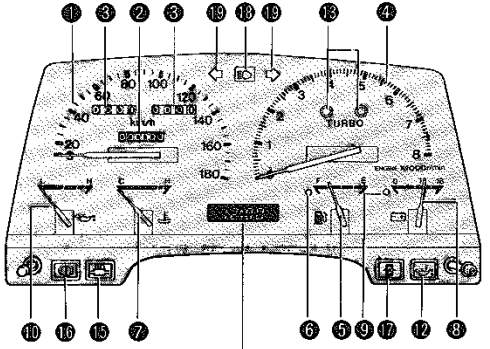

❽時計(P65)



無断複製禁止

エレクトロニック・ディスプレイ・メーター(デジタル式メーター) *

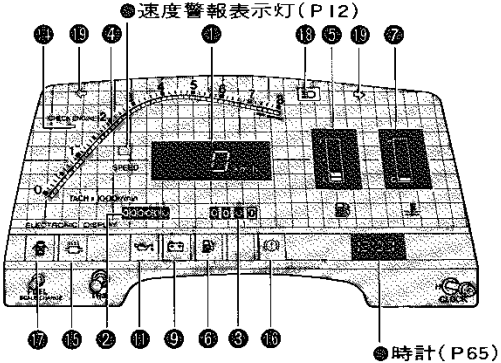
▶1800GT－T，GT－TR車




●時計(P65)

▶1600GT－R，1800SX，2000GT，G車(ターボ車を除く)

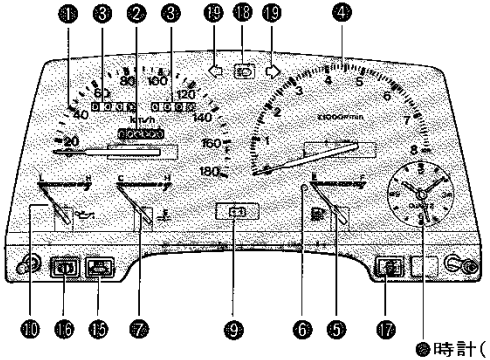
1800SXはエンジン警告灯⑭なし




●時計(P65)

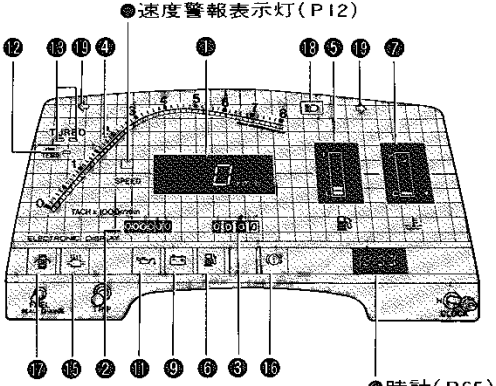
▶1800SV，ST車

SV車は時計，燃料残量警告灯⑥，半ドア警告灯⑰なし




●時計(P66)

▶1800GT－TR車

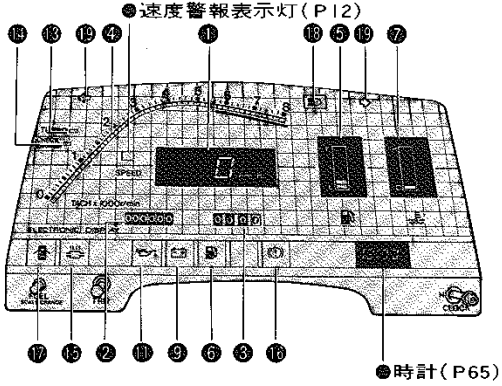



●時計(P65)

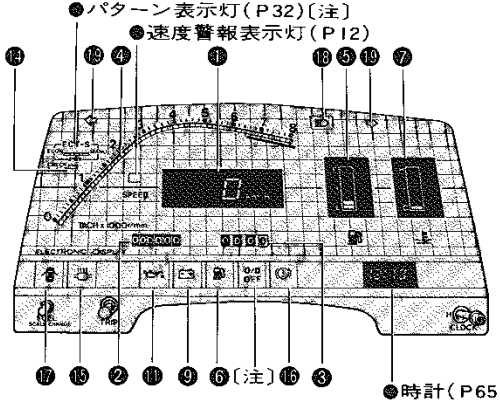
無断複製禁止

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

▶2000 G 車(ターボ車)




▶2800 G T 車

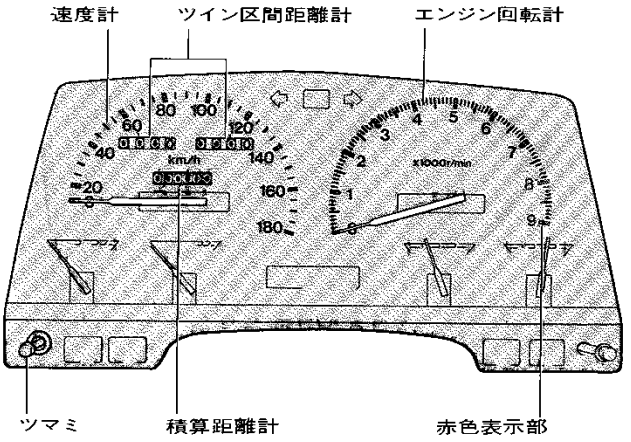



〔注〕オートマチック・トランスミッション車のみ

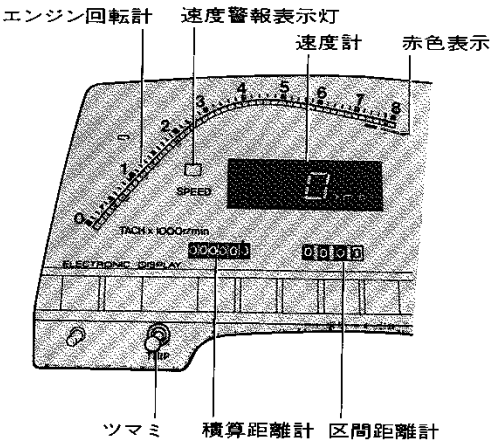
無断複製禁止

## ❶速度計／❷積算距離計／❸区間距離計／❹エンジン回転計

指針式メーター




デジタル式メーター




### ▶速度計

車両の走行速度を示します。

指針式メーター

1．約100km/h以上になると速度警報装置のチャイムが鳴り警告します。
2．チャイムが鳴っているとき指針がふれることがありますが異常ではありません。

デジタル式メーター

1．約100km/h以上になると速度警報表示灯が点灯し，ブザーが鳴り警告します。

### ▶積算距離計

走行した総距離を示します。

1．kmの単位で表示します。

無断複製禁止

▶区間距離計

走行した距離を示します。

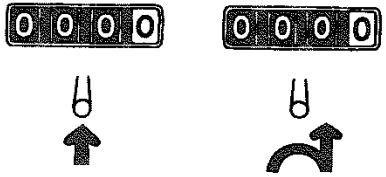
1．kmの単位で表示します。白地に黒文字は100mの単位です。

2．ツマミを操作すると0にもどります。ある区間または期間に走行する距離を知りたいときに使用します。

<区間距離計を0にもどすには>

1．ツマミを押すと0にもどります。

2．ツイン区間距離計の場合，左側はツマミを押すと0にもどり，右側は右に回したまま押すと0にもどります。




▶エンジン回転計

毎分のエンジン回転数を示します。

指針式メーター

1．指針が赤色表示部（エンジンの許容回転数を越えている）にはいらないように運転してください。

2．黄色表示部での使用は短時間にしてください。

デジタル式メーター

1．赤色表示（エンジンの許容回転数を越えている）が現われないように運転してください。

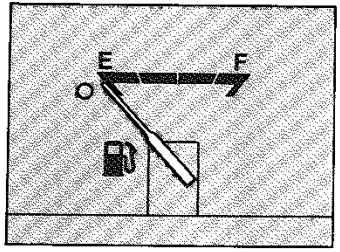
2．黄色表示での使用は短時間にしてください。

**⑤燃料計**

燃料タンク内の燃料残量を示します。

燃料タンク容量……61ℓ

指針式メーター




1．エンジン・スイッチに関係なく残量を示します。

2．駐車時など長時間エンジンを止めておくと指示が若干かわる場合もあります。

3．燃料補給後，エンジン・スイッチをONにしてから指示が安定するまで少し時間がかかります。

☆注意

1．Eに近づいたら早目に燃料を補給してください。

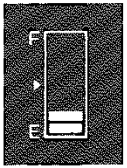
2．高速道路や自動車専用道路での燃



無断複製禁止

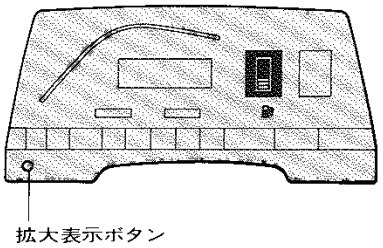
**料切れは違反になります。**
**走行前に必ず燃料が十分あること**
**を確認してください。**

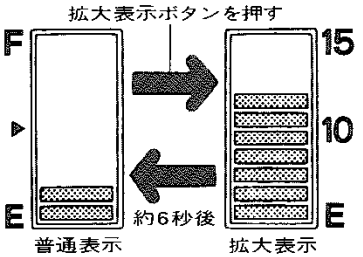
デジタル式メーター






1．エンジン・スイッチをONにすると約1秒後に残量を表示します。
2．表示が約15ℓ以下のとき，拡大表示ボタンを押すと約6秒間15ℓ以下の残量がこまかく表示され，その後普通表示にもどります。




注意

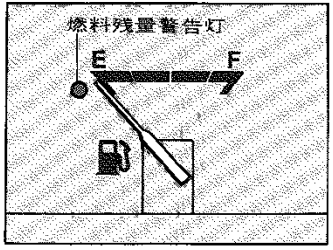
**1．Eに近づいたら早目に燃料を補給してください。**
**2．高速道路や自動車専用道路での燃料切れは違反になります。**
**走行前に必ず燃料が十分あること**
**を確認してください。**

無断複製禁止

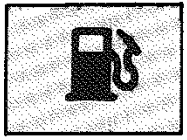
### ⑥燃料残量警告灯

燃料の残量が少なくなったことを知らせます。

指針式メーター（SV車を除く）




デジタル式メーター



1．エンジン・スイッチがONのとき作動します。
2．約10ℓ以下になると点灯します。

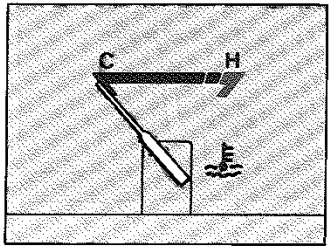
★注意

**燃料計の指示がEに近づいたら早目に燃料を補給してください。**

### ⑦水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

指針式メーター

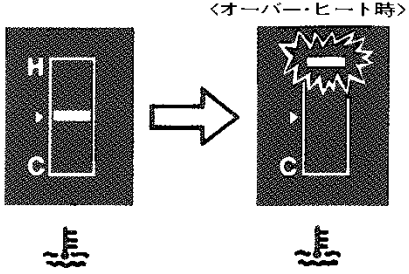



1．エンジン・スイッチがONのとき作動します。
2．通常は，Hの赤色表示部より内側を指示します。

★注意

**指針がHの赤色表示部にはいったときは，オーバー・ヒートのおそれがあります。ただちに車を安全な場所に止め，処置をしてください。**
(127ページの「オーバー・ヒートの処置」の項目を参照してください。)

デジタル式メーター




1．エンジン・スイッチをONにすると約1秒後に表示します。
2．通常は，表示部の最上部より内側を表示します。

★注意

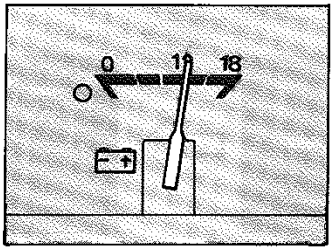
**表示部の一番上の部分が点滅したときは，オーバー・ヒートです。ただちに車を安全な場所に止め，処置をしてください。**
(127ページの「オーバー・ヒートの処置」の項目を参照してください。)



無断複製禁止

### ❽電圧計＊

指針式メーター

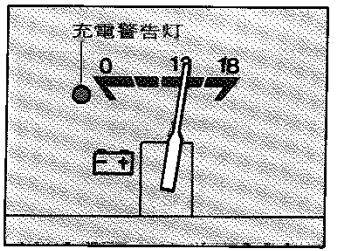



エンジン回転中，バッテリーの充電状態を示します。

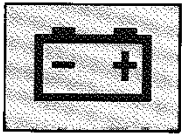
1．エンジン・スイッチをONにすると作動します。
2．通常は11～16Vを指示するのが正常です。
3．通常走行時16V以上または，11V以下を指示するときは，バッテリーや充電系統の異常が考えられます。点検を受けてください。
4．エンジン始動時は11V以下を指示することがありますが，異常ではありません。

### ❾充電警告灯

指針式メーター




デジタル式メーター



エンジン回転中，バッテリーの充電状態を示します。

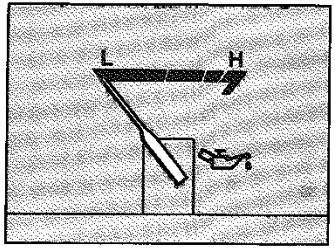
1．正常なときはエンジン・スイッチをONにすると点灯し，始動すると消灯します。
2．エンジン回転中，充電状態に異常があると点灯します。
3．エンジン回転中に点灯したときは，ファン・ベルトの切れなどが考えられます。ただちに速度を落とし安全な場所へ停車して，トヨタ・サービス工場へご連絡ください。

無断複製禁止

＊印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

### ⑩油圧計

指針式メーター

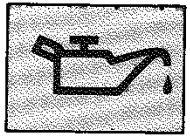



エンジン回転中，エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力を示します。

1．エンジン・スイッチがONのとき作動します。
2．通常はL～Hの範囲内を指示します。
3．エンジン回転を上げても指針が動かないときはエンジンを止めてオイル量を点検してください。
（点検方法は整備手帳を参照してください。）
4．オイルが適量はいっているのに指針が動かない場合，そのまま走行するとエンジンの故障を起こすおそれがありますのでトヨタ・サービス工場で点検を受けてください。

### ⑪油圧警告灯

デジタル式メーター



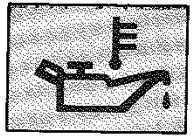
エンジン回転中，エンジン内部を潤滑しているオイルの流れの状態を示します。

1．正常なときは，エンジン・スイッチをONにすると点灯し，始動すると消灯します。
2．エンジン・オイルの不足かオイルの流れに異常があると点灯します。
3．エンジン回転中に点灯したときは，エンジンを止めてオイル量を点検してください。
（点検方法は整備手帳を参照してください。）
4．オイルが適量はいっているのに点灯する場合，そのまま走行するとエンジンの故障を起こすおそれがありますので点検を受けてください。

### ⑫油温警告灯

GT－T，GT－TR車

▶指針式メーター



▶デジタル式メーター



油温警告灯

エンジン回転中，エンジン内部を潤滑しているオイルの温度の状態を示します。

1．正常なときは，エンジン・スイッチをONにすると点灯し，始動すると消灯します。
2．オイルの温度が高くなると点灯し警告します。
3．エンジン回転中に点灯したときはエンジンを止めてオイル量を点検してください。
（点検方法は整備手帳を参照してください。）



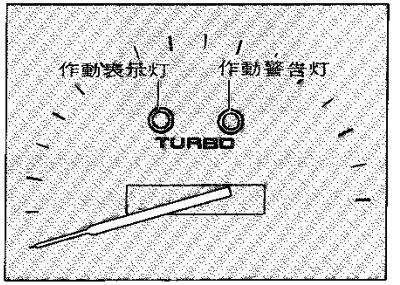
無断複製禁止

4．オイルが適量はいっているのに点灯する場合，そのまま走行するとエンジンの故障を起こすおそれがありますのでトヨタ・サービス工場で点検を受けてください。

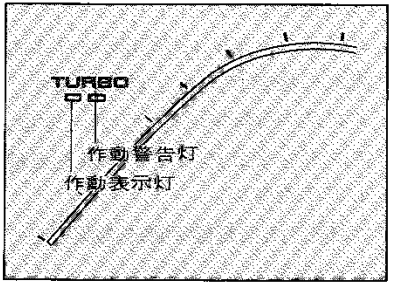
### ⑲ターボ作動表示灯＆ターボ作動警告灯

GT－T，GT－TR車

▶指針式メーター




▶デジタル式メーター




走行中，ターボの作動状態を示します。

1．ターボが作動し過給圧が上がると作動表示灯が点灯します。

2．作動警告灯が点灯したときは，エンジン回転を2,000回転以下または70km/h以下で走行してください。

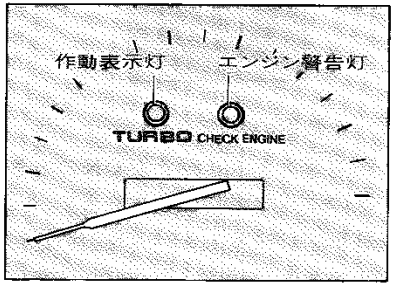
★注意

**作動警告灯が点灯したままのときは，ターボ装置の不具合が考えられますのでただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

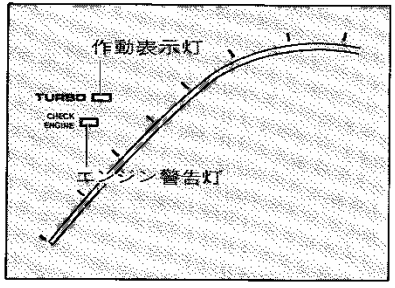
無断複製禁止

M－TEUエンジンとう載車

▶指針式メーター




▶デジタル式メーター




走行中，ターボの作動状態を示します。

1．ターボが作動し過給圧が上がると作動表示灯が点灯します。

2．エンジン警告灯が点灯したときは，エンジン回転を2,000回転以下または70km/h以下で走行してください。

★注意

**エンジン警告灯が点灯したままのときは，ターボ装置の不具合も考えられますのでただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

## ⑭エンジン警告灯

1600GT，GT－R，S，G，2000GT，2800GT車

CHECK ENGINE
CHECK ENGINE

エンジン回転中，エンジン電子制御システムの異常を知らせます。

1．正常なときは，エンジン・スイッチをONにすると点灯し，始動すると消灯します。

2．エンジン回転中，エンジン電子制御システムに異常があると点灯します。

3．ターボ車で点灯した場合，ターボ装置の不具合も考えられますのでエンジン回転を2,000回転以下または70km/h以下で走行してください。

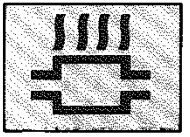
★次のような場合はトヨタ・サービス工場で必ず点検を受けてください。

- エンジン・スイッチをONにしても点灯しないとき
- エンジン回転中，点灯したままのとき



無断複製禁止

### ⑮排気温警告灯



触媒装置の温度を示します。

1．正常なときは，エンジン・スイッチをONにすると点灯し，始動すると消灯します。
2．触媒装置の温度が高くなると点灯します。
3．エンジン・スイッチをONにしても点灯しない場合は，点検を受けてください。
4．エンジン回転中，「充電警告灯」が点灯すると，同時に「排気温警告灯」も点灯します。この場合，触媒の温度上昇を警告しているのではなく充電装置の異常を警告しています。

**★注意**

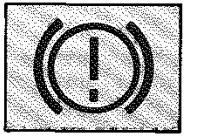
**「排気温警告灯」が点灯した場合，必ず次の処置をしてください。**

**1．走行中の場合**
- **警告灯が点灯したときの半分程度に速度を落としてください。普通は数分内に消灯します。**
- **速度を落としても消灯しない場合は，枯れ草などの燃えやすいもののない場所に停車してください。**
- **警告灯が消灯すればもとのように走行できます。**

**2．停車中の場合**
- **停車しても消灯しない場合は，エンジンを止めてください。約10分間エンジンを止めた後，エンジンを始動して消灯していることを確認してください。**

**消灯しない場合または再び点灯する場合は，そのまま使用せず点検を受けてください。**

### ⑯ブレーキ警告灯



ブレーキ装置の状態を示します。

1．エンジン・スイッチがONのとき次のような場合に点灯します。
- 駐車ブレーキ・レバーを引いたままのとき（レバーをもどせば消灯します。）
- ブレーキ液の不足

2．停車時，エンジン回転中に駐車ブレーキ・レバーをもどしても点灯したままのときは，ブレーキ液の量を点検してください。（点検方法は整備手帳を参照してください。）
3．万一走行中に点灯したときは，すみやかに安全な場所に停車し，トヨタ・サービス工場へご連絡ください。この場合ブレーキの効きが悪くなっているおそれがありますので，ブレーキ・ペダルを踏み，

無断複製禁止

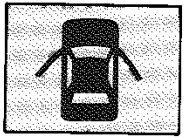
効きが悪いときはブレーキ・ペダルを強く踏んでください。

★注意

**走行前に，消灯していることを確認してください。**

### ⑰半ドア警告灯

SV車を除く



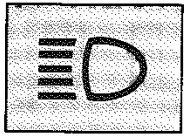
点灯しているときは，ドアが確実にしまっていないことを知らせます。
(バック・ドアを除く)

1．ドアが確実にしめられていないときに点灯します。
2．走行前に，消灯していることを確認してください。

★注意

**警告灯が点灯したまま走行しないでください。**

### ⑱前照灯の上向き表示灯



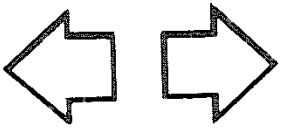
点灯しているときは，前照灯が上向きになっていることを知らせます。

1．ライト・スイッチで前照灯を上向きにすると点灯します。



無断複製禁止

## ⑲方向指示灯表示灯＆非常点滅灯表示灯



▶方向指示灯表示灯

方向指示灯が点滅していることを示します。

1．エンジン・スイッチがONのとき方向指示レバーを操作すると点滅します。

★点滅が異常に早くなるときは，方向指示灯の電球切れが考えられます。

▶非常点滅灯表示灯

非常点滅灯が点滅していることを示します。

1．非常点滅灯スイッチを作動させると，両方の方向指示灯表示灯が同時に点滅します。

無断複製禁止

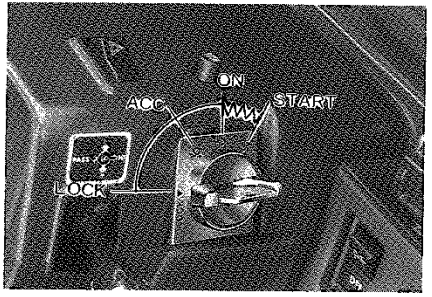
**運転装置の操作**……24
エンジン・スイッチ(エンジンのかけかた)……24
マニュアル・トランスミッション……26
オートマチック・トランスミッション……27
駐車ブレーキ・レバー……33
チルト・ステアリング(上下調整式ハンドル)……33
ミラー……34
任意速度警報装置……35
**スイッチの使い方**……36
ライト・スイッチ……36
方向指示レバー……39
フロント・ワイパー＆ウォッシャー・スイッチ……39
前照灯クリーナー……41
リヤ・ワイパー＆ウォッシャー・スイッチ……41
リヤ・ウインドゥ・カラス曇り取りスイッチ……42
計器照度調整スイッチ……43
フォグ・ランプ・スイッチ……43
駐車灯スイッチ……43
非常点滅灯スイッチ……44
オート・トライブ(自動定速走行装置)……44
**シートの調整**……47
フロント・シート……47
リヤ・シート……51
**シート・ベルトの装着**……52
フロント・シート・ベルト……53
リヤ・シート・ベルト……54
**車体各部の開閉**……55
ドア……55
電磁式ドア施錠装置……56
電動ウインドゥ……57
ボンネット……60
燃料タンク・キャップ……61
トランク……61
バック・ドア……62
サン・ルーフ……63
**室内装備の使い方**……65
時　計……65
エンジン・キー照明……66
足元照明……66
室内灯……67
スポット・ライト……67
デッキ・ルーム灯……67
シガレット・ライター……67
灰　皿……68
グローブ・ボックス(小物入れ)……69
車検証＆取扱書入れ……69
フタ付きコンソール・ボックス(小物入れ)……70
ドア・アーム・レスト・ポケット……70
ドア・ポケット……70
ポケット付きリヤ・アーム・レスト……70
背もたれポケット……71
サン・ハイザー(日よけ)……71
ハニティ・ミラー(化粧ミラー)……71
荷物固定ベルト……71
デッキ・ルーム・カバー……72
メモライザー……72
ハンディ・マップ・ランプ……72
クルーズ・コンピューター(走行情報表示装置)……73



無断複製禁止

# 運転装置の操作

## ■エンジン・スイッチ




▶各位置の働き

**LOCK**

キーを抜き差しできる位置。
キーを抜くとハンドルがロックされます。

**ACC**

エンジン停止時，次のものが使用できます。

- ラジオ，カセット・ステレオ
- シガレット・ライター
- 電動ドア・ミラー
- 電動フェンダー・ミラー

**ON**

エンジン回転中の位置。

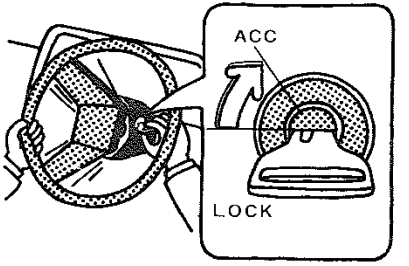
**START**

エンジンを始動する位置。
手をはなすと，自動的にONにもどります。

★エンジンが始動したら，キーから手をはなしてください。START位置のままにしていると，エンジンを損傷するおそれがあります。

★エンジンがかからないとき，15秒以上STARTの位置へ回したままにしないでください。バッテリーあがりを起こすおそれがあります。

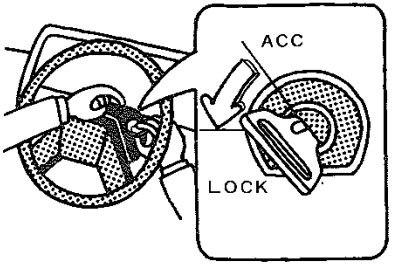
〈LOCKからACCに回すとき〉
キーが回りにくいときは，ハンドルを軽く左右に動かしながらキーを回します。




★XX車で，キーがLOCKからACCに回らないときは，キーが奥までいっぱいに差し込まれているか確認してください。

無断複製禁止

〈ACCからLOCKに回すとき〉
ボタンを押しながらキーを回します。キーを抜くとハンドルがロックされ車両盗難防止に役立ちます。




★注意

**バッテリーあがりを起こさないために，下記事項を必ず守ってください。**

- **エンジン停止時は，スイッチをLOCKまたはACCにする。**
  **長時間停止する場合はキーを抜く。**
- **エンジンを止めた状態（ONまたはACC）で，ラジオ，カセット・ステレオ，クルーズ・コンピューターを長時間使用しない。**

▶エンジンのかけかた

始動するときは必ずブレーキ・ペダルを踏むかまたは駐車ブレーキをかけ，チェンジ・レバーを下記の位置にします。

- マニュアル・トランスミッション車Ⓝ位置。
- オートマチック・トランスミッション車Ⓟ位置。

1S－Uエンジンとう載車

〈エンジンが冷えているとき〉

1．アクセル・ペダルを次表にしたがって踏み込みます。

| 外気温 | 踏む回数 |
|---|---|
| ＋5℃以上 | 軽く1回 |
| ＋5℃～－10℃ | いっぱい1～2回 |
| －10℃以下 | いっぱい2～3回 |

2．アクセル・ペダルから足をはなし，エンジン・スイッチをSTARTの位置に回しエンジンを始動します。
3．しばらく暖機運転をします。
自動チョークが働いていますのでエンジン回転は徐々に高くなります。
4．回転が高くなったときは，アクセル・ペダルを軽く踏んでから足をはなし回転を下げてください。

★注意

**エンジンが暖機されると自動的に回転は下がりますが，暖機運転中は回転が高くなりすぎることがあります。**
**外気温によって異なりますが約20℃のときであれば，エンジン始動後約30秒でアクセル・ペダルを軽く踏んではなし回転を下げてください。**

〈エンジンが暖まっているとき〉
アクセル・ペダルを半分程度踏み込んだままエンジンを始動してください。



無断複製禁止

1S-Uエンジンとう載車を除く

1．アクセル・ペダルから足をはなしたままエンジンを始動します。
2．そのままで，しばらく暖機運転をします。暖機が終われば自動的にアイドル回転になります。

★注意

**ターボ車は，ターボ機能を損うおそれがありますので寒冷時の始動直後は，エンジンの急激な空ふかしまたは急加速をしないでください。**

▶エンジンの止めかた

1．駐車ブレーキ・レバーを引きます。
2．チェンジ・レバーをマニュアル・トランスミッション車はロー（1速）またはリバース(後退)，オートマチック・トランスミッション車は㊣の位置にします。
3．エンジン・スイッチをACCまたはLOCKの位置にします。

★注意

**ターボ車はターボ機能を損うおそれがありますので高速走行，登坂路走行直後にエンジンを停止するときは，次表にしたがって必ずアイドル運転をしてください。**

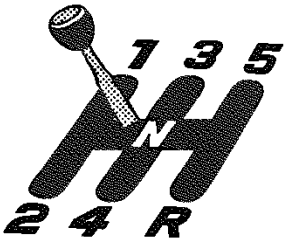
〔参考〕

**エンジン停止前のアイドル運転時間**

| 運転状況 | | アイドル運転時間 |
|---|---|---|
| 市街地，郊外などの一般走行 | | 必要なし |
| 高速走行 | 約80km/h 定速 | 約20秒 |
| | 約100 km/h定速 | 約1分 |
| 山岳ドライブ・ウェイなどの急な登坂路走行およびレース場など100 km/h以上の連続走行 | | 約2分 |

■マニュアル・トランスミッション

▶5速フロア・チェンジ



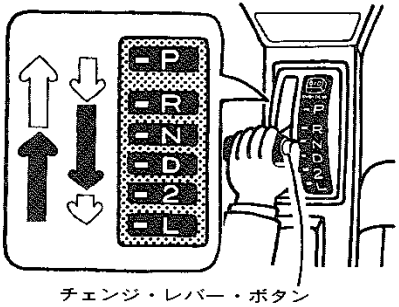

★❺～Ⓡに切り替える場合は必ずⓃにもどしてから行なってください。

無断複製禁止

## ■オートマチック・トランスミッション

オーバードライブ付き4速オートマチック・トランスッション
〈1S－U，3T－GTEU，M－TEUエンジンとう載車〉

3速オートマチック・トランスミッションにオーバードライブ装置を加え4速オートマチック・トランスミッションとしての機能を持たせたものです。




チェンジ・レバー・ボタン

〈レバーの動かしかた〉

そのまま動かします。

チェンジ・レバー・ボタンを押して動かします。

▶各位置の動き

Ⓟパーキング（駐車）
駐車およびエンジン始動の位置。

Ⓡリバース（後退）
バックさせるときの位置。

Ⓝニュートラル（中立）
この位置でもエンジンを始動することができますが，安全のためにⓅ位置で始動してください。

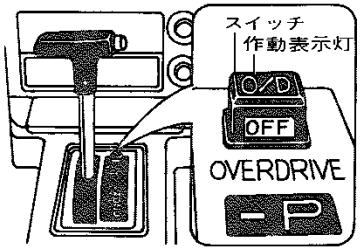
Ⓓドライブ（通常走行）
通常走行の位置。

❷セカンド（2速）
エンジン・ブレーキが必要な場合に使う位置。

Ⓛロー（1速）
強力なエンジン・ブレーキが必要な場合に使う位置。

★55km/h以上では使用しないでください。

▶オーバードライブ・スイッチ




1．通常走行時はオーバードライブ・スイッチをONにしておいてください。4速オートマチック・トランスミッションとして働きます。

2．オーバードライブが作動しているときは，作動表示灯が点灯します。ただし，M－TEUエンジンとう載車は装置の作動に関係なくライト・スイッチをONにすると作動表示灯が点灯します。

3．オーバードライブ・スイッチをOFFにしておけば3速オートマチック・トランスミッションとして働きます。

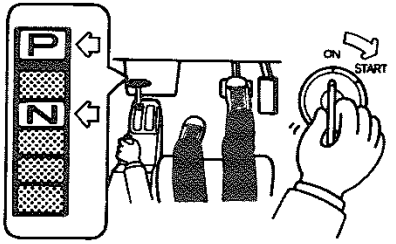
★エンジンの冷却水が冷えている場合には，オーバードライブ装置が作動しません。



無断複製禁止

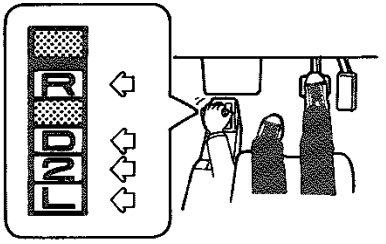
▶運転のしかた

1．エンジン始動




エンジンの始動は，必ずブレーキ・ペダルを踏んだままあるいは，駐車ブレーキをかけたままⓅまたはⓃで行ないます。

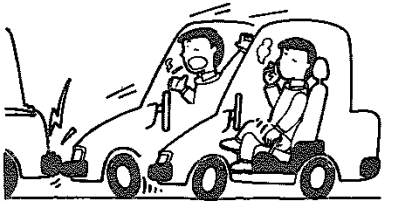
2．発進




発進は，ブレーキ・ペダルを踏んだまま前進はⒹまたはⓁ，②，後退はⓇにチェンジ・レバーを操作しシフト位置を確認した後，ブレーキを解除してアクセル・ペダルを踏み発進します。

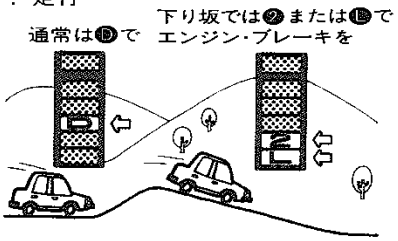
★注意

**1．チェンジ・レバー操作は，Ⓟ，Ⓝ以外のシフト位置では車が走り出す状態になりますので必ずブレーキ・ペダルを踏んだまま行なってください。**



**2．アクセル・ペダルを踏み込んだまま，チェンジ・レバーを操作しないでください。また，エンジン回転が高いときは，ブレーキ・ペダルを確実に踏んだままチェンジ・レバーを操作してください。急発進の危険があります。**

3．走行



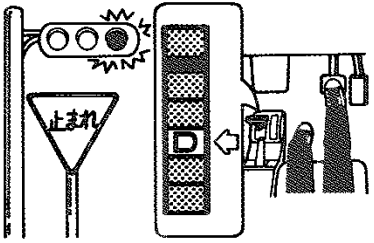

- 通常はⒹで使用します。発進すると，1速からスピードにより2速，3速，4速と自動的に切り替わります。
  マニュアル・トランスミッション車と同様にⓁから発進し，②からⒹへと手動の操作でも運転できます。
- 下り坂では路面状態やスピードに応じて②またはⓁに入れてエンジン・ブレーキをかけます。
- 追い越しなど急加速したいときはアクセル・ペダルをいっぱい踏み込むとチェンジ・レバーはⒹのままでもギヤは4速からスピードにより自動的に3速または2速，1速に切り替わって急加速ができます。

無断複製禁止

★注意

1．走行中Ⓝに入れるのは，エンジン・ブレーキが効かなくなるためさけてください。
2．前進から後退，後退から前進にチェンジ・レバーを操作するときは車が完全に止まってから，ブレーキ・ペダルを踏んだまま，確実に行なってください。
3．Ⓟにいれるときは車が完全に止まってから，ブレーキ・ペダルを踏んだまま，確実に行ってください。
4．山間路などの急な坂道を下るときは，オーバードライブ・スイッチをOFFにするかⓁレンジにしたりして車速に適したエンジン・ブレーキを使用してください。
5．強力なエンジン・ブレーキが必要な場合は，スピードに応じてⓁレンジにいれてください。
ただし，すべりやすい路面では，タイヤがスリップして危険ですので急激なエンジン・ブレーキをかけることはさけてください。

4．一時停止

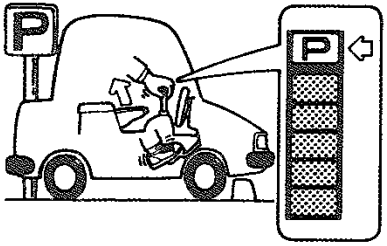



一時停止のときは，そのつどⓃにして，ブレーキ・ペダルを確実に踏むかⒹ，Ⓛ，Ⓡのままブレーキ・ペダルを確実に踏みます。

★注意

1．上り坂で停止するときには，アクセル・ペダルを踏みながら車を止めておくような運転はしないで，ブレーキを使用して確実に止めてください。
2．一時停止のときには，必ずしもⓃにする必要はありません。

5．駐停車




駐停車するときは車が完全に止まってから，ブレーキ・ペダルを踏んだまま駐車ブレーキを確実にかけ，チェンジ・レバーをⓅに入れます。

★注意

1．駐停車中は，むやみにエンジンを高回転にしないでください。
2．駐停車中にⓅに確実に入っていないと，外部からのショックなどで車が動くおそれがあります。



無断複製禁止

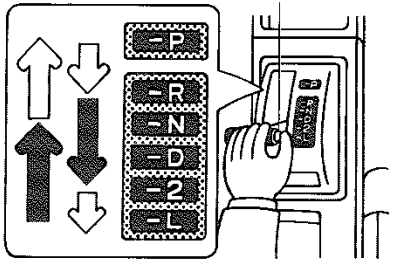
**2ウェイ・オーバードライブ付き4速オートマチック・トランスミッション〈1G－EUエンジンとう載車〉**

オーバードライブ付き4速オートマチック・トランスミッションにロック・アップ機構を加え，燃費を向上させたものです。

取り扱い方法は，オーバードライブ付き4速オートマチック・トランスミッションと同じです。

**ECT－S(2ウェイ・オーバードライブ付き電子制御式4速オートマチック・トランスミッション)〈5M－GEUエンジンとう載車〉**

チェンジ・レバー・ボタン




2ウェイ・オーバードライブ付き4速オートマチック・トランスミッションにマイクロ・コンピューターを組み合わせ，適切なギヤの切り替えを行ないます。

また，パターン・セレクト・スイッチで運転条件に適した走行パターンを選択することもできます。

〈レバーの動かしかた〉

そのまま動かします。

チェンジ・レバー・ボタンを押して動かします。

▶各位置の働き

Ⓟパーキング（駐車）

駐車およびエンジン始動の位置。

Ⓡリバース（後退）

バックさせるときの位置。

Ⓝニュートラル（中立）

この位置でもエンジンを始動することができますが，安全のためⓅ位置で始動してください。

Ⓓドライブ

通常走行の位置。

パターン・セレクト・スイッチでエコノミー走行，パワー走行およびマニュアル走行の選択ができます。

❷セカンド（2速）

エンジン・ブレーキが必要な場合や

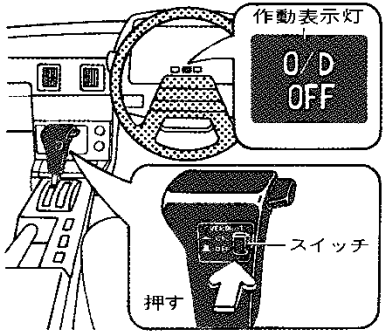
無断複製禁止

2速発進がしたいときに使う位置。
（2速発進のしかたは次の▶走行パターンの選択を参照してください。）

Ⓛロー（1速）
強力なエンジン・ブレーキが必要な場合に使う位置。

★60km/h以上では使用しないでください。

▶オーバードライブ・スイッチ

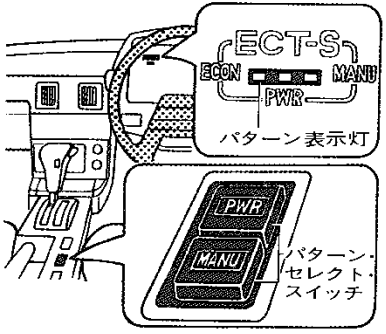



1．通常走行時は，オーバードライブ・スイッチをONにすると作動表示灯が消灯し，4速オートマチック・トランスミッションとして働きます。

2．スイッチをOFFにすると作動表示灯が点灯し，3速オートマチック・トランスミッションとして働きます。

★山道などで長い坂道を走行するときは，エンジン・ブレーキの効きをよくするためオーバードライブ・スイッチをOFFにしておいてください。

▶走行パターンの選択

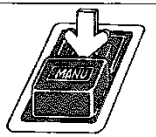
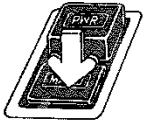



パターン・セレクト・スイッチで走行パターンが選択できます。選択方法は，次ページの〈走行パターン選択の目安〉を参照してください。



無断複製禁止

〈走行パターン選択の目安〉

| 走行パターン | パターン・セレクト・スイッチの状態(※1) | パターン表示灯 | 使用条件 |
|---|---|---|---|
| エコノミー |  |  | 通常走行の場合に使用します。燃費のよい経済的な走行ができるパターンで，スイッチ操作は不要です。 |
| パワー |  |  | パワフルな運転や山間地で運転するときに使用します。 |
| マニュアル(※2) |  |  | 1. Ⓛから発進し，❷からⒹへと手動の操作で運転するのに適したパターンです。<br>2. 雪道などのすべりやすい路面では，チェンジ・レバーを❷の位置にすると，2速発進ができ，スムーズな発進が可能となります。 |

※1：同一ボタンを再度押すと設定パターンは解除され，エコノミー・パターンになります。

※2：市街地をⒹ位置で走行しているときにギヤの切り替わりが気になるときは，マニュアル・パターンを選択すると，ギヤの切り替わる回数が少なくなり，より快適な走行ができます。

★通常は MANU スイッチをOFFにしておいてください。

★走行中でも走行パターンを切り替えることができます。

▶運転のしかた

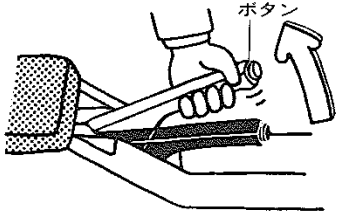
オーバードライブ付き4速オートマチック・トランスミッション車と同じ要領で運転できます。

★強いエンジン・ブレーキが必要なときは，スピードに応じて❷またはⓁに入れてください。
ただし，すべりやすい路面では，タイヤがスリップして危険ですので急激なエンジン・ブレーキをかけることはさけてください。

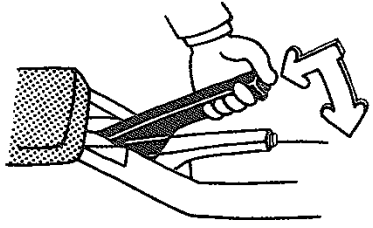
無断複製禁止

## ■駐車ブレーキ・レバー

1．駐車するときは，ボタンを押さずにレバーをいっぱい引きます。




2．もどすときはレバーを少し引き上げながら先端のボタンを押えてもどします。

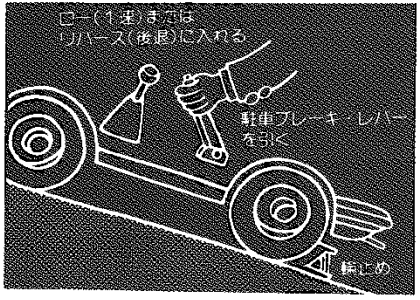


3．走行前にブレーキ警告灯が消灯していることを確認してください。

★注意

**駐車ブレーキ・レバーを引いたまま走行するとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。**

### ▶駐車のしかた



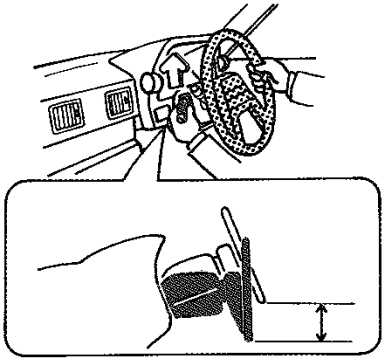

1．駐車ブレーキ・レバーを引きます。

2．チェンジ・レバーをマニュアル・トランスミッション車はロー(1速)またはリバース(後退)，オートマチック・トランスミッション車はⓅの位置にします。

**★坂道では輪止め（とう載工具に含まれています）を忘れずに使用してください。**

**★急な坂道での駐車はしないでください。**

## ■チルト・ステアリング（上下調整式ハンドル） SV，ST車を除く



ハンドル操作がしやすい位置に調整できます。

1．ツマミを押し上げている間，ハンドル位置を上下にかえられます。

2．適切な位置でツマミをはなせば，ハンドルはその位置で固定されます。

3．調整後は，ハンドルを上下に動かして固定されたことを確認してください。

★注意

**ハンドルの位置調整は，走行前に行なってください。車が動いているときの調整は危険です。**

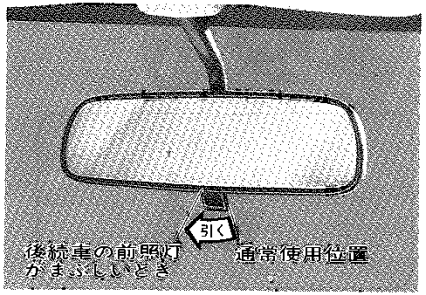


無断複製禁止

## ミラー

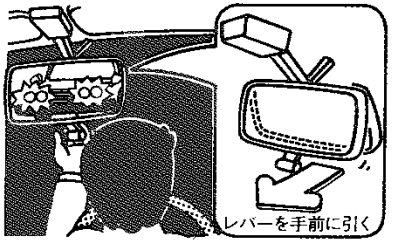
★走行前に後方が十分確認できる位置に調整してください。

▶防眩式ルーム・ミラー




1．ミラー調整はレバーを前方の位置にして，ハンドルをにぎる通常の姿勢で行なってください。

2．夜間走行時など，後続車の前照灯がミラーに反射してまぶしいときは，ミラーの下にあるレバーを手前に引いてください。



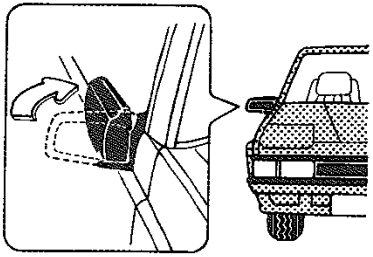

▶可倒式ドア・ミラー

ドア・ミラーはフェンダー・ミラーに比べて，ミラーの張り出しが約10cm大きくなります。またミラーに映る像の距離感覚も異なりますので，ドア・ミラーに慣れるまでのしばらくの間，下記事項に注意して運転してください。

- 狭い道でのすれ違いや車庫入れ時，あるいは歩行者などに対してミラーの張り出しに気を配りながら運転してください。
- 運転席側と助手席側では鏡面の曲率半径が異なるため像の大きさが異なります。
- 助手席側のミラーを見るときに視線移動が大きくなりますので前方不注意とならないよう注意してください。

〈ミラーの倒しかた〉

狭い駐車場に車を止めるときや，立体駐車場，自動洗車機などを利用するときにミラーを保護するため，必要に応じてミラーを後方または前方に倒すことができます。



1．ミラーのカバーの端を車両後方に押すと，ミラーが後方に倒れたまま固定されます。

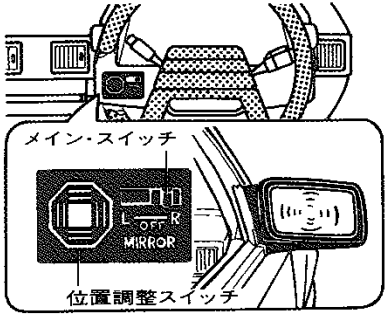
★ミラーを強い力(約30kg以上)で押さないでください。

2．もとにもどすときは，カバーを車両前方に〝カチッ〟という音がするところまで起こします。

★ミラーを倒したまま走行しないでください。

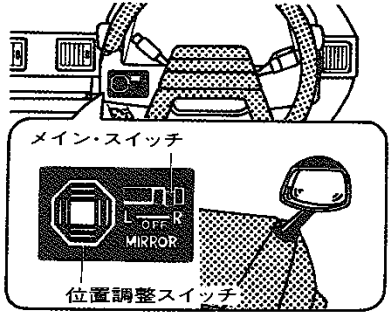
無断複製禁止

〈電動ドア・ミラー＊〉




1．エンジン・スイッチがACCまたはONのとき使用できます。
2．メイン・スイッチをRの位置にすると右側，Lの位置にすると左側のドア・ミラーを位置調整スイッチにより調整することができます。
3．使用しないときは，メイン・スイッチをOFF（中央）の位置にしておいてください。

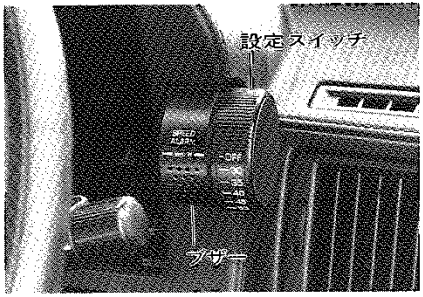
▶電動フェンダー・ミラー＊




1．エンジン・スイッチがACCまたはONのとき使用できます。
2．メイン・スイッチをRの位置にすると右側，Lの位置にすると左側のフェンダー・ミラーを位置調整スイッチにより調整することができます。
3．使用しないときは，メイン・スイッチをOFF（中央）の位置にしておいてください。

■任意速度警報装置＊

▶設定スイッチ




ドライバーが任意に警報開始速度を設定できる装置です。

〈操作方法〉

1．設定スイッチを希望速度に合わせます。
設定速度は30～65km/hの範囲内で5km/hごとにセットできます。
2．速度が設定速度以上になるとブザーが鳴り知らせます。

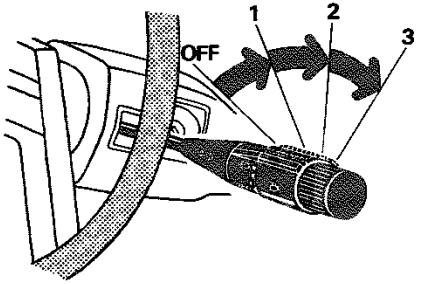


無断複製禁止

＊印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

# スイッチの使い方

## ■ライト・スイッチ




エンジン・スイッチに関係なくスイッチを２，３の位置にすればランプが点灯します。
詳しくは，次表の「スイッチ位置と灯火の関係」を参照してください。

▶スイッチ位置と灯火の関係

〈OFFから≡Dに回すとき〉

| スイッチ位置 | | 前照灯 | | 車幅灯／尾灯／番号灯／計器照明灯 |
|---|---|---|---|---|
| OFF | | | 消灯 | 消灯 |
| 1 | ● | ↑ | ↑ | ↑ |
| 2 | ▬ | ↑ | ↑ | 点灯 |
| 3 | ≡D（注１） | | 点灯 | ↑ |

〈≡DからOFFに回すとき〉

| スイッチ位置 | | 前照灯 | | 車幅灯／尾灯／番号灯／計器照明灯 |
|---|---|---|---|---|
| 3 | ≡D（注１） | | 点灯 | 点灯 |
| 2 | ▬ | ↑ | 消灯 | ↑ |
| 1 | ●（注２） | ↑ | ↑ | 消灯 |
| OFF | | | ↑ | ↑ |

（注１）デジタル式メーター内の各表示部は減光されます。
（注２）スイッチをこの位置のままにしておいてもバッテリーあがりをおこさない構造になっています。**寒冷地などで前照灯昇降装置が凍結するおそれのある場合は，あらかじめ前照灯を起こしておいてください。**

無断複製禁止

▶寒冷地などで前照灯昇降装置が凍結するおそれがある場合または凍結した場合は

1．走行時に支障のないようライト・スイッチを●の位置にしてレバーを手前に引き，前照灯を起こしておきます。

2．昇降装置が凍結して前照灯が下がらないときは，氷がとけてからライト・スイッチをOFFにします。

★注意

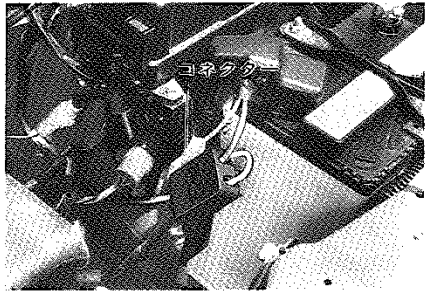
**1．寒冷地などで，前照灯が起き上がったまま(または格納状態)のときに昇降装置が凍結し，作動しないときは，スイッチ操作をする前に必ず氷をとかしてください。凍結した状態のままでスイッチ操作を何度も繰り返すとバッテリーあがりをおこすおそれがあります。**

**2．ライト・スイッチ操作時には，前照灯付近に人がいないことを確かめてから操作してください。前照灯が起き上がったり，下がったりするときに手をはさむおそれがあります。**

▶ライト・スイッチを「≡D」の位置以上に回しても，前照灯が起き上がらないとき，またはOFFにしても下がらないときは

1．ライト・スイッチをOFFにします。

2．バッテリー⊕端子側に付いているピンク色のフュージブル・リンクのコネクターをはずします。



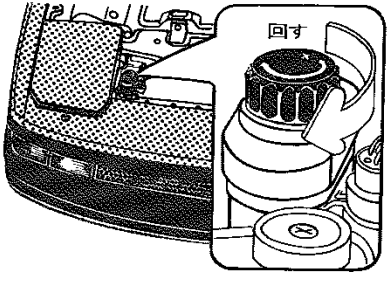

★コネクターは必ずはずしてください。はずさないで次の作業をすると，電源がはいったり前照灯が急に起き上がったり下がったりすることがあるため，手などをはさむおそれがあります。

3．モーター上部のゴム・カバーをはずし赤色のツマミを回すと前照灯



無断複製禁止

が起き上がるか，または下がります。




★ツマミを上図の反対方向に回すことは絶対にやめてください。

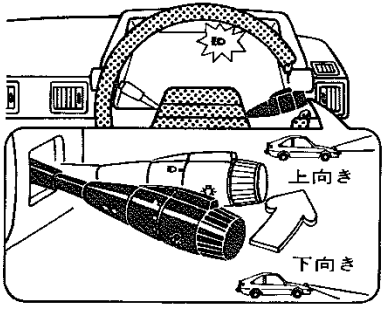
4．2ではずしたコネクターを接続します。

★前照灯を下げたときは車体のラインと平行になれば正しい格納状態です。

★前照灯を上げたときは，一度ライト・スイッチを≡Dの位置にして点灯することを確認してください。

★ライト・スイッチを操作したとき前照灯が正常に作動しない場合は，トヨタ・サービス工場で点検を受けてください。

▶前照灯の上下切り替え

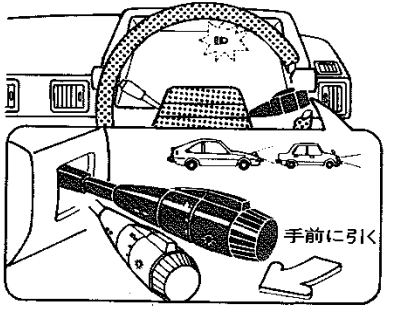



1．レバーを前方に動かすと前照灯が上向きになります。

2．前照灯が上向きのときは，計器内の前照灯の上向き表示灯が点灯します。

★エンジン停止時，前照灯などのランプを長時間つけたままにしないでください。バッテリーあがりを起こしエンジンの始動ができなくなります。

▶追い越し合図灯

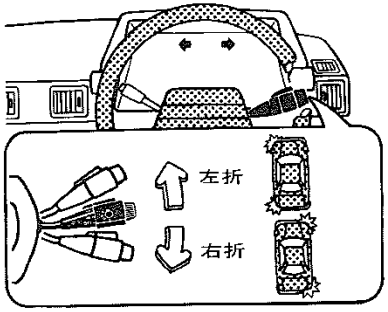



1．方向指示レバーを手前に引いている間，前照灯が起き上がり点灯します。このとき同時に，計器内の前照灯の上向き表示灯も点灯します。

2．方向指示レバーから手をはなすと，約2秒後に前照灯は自動的に格納されます。

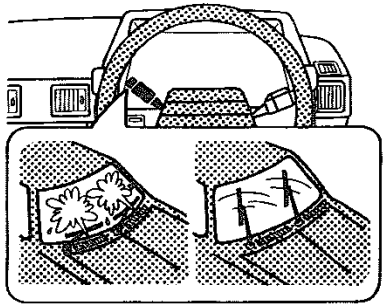
無断複製禁止

## ■方向指示レバー



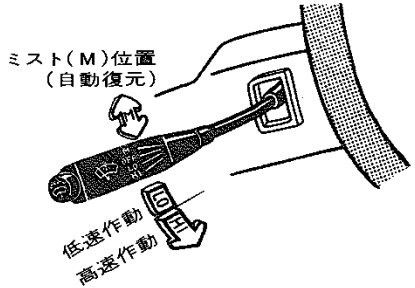

1．エンジン・スイッチがONのとき使用できます。
2．レバーを上または下へ操作すると，左または右側の方向指示灯および方向指示灯表示灯が点滅します。
3．レバーはハンドルをもどすと自動的にもどります。もどらないときは，手でもどしてください。

## ■フロント・ワイパー＆ウォッシャー・スイッチ＊

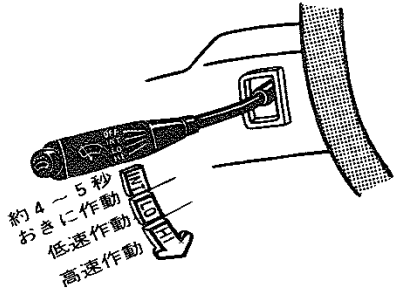


▶ワイパーの使いかた

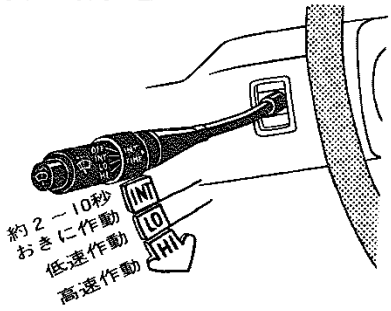
〈ミスト(霧)位置付きワイパー〉




〈間けつワイパー〉




〈間けつ時間調整式ワイパー〉




1．エンジン・スイッチがONのとき使用できます。
2．レバーを図のように操作するとワイパーが作動します。
3．各位置でのワイパーの動きは次ページの表を参照してください。

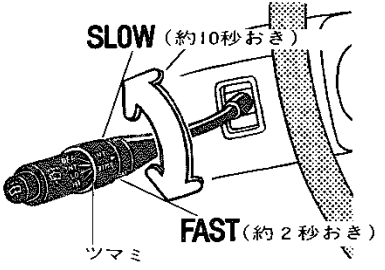
＊印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。



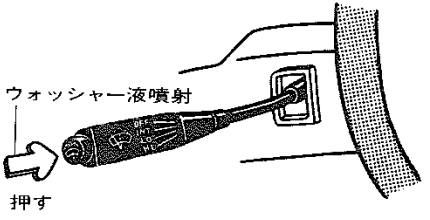
無断複製禁止

| レバー位置 | ワイパーの動き |
|---|---|
| M | レバーを押し上げている間低速作動し，手をはなすともとの位置へもどります。 |
| INT※ | 約4～5秒おきに作動 |
| LO | 低速作動 |
| HI | 高速作動 |

※間けつ時間調整式ワイパーは，INT TIMEのツマミを操作することにより，間けつ時間を約2～10秒の間で調整できます。




▶ウォッシャー液の噴射方法




1．エンジン・スイッチがONのとき使用できます。

2．レバー先端に付いているスイッチを押すとウォッシャー液が噴射されます。

3．間けつ時間調整式ワイパーは，スイッチを0.5秒以上押すとウォッシャー液を噴射し，約1秒後にワイパーが2～3回作動します。

★ウォッシャー・タンクがカラのときは，ウォッシャー・スイッチを使用しないでください。ポンプを傷めることがあります。

★からぶきはガラスを傷つけることがあります。必ず，ウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。

★ワイパーを作動させる前に，ワイパー・ゴムがガラスに張りついていないことを点検してください。ワイパー・ゴムがガラスに張りついたまま作動させるとゴムが損傷したりモーターが故障することがあります。

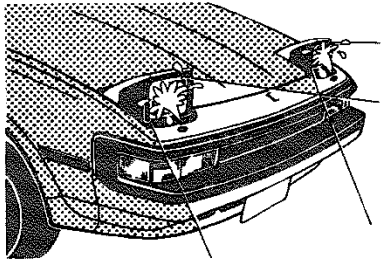
★フロント・ガラスに多量の雪が積もりそうなときは，寒冷地用のワイパーに切り替えてください。
（140ページの「寒冷地での取り扱い」の項目を参照してください。）




**寒冷時にウォッシャー液を使用するときはガラスに放射された液が凍結し，視界不良を起こすことがありますので先にウインドゥ・ガラスを暖めてください。**

無断複製禁止

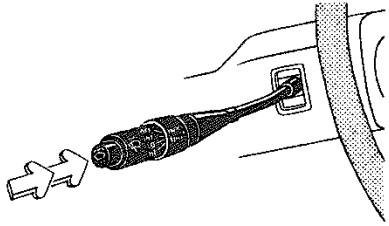
## ■前照灯クリーナー＊



前照灯に付着した泥や虫などのよごれを取ります。

1．エンジン・スイッチがONで，ライト・スイッチをONにして前照灯を点灯させたとき使用できます。

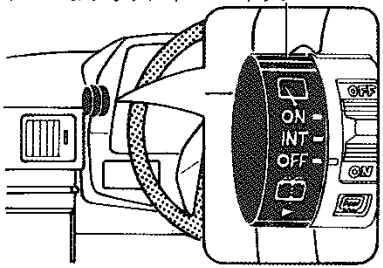
2．フロント・ウォッシャー・スイッチを1秒以内に2回続けて押すと，ウォッシャー液が約0.5秒以上噴射されます。



2回続けて押す（1秒以内に）

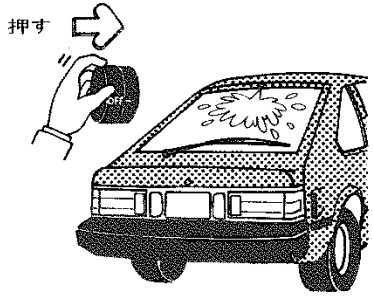
## ■リヤ・ワイパー＆ウォッシャー・スイッチ＊

ワイパー＆ウォッシャー・スイッチ

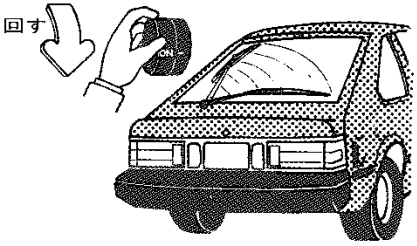



1．エンジン・スイッチがONのとき使用できます。

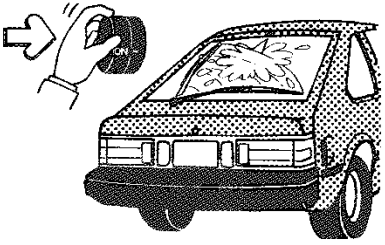
2．スイッチを押すとウォッシャー液が噴射します。




3．スイッチをINTの位置にすると約9～15秒おきにワイパーが作動し，ONの位置にすると低速作動します。ワイパー作動中でもスイッチを押せばウォッシャー液が噴射します。




ワイパー作動中でもスイッチを押すとウォッシャー液が噴射します。

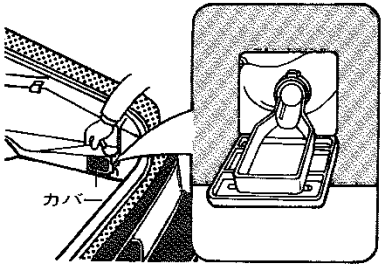




無断複製禁止

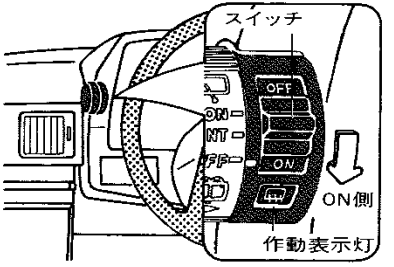
＊印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

▶リヤ・ウォッシャー・タンクの位置




デッキ・ルーム右側に取り付けてあります。カバーの裏側は，ウォッシャー液を補給するための注入口になっています。

■リヤ・ウインドゥ・ガラス曇り取りスイッチ




リヤ・ウインドゥ・ガラスが曇ったとき，ガラスの表面を暖めて，曇りを取ります。

1．エンジン・スイッチがONのとき使用できます。

▶タイマーなし

クーペ／リフトバック(GT−T,GT−TR車を除く)

スイッチをON側にすると作動し作動表示灯が点灯します。

OFF側にすると作動は停止します。

▶タイマー付き

XXとGT−T，GT−TR車

スイッチをON側にすると作動表示灯が点灯し，約18分間作動し，自動的に切れます。途中で解除したいときは，スイッチをOFF側にしてください。

★曇り取り以外には，使用しないでください。雨水の乾燥や雪などを溶かすことはできません。

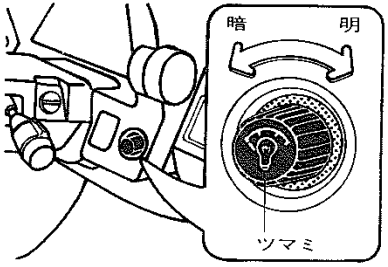
★注意

**1．リヤ・ウインドゥ・ガラスの曇りが消えたら，スイッチは必ず切ってください。曇り取り装置は消費電力が大きいので，スイッチを入れたままにしておくと，バッテリーあがりの原因になります。**

**2．熱線入りガラス（内側）の清掃は，ぬらした布で熱線にそって，軽くふいてください。ガラス・クリーナーなどは使用しないでください。**

無断複製禁止

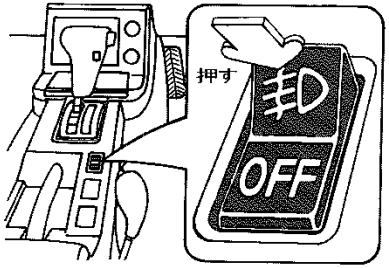
## ■計器照度調整スイッチ＊




1．ライト・スイッチがONのとき使用できます。
2．ツマミを右に回すと計器照明灯が明るくなり，左に回すと暗くなります。
3．デジタル式メーターは，ツマミを右にいっぱい回した位置にすれば，メーター内の各表示部はライト・スイッチをONにしても減光されません。

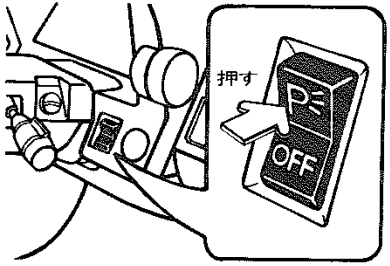
## ■フォグ・ランプ・スイッチ

XX




1．ライト・スイッチがONのとき使用できます。
2．スイッチの 印側を押すと点灯し，OFF側を押すと消灯します。

## ■駐車灯スイッチ




路上駐車時に使用します。
1．スイッチの側を押すと前後左右の駐車灯が点灯し，OFF側を押すと消灯します。

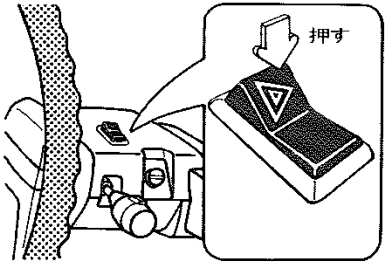
★完全充電状態のバッテリーでも長時間使用すると，バッテリーあがりを起こし，エンジンの始動ができなくなります。



無断複製禁止

＊印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

## ■非常点滅灯スイッチ




故障などで，やむをえず路上駐車する場合，他車に知らせるために使用します。

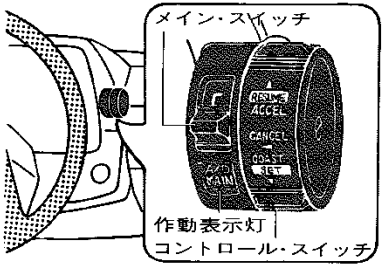
1．スイッチの⚠側を押すとすべての方向指示灯が点灯します。このとき同時に計器内にある方向指示灯表示灯も点滅します。

2．スイッチの⚠の付いていない方を押すと消灯します。

★完全充電状態のバッテリーでも長時間使用すると，バッテリーあがりを起こし，エンジンの始動ができなくなります。

★走行中，異常がないのに使用すると他車の誤解をまねき危険です。

## ■オート・ドライブ(自動定速走行装置)*




オート・ドライブは，アクセル・ペダルを踏まなくても40～100km/hの任意の速度で車速を一定に保つことができる装置です。

1．メイン・スイッチをONにすると作動表示灯が点灯し，作動待機状態になります。

▶希望速度にセットするとき

| 操作手順 | | |
|---|---|---|
| 1 | メイン・スイッチをONにする |  |
| 2 | 希望速度まで加速する | |
| 3 | コントロール・スイッチをSET側に回す |  |
| 4 | コントロール・スイッチから手をはなす | |

※40～100km/hの範囲内で使用できます。

★オート・ドライブ走行時，急な登坂路になると走行車速は設定車速より低下することがあります。
(オートマチック・トランスミッション車の場合，車速が8～12km/h以上低下すると自動的にオーバードライブは解除され，車速が設定車速の約

無断複製禁止

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

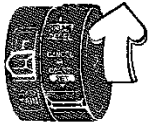
4 km/h手前になると再びオーバードライブが作動します。）

★急な降坂路になると走行車速は設定車速より超過することがあります。（マニュアル・トランスミッション車の場合には5速を4速に，オートマチック・トランスミッション車の場合にはオーバードライブ・スイッチをOFFにするなどエンジン・ブレーキを併用してください。）

▶オート・ドライブ走行中に車速変更するとき

〈増速したいとき〉

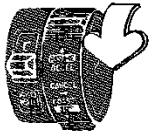
●コントロール・スイッチで

| 操作手順 | | |
|---|---|---|
| 1 | ACCEL側に回し続ける |  |
| 2 | 希望速度になったらコントロール・スイッチから手をはなす | |

急な坂道では，ACCEL側に回しても増速できないことがあります。増速できないときは，アクセル・ペダルを使って車速を変更してください。

★オートマチック・トランスミッション車の場合は1の操作をしたときに自動的にオーバードライブが解除され，増速が終了すれば再びオーバードライブ走行となります。

●アクセル・ペダルで

| 操作手順 | |
|---|---|
| 1 | アクセル・ペダルを踏み込み希望車速まで加速する |
| 3 | コントロール・スイッチをSET側に回す  |

※100km/h以上では作動しません。

〈一時的に増速したいとき〉

1．アクセル・ペダルを踏み込みます。

2．アクセル・ペダルをはなせば，設定車速まで自動的にもどり，その後定速走行を維持します。



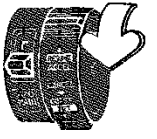
無断複製禁止

〈減速したいとき〉

●コントロール・スイッチで

| 操作手順 | | |
|---|---|---|
| 1 | COAST側に回し続ける |  |
| 2 | 希望速度になったらコントロール・スイッチから手をはなす | |

●ブレーキ・ペダルで

| 操作手順 | | |
|---|---|---|
| 1 | ブレーキ・ペダルを踏み，希望車速まで減速する | |
| 2 | コントロール・スイッチをSET側に回す |  |

※40km/h以下ではセットできません。

▶オート・ドライブ状態を解除するとき

メイン・スイッチをOFFにすればオート・ドライブの全作動を停止，解除できます。また次の場合は自動的に解除されます。

①コントロール・スイッチを内側に押したとき

②ブレーキ・ペダルを踏んだとき

③チェンジ・レバーをⓃにしたとき（オートマチック・トランスミッション車）

④クラッチ・ペダルを踏んだとき（マニュアル・トランスミッション車）

⑤車速が40km/h以下になったとき

⑥急な登坂路などで，セットしたときの車速より大幅に車速が低下したとき

〔例〕100km/hでオート・ドライブ走行中車速が75km/h以下になったような場合

▶解除前の設定速度にもどしたいとき

前記の①，②，③，④の方法で一度オート・ドライブが解除されても，車速が40km/h以上であればコントロール・スイッチをRESUME側に回すことにより，解除される前の設定車速まで自動的にもどり，その後定速走行を維持します。なお，一度車速が40km/h以下になるとコントロール・スイッチを操作しても解除前の設定車速にはもどりません。

★注意

1．オート・ドライブを使用しないときは，安全のためメイン・スイッチをOFFにしておいてください。

2．マニュアル・トランスミッション車の場合，オート・ドライブ走行中クラッチ・ペダルを踏まずにチェンジ・レバーをⓃの位置にしないでください。

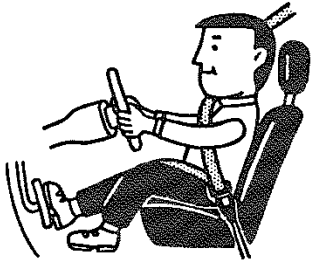
3．下記のような道路状況では，安全のためオート・ドライブは使用しないでください。

- 交通量の多い道路
- 急カーブ
- 凍結路
- 積雪路

無断複製禁止

# シートの調整

■フロント・シート



正しい姿勢で運転ができるように，下記事項に注意して調整します。

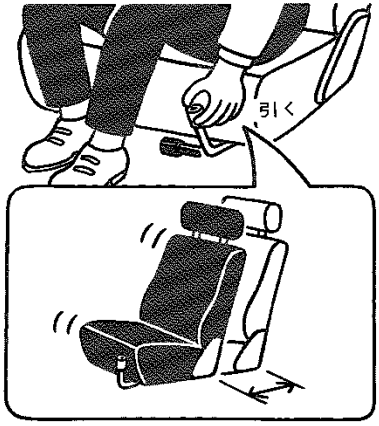
- ペダルが十分踏み込めること
- ハンドル操作が楽にできること

☆注意

**1．調整は，必ず走行前に行なってください。**

**2．調整後，シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを，確認してください。**

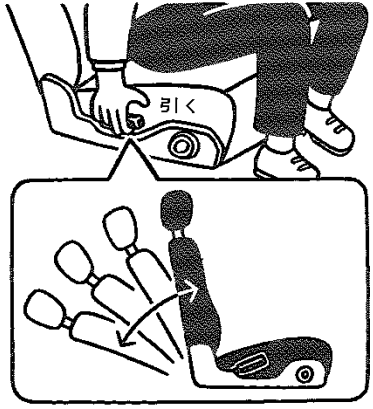
▶前後位置調整




1．レバーを引き上げている間，前後の位置調整ができます。

2．調整後，シートを軽くゆさぶり，確実に固定されていることを確認します。

▶リクライニング(背もたれ角度)調整




1．レバーを引き上げて，背もたれを背で押すと角度の調整ができます。

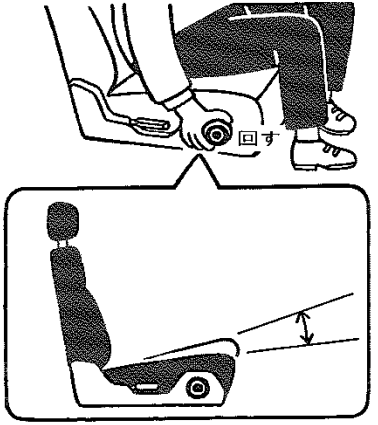
2．もどすときは，背もたれから背をはなし，レバーを引くと背もたれが起き上がります。

3．調整後，背もたれを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。



無断複製禁止

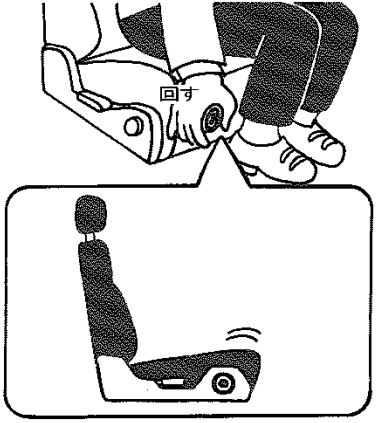
▶バーチカル・アジャスタ（シート・クッション前部の高さ調整）＊




1．ハンドルを前に回すとシート・クッション前部が下がり，うしろに回すと上がります。

▶サイ・サポート・アジャスタ(シート・クッション先端部の硬さ調整)

スポーツ・シート車＊




1．ハンドルを左に回すとシート・クッション先端部が軟かくなり，右に回すと硬くなります。

▶サイド・サポート・アジャスタ（背もたれ両側のクッション位置調整）

スポーツ・シート車＊




1．ハンドルをうしろに回すとクッションが外側に，前に回すと内側に移動します。

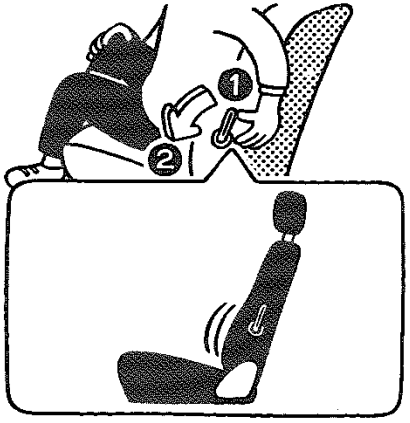
無断複製禁止

＊印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

▶ランバー・サポート（背もたれ腰部当たり調整）＊

〈機械式〉

スポーツ・シート車を除く

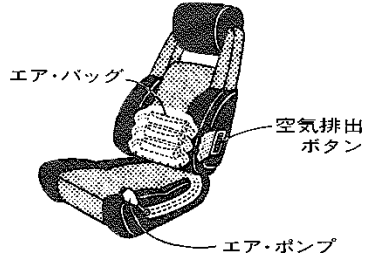



1．レバーを❶～❷へ動かすと背もたれの腰部の硬さがかわります。

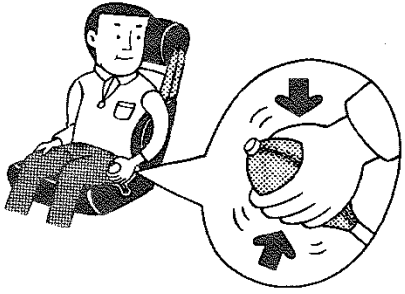
2．1の操作を繰り返すことにより，硬さを3段階まで調整できます。

〈空気式〉

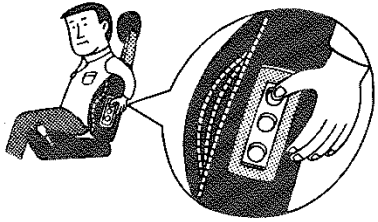
スポーツ・シート車




1．エア・ポンプをにぎってエア・バッグ内に空気を入れます。



2．腰部の当たりが強すぎる場合は，強すぎる部分の空気排出ボタンを押して空気を抜きます。
空気排出ボタンを押している間，空気が抜けます。



3．2の操作で空気を抜きすぎたときは，1の操作からやりなおしてください。



無断複製禁止

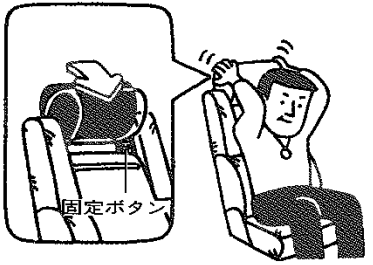
＊印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

## ▶ヘッド・レスト＊

前後・上下調節式

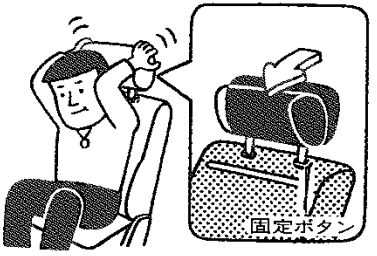
ヘッド・レストの高さが耳の後方になるように調節してください。
また，ヘッド・レストと頭の間をにぎりこぶし以上あけないでください。

〈スポーツ・シート車〉



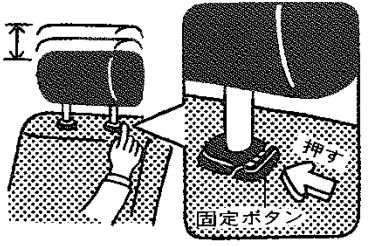

1．上げるときは，ヘッド・レストを持ち上げるようにして引き上げます。
2．下げるときは，固定ボタンを押しながらヘッド・レスト上部を押します。
3．前後位置は3段階に調節ができます。ヘッド・レスト上部を前方に動かすとカチッという音がし，その位置で手をはなせば固定されます。後方にもどすときは，一度前方に止まるまで引いて手をはなします。

〈標準シート車〉




1．上げるときは，ヘッド・レストを持ち上げるようにして引き上げます。
2．下げるときは，固定ボタンを押しながらヘッド・レスト上部を押します。
3．前後位置は5段階に調節ができます。ヘッド・レスト上部を前方に動かすとカチッという音がし，その位置で手をはなせば固定されます。後方にもどすときは，一度前方に止まるまで引いて手をはなします。

上下調節式




1．上げるときは，ヘッド・レストを持ち上げるようにして引き上げます。
2．下げるときは，固定ボタンを押しながらヘッド・レスト上部を押します。

★注意

**1．正しい位置で使用しないと危険防止に役立ちません。**
**2．背もたれと背中の間にクッションなどを入れると危険防止に役立ちません。**

無断複製禁止

＊印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

## ■リヤ・シート

### ▶リヤ・シートへの乗り降り

1．助手席のリクライニング調整レバーを引き上げるか，またはうしろ下側のレバーを押すと背もたれが倒れ，シートが自動的に前へ移動します。



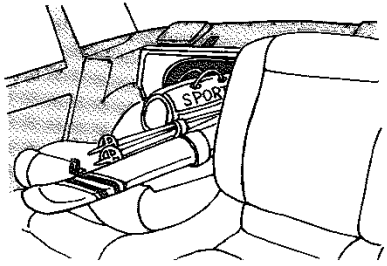
2．助手席をもとにもどすときは，背もたれを起こしてシート全体を後方へ押すと，中央の位置で固定されます。

3．シートをゆさぶり，確実に固定されていることを確認します。

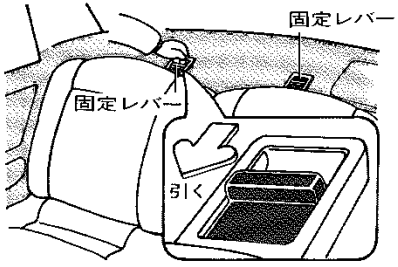
### ▶分割式前倒れシート＊

クーペ

リヤ・シートの背もたれを前方に倒せば長い物(スキー板など)を積むことができます。また，室内からトランク内の荷物を取り出すこともできます。




1．左側背もたれ固定レバーを手前に引くとロックがはずれ，左側背もたれを前に倒すことができます。右側背もたれも同様に倒すことができます。




2．背もたれを起こすときは，持ち上げてうしろに押え付けると自動的に固定されます。

3．背もたれを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

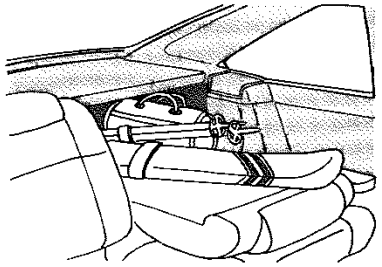


無断複製禁止

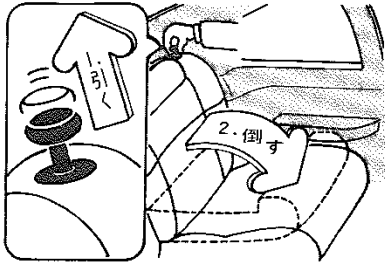
＊印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

リフトバック，XX

リヤ・シートの背もたれを前方に倒すと，長い物(スキー板など)も積むことができます。



1．左側背もたれ固定用ボタンを上側にいっぱい引き，左側背もたれを前に倒します。
右側背もたれも同様に倒すことができます。




2．背もたれを起こすときは，持ち上げてうしろに押し付けると自動的に固定されます。

3．背もたれを軽く前後にゆさぶり，確実に固定されていることを確認します。

# シート・ベルトの装着

ドライバーと同乗者の安全を守るために，シート・ベルトが装備されています。シート・ベルトは正しく装着しないと効果が半減したり，危険な場合があります。次の使用方法，注意にしたがってシート・ベルトの正しい取り扱いを身につけてください。

★走行前に必ずシート・ベルトを装着してください。

★腰部ベルトは，必ず腰骨の位置に装着してください。軟らかい腹部にかけると万一のとき強い圧迫をうけ危険な場合があります。

無断複製禁止

## ■フロント・シート・ベルト

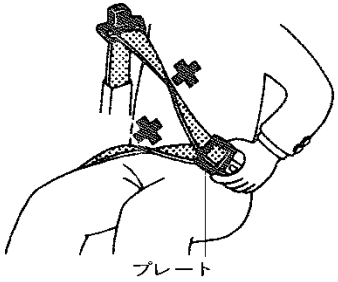
### ▶ELR付き（緊急時固定式）3点式シート・ベルト

シート・ベルトは身体の動きに合わせて伸縮しますが強い衝撃で身体が前に倒れそうなときには，ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

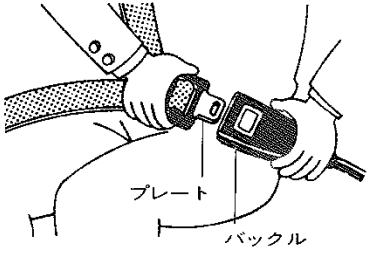
〈装着のしかた〉

1．シートを調整し，正しい姿勢ですわります。

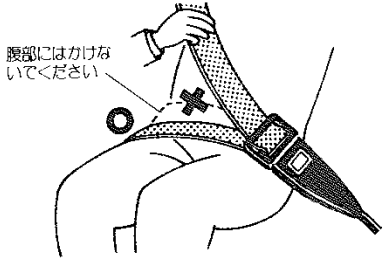
2．巻き取り装置からプレートを持ってゆっくり引き出し，ねじれていないことを確かめます。




3．プレートをカチッと音がするまで確実にバックルに差し込みます。

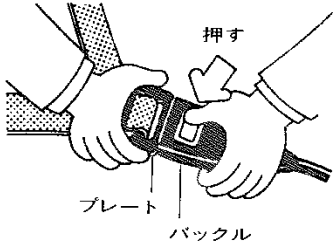



4．腰部ベルトは必ず腰骨の位置にかかるようにします。




〈取りはずしかた〉

1．バックルのボタンを押すとはずれます。




2．プレート側のベルトは自動巻き取り式ですので，ベルトをはずすと自動的に格納されます。

3．ベルトが自動的に格納されないときは，いったんベルトを引き出し，ねじれなどがないことを確かめます。ベルトを手に持ちながらゆっくり巻き取らせてください。



無断複製禁止

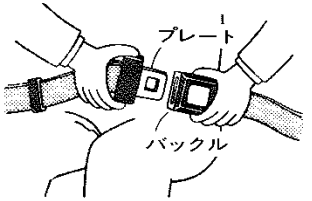
## ■リヤ・シート・ベルト

### ▶長さ調整式2点式シート・ベルト

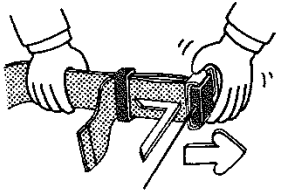
〈装着のしかた〉

1．正しい姿勢ですわります。

2．ベルトがねじれていないことを確かめてから，プレートをカチッと音がするまで確実にバックルに差し込みます。

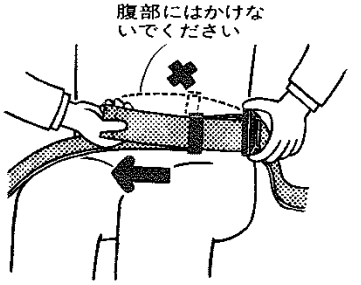



ベルトが短いときは，プレート側のベルトを下図の要領で伸ばします。

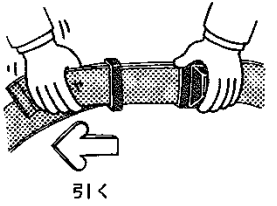


プレートとベルトを直角にしてプレートを引っ張ります。

3．ベルトは必ず腰骨の位置にかかるようにします。

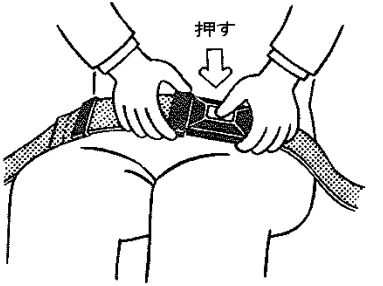



下図のようにプレート側のベルトを引いてベルトのゆるみをなくします。




〈取りはずしかた〉

1．バックルのボタンを押すとはずれます。




2．はずしたベルトは，プレートをバックルにはめておいてください。

無断複製禁止

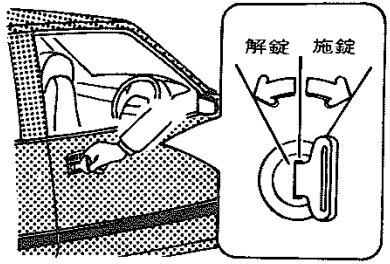
★注意

1．フロント・シート・ベルトを装着した状態で，肩ベルトが首，あご，顔などに当たるようなお子様の場合は，万一のとき危険ですからリヤ・シートにすわり，リヤ・シート・ベルト（２点式）を装着してください。
また，１人ですわることのできない乳幼児の場合は，シート・ベルトを使用しないでください。
2．ベルトは１人用です。２人以上で１本のベルトを使用しないでください。
3．妊娠中の女性や疾患のある方のシート・ベルト装着は，万一の場合腹部などに強い圧力を受けるおそれがありますので医師に相談のうえご使用ください。
4．ベルトのよごれは，中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使いブラシをかけて落としてください。薬剤などを使用するとベルトが弱くなり，万一のとき正常な働きをしないことがあります。
5．ベルトをドアなどではさまないようにしてください。万一のとき正常な働きをしないことがあります。
6．ベルト各部の損傷，作動状態を点検してください。
ほつれ，すり切れができたり，金具部などが正常に作動しなくなった場合は，ベルトを交換してください。

# 車体各部の開閉

## ドア

### ▶キーを使用しての施錠・解錠




前に回すと施錠，うしろに回すと解錠になります。

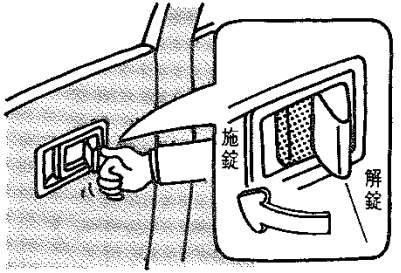


無断複製禁止

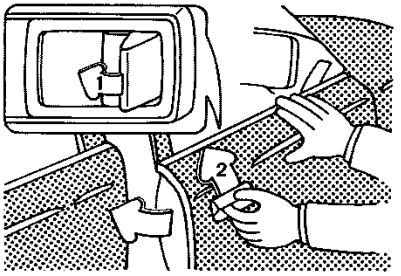
### ▶キーを使用しないときの施錠・解錠

〈施錠〉

1．車内からは，施錠レバーを押すと施錠できます。

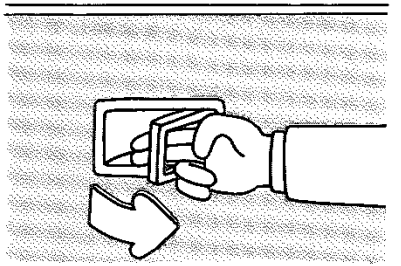



2．車外からは，施錠レバーを押し，ドア・ハンドルを引き上げたままドアをしめます。




〈解錠〉

1．車内からは，施錠レバーを引き出し，ドア・レバーを引くとドアがひらきます。ただし，電磁式ドア施錠装置付き車の運転席側ドアは，施錠レバーが押し込まれたままでもドア・レバーを引くとドアがひらきます。



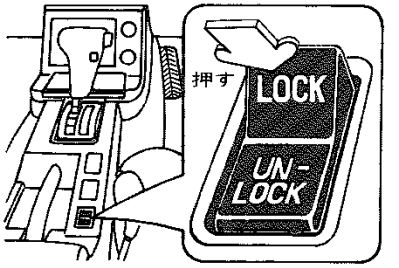
★注意

**1．車からはなれるときは，エンジンを止め，ドアを必ず施錠してください。法的にも義務づけられています。**

**2．ドアをしめたときは，確実にしまっていることを確認してください。半ドアは危険です。**

**3．車からはなれるときは，車内に貴重品を置いたままにしないでください。**

### ■電磁式ドア施錠装置＊




スイッチで全ドアの施錠・解錠が行なえます。

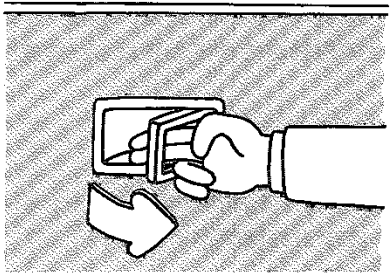
1．エンジン・スイッチに関係なく使用できます。

2．スイッチのLOCK(施錠)側を押すと全ドアが施錠され，UNLOCK(解錠)側を押すと助手席のドアが解錠されます。

無断複製禁止

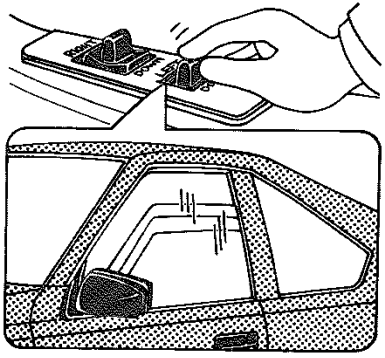
＊印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

3．運転席のドアは，ドア・レバーを引くとドア・ロックが解錠され，ドアがひらきます。



★スイッチを押し続けると作動しないことがあります。作動しないときは，いったんスイッチから指をはなし，押しなおしてください。

■電動ウインドウ＊



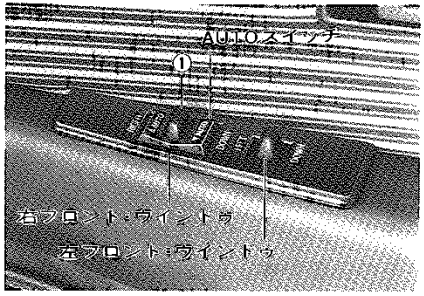
スイッチでウインドウ・ガラスの開閉が行なえます。

1．エンジン・スイッチがONのとき使用できます。

★ウインドウ・ガラスの開閉は，バッテリーあがりを防ぐため，エンジンがかかっているときに行なってください。

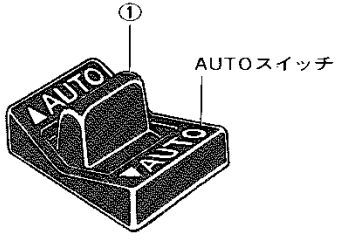
XX

〈運転席スイッチ〉




全ドアのウインドウ・ガラスの開閉が行なえます。

1．運転席ドアのウインドウ・ガラスは自動的に全開，全閉をすることもできます。




●AUTOスイッチの前側を押すと指をはなしても全閉，うしろ側を押すと



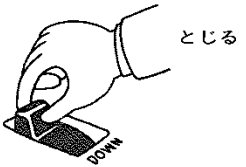
無断複製禁止

＊印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

指をはなしても全開します。途中で止めたいときは，①のスイッチを逆方向に押してすぐ指をはなすと停止します。

●①のスイッチを前側に押している間とじ，うしろ側に押している間ひらきます。スイッチから指をはなすと，その位置で停止します。

2．助手席のウインドゥ・ガラスの開閉は

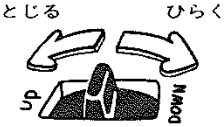






※スイッチから手をはなすと，ウインドゥ・ガラスの作動は停止します。

〈助手席スイッチ〉




※スイッチから手をはなすと，ウインドゥ・ガラスの作動は停止します。

★注意

**1．ウインドゥ・ガラスをとじるときに，手などをはさまないよう注意してください。**

**2．運転席スイッチと他のスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。**

▶キーOFF作動装置について

降車時，ウインドゥ・ガラスをしめ忘れたときに，もう一度エンジン・スイッチをONにしなくても，電動ウインドゥの作動ができるようにした装置です。

〈使いかた〉

1．運転席ドアをあけます。

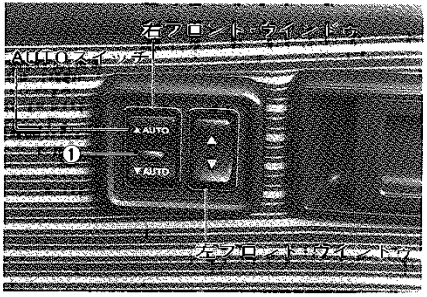
2．スイッチを操作するとウインドゥ・ガラスの開閉ができます。

★運転席ドアを一度とじると，スイッチ操作をしても，ウインドゥ・ガラスの開閉はできません。

無断複製禁止

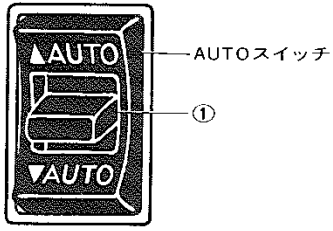
クーペ／リフトバック

〈運転席スイッチ〉




全ドアのウインドゥ・ガラスの開閉が行なえます。

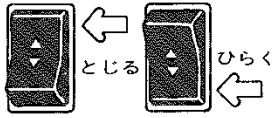
1．運転席ドアのウインドゥ・ガラスは自動的に全開，全閉をすることもできます。




●AUTOスイッチの上側を押すと指をはなしても全閉，下側を押すと指をはなしても全開します。途中で止めたいときは，①のスイッチを逆方向に押してすぐ指をはなすと停止します。

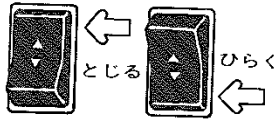
●①のスイッチを上側に押している間とじ，下側に押している間ひらきます。スイッチから指をはなすと，その位置で停止します。

2．助手席のウインドゥ・ガラスの開閉は




※スイッチから手をはなすと，ウインドゥ・ガラスの作動は停止します。

〈助手席スイッチ〉




※スイッチから手をはなすと，ウインドゥ・ガラスの作動は停止します。

★注意

**1．ウインドゥ・ガラスをとじるときに，手などをはさまないよう注意してください。**

**2．運転席スイッチと他のスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。**

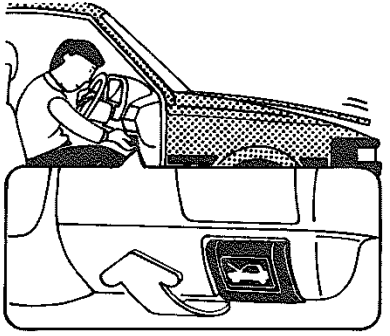


無断複製禁止

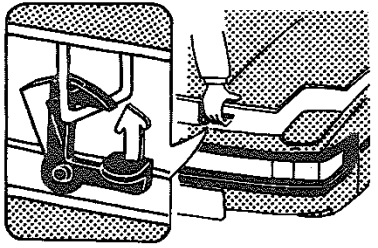
## ボンネット

### ▶あけかた

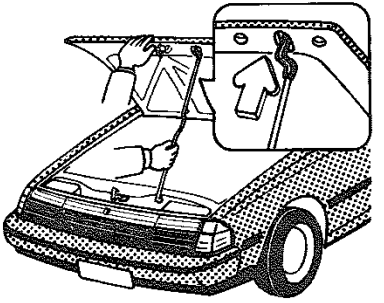
1．計器盤右下に付いているレバーを引くと，ボンネットが少し浮き上がります。



2．ボンネットのすき間に手を入れ，ボンネット・ロックをはずしてボンネットをいっぱいあけます。



3．クーペ，リフトバックはボンネット・ステーでボンネットを固定します。

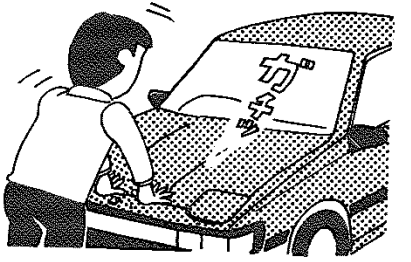


★風の強いときにボンネットをあけると風にあおられ危険な場合があります。十分注意してあけてください。

### ▶とじかた

1．クーペ，リフトバックはボンネットを手でささえ，ボンネット・ステーをはずします。

2．ボンネットをとじ，前端をガチッという音がするまで押え付けるとロックされます。




3．ボンネット先端を持ち上げてガタついていないことを確認してください。

★注意

**ボンネットが確実にロックしていないままで走行すると非常に危険です。走行前に，確実にロックしていることを確認してください。**

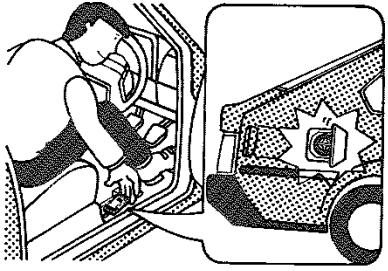
無断複製禁止

## ■燃料タンク・キャップ

### ▶カバーのあけかた

〈車内から〉—燃料補給口オープナーで

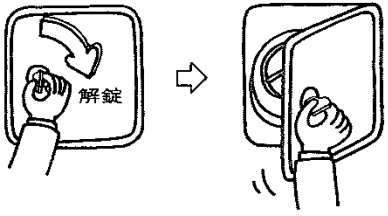
SV車を除く



1．運転席右下のレバーを引き上げるとカバーがひらきます。

〈車外から〉—キーを使用して

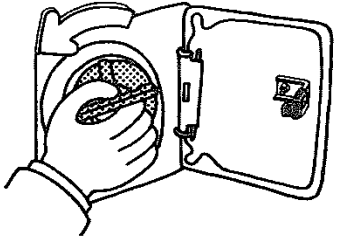
クーペ／リフトバック



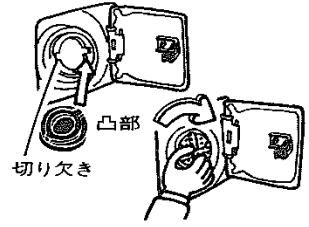

1．キーを差し込み右に回したまま手前に引くとひらきます。

### ▶キャップについて

1．キャップは左に回して手前に引くとはずれます。



2．燃料の補給が終わったら，キャップの凸部を燃料補給口の切り欠きに合わせて差し込み，右にいっぱい回してください。




★注意

**燃料補給のときは，必ずエンジンを停止してください。**

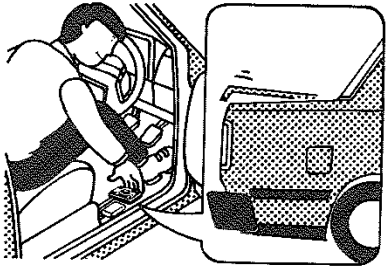
## ■トランク

クーペ

### ▶あけかた

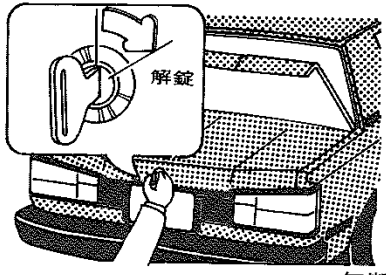
〈車内から〉—トランク・オープナーで

SV車を除く



1．運転席右下のレバーを引き上げるとトランクがあきます。

〈車外から〉—キーを使用して



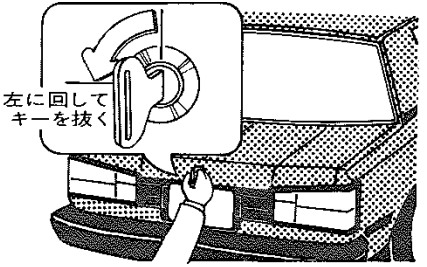



無断複製禁止

1．キーを差し込み右に回すとあきます。
2．サブ・キーであけることはできません。

▶とじるとき
上から手で押えつけてロックします。

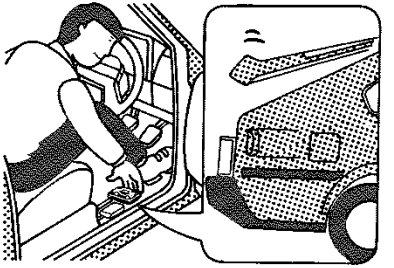
▶トランクに貴重品がはいっているとき
1．キーを差し込み左に回して，キーを抜くとトランク・オープナーであけることができません。




2．盗難防止のため，駐車場などでキーを預けるときはサブ・キーを渡してください。

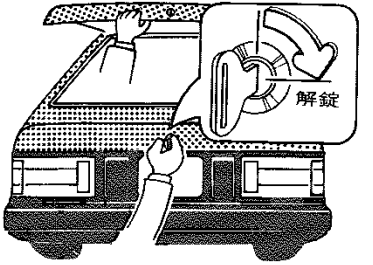
■バック・ドア
リフトバック，XX

▶あけかた
〈車内から〉—バック・ドア・オープナーで
SV車を除く



1．運転席右下にあるレバーを引き上げるとバック・ドアがあきます。

〈車外から〉—キーを使用して
1．キーを差し込み右に回すと解錠できます。

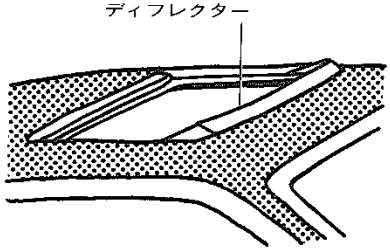



2．バック・ドアを持ち上げるとあきます。
★いっぱい持ち上げて降下しないことを確認してください。
3．デッキ・ルーム灯のスイッチがONにしてあれば，バック・ドアをあけるとデッキ・ルーム灯が点灯します。

▶とじかた
1．バック・ドアをおろして押え付けます。
★とじるときに，他の人の手などをはさまないよう注意してください。
2．とじると，デッキ・ルーム灯が消灯します。
3．バック・ドアを軽くゆさぶり，確実にロックしていることを確認します。

無断複製禁止

## ■サン・ルーフ ＊



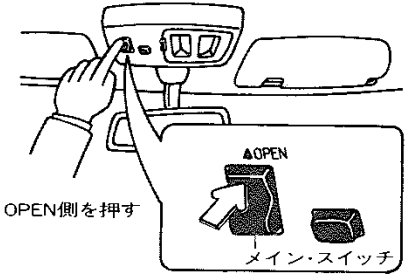

スイッチでサン・ルーフの開閉が行なえます。

1．エンジン・スイッチがONのとき使用できます。

2．万一，スイッチを押しても動かない場合は，手動で操作することができます。
（64ページの▶スイッチを押しても作動しないときを参照してください。）

▶あけるとき

1．メイン・スイッチのOPEN側を押します。

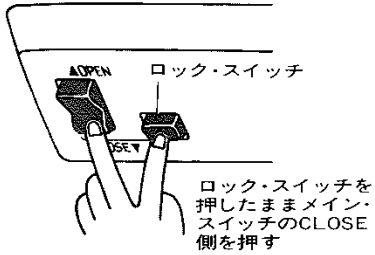



2．メイン・スイッチから手をはなすと停止します。

3．サン・ルーフをあけると，室内への風の巻き込みを防ぐディフレクター（整流板）が自動的に上がります。

▶とじるとき

1．ロック・スイッチを押したまま，メイン・スイッチのCLOSE側を押します。




★とじるとき，手などをはさまないよう十分注意してください。

2．メイン・スイッチから手をはなすと停止します。

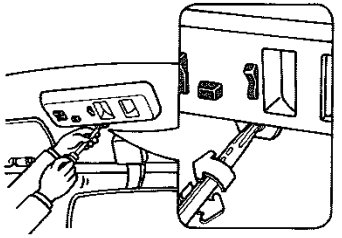


無断複製禁止

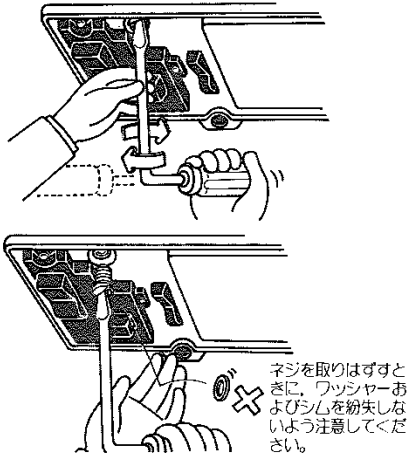
＊印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

▶スイッチを押しても作動しないとき

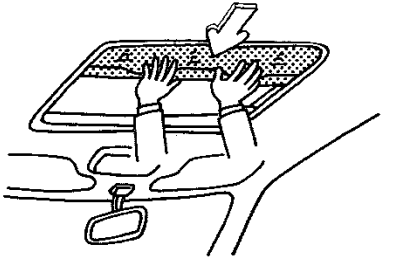
1．スイッチのカバーを⊕ドライバーで取りはずします。



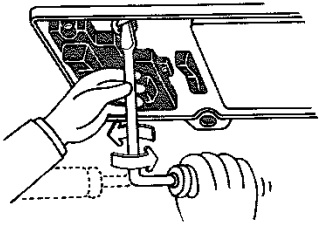
2．駆動軸下部のネジをサン・ルーフ用⊖ドライバーで取りはずします。




3．手でサン・ルーフをディフレクターの近くまで動かします。



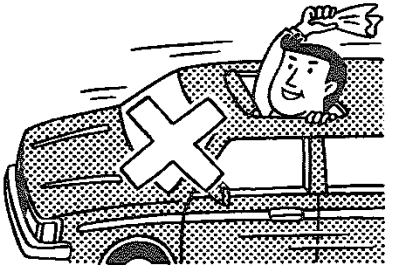
4．サン・ルーフ用⊖ドライバーで駆動軸を回し，完全にとじます。



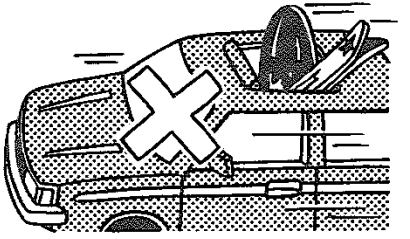
★注意

**1．サン・ルーフが全開，全閉したときは，スイッチから手をはなしてください。押し続けると故障の原因になります。**

**2．走行中は危険ですから，開口部から頭や手などを出さないでください。**

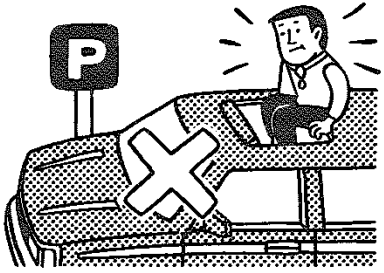


**3．開口部から荷物がはみでないようにしてください。**

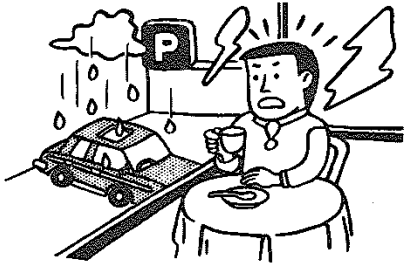


無断複製禁止

4．開口部に腰かけないでください。



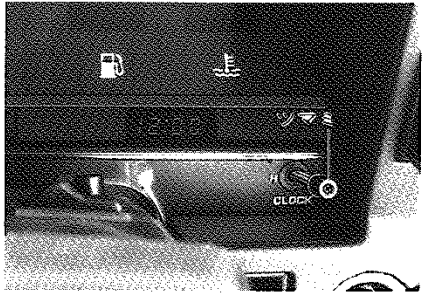

5．車からはなれるときや洗車時には，完全にとじていることを確認してください。




# 室内装備の使い方

## ■時計＊

▶水晶式デジタル




1．エンジン・スイッチがACCまたはONの位置のときに時刻が表示されます。

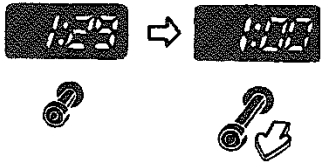
2．エンジン・スイッチをLOCKの位置にすると表示は消えますが，時計はそのまま作動しています。

3．ライト・スイッチがONのときは減光して表示されます。

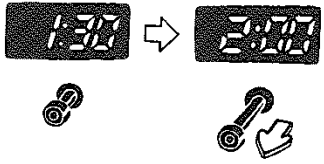
〈時報に合わせるとき〉

調整ツマミを手前に引っ張ると同時に，時刻は下記のように訂正されスタートします。

● 0 ～29分は切り下げて表示されます。



● 30～59分は切り上げて表示されます。



〈〝時〟〝分〟調整〉

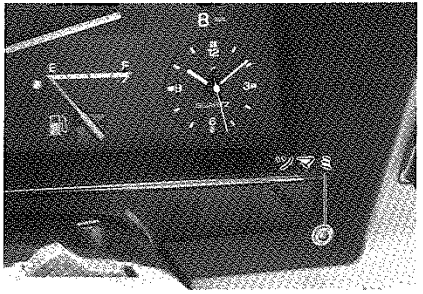
調整ツマミを押したまま左へ回すと〝時〟表示，右へ回すと〝分〟表示が早送りされます。



無断複製禁止

＊印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

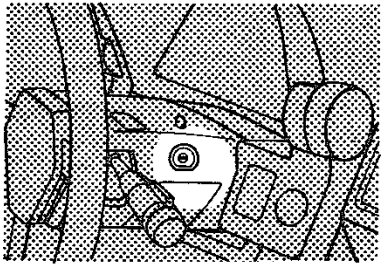
▶水晶式三針




時刻調整は，ツマミを引いたまま回します。

■エンジン・キー照明

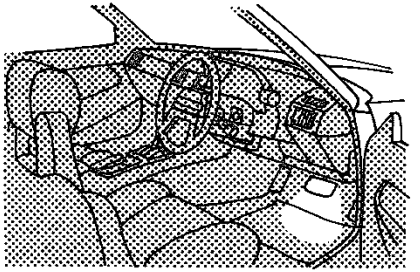
GT-R，SX，GT-TR車



運転席ドアをあけるとエンジン・キー照明が点灯します。ただし，ドアをとじてから約5秒後に消灯します。

■足元照明

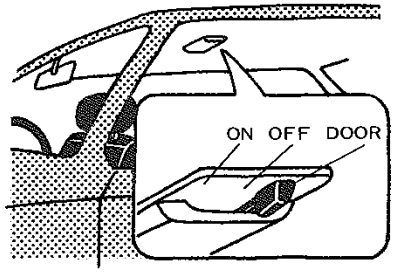
G，2000GT，2800GT車



運転席ドアをあけると足元照明が点灯します。ただし，ドアをとじてから約5秒後に消灯します。

無断複製禁止

## ■室内灯




**ON**……ドアの開閉に関係なく点灯します。

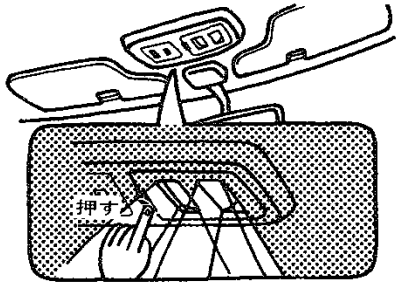
**OFF**……ドアの開閉に関係なく消灯します。

**DOOR**……ドアをあけたとき点灯し，とじると消灯します。

★エンジン停止時，室内灯を長時間点灯したままにしておくとバッテリーあがりを起こすおそれがあります。

## ■スポット・ライト

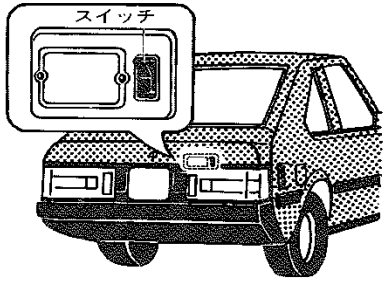
サン・ルーフ付き車




スイッチを押すとライトが点灯します。

## ■デッキ・ルーム灯

リフトバック，XX




バック・ドアうしろ側にあります。スイッチを押してONにしておくとバック・ドアをひらいたときのみ点灯します。

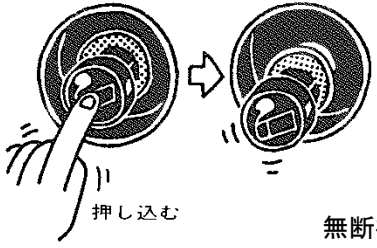
★エンジン停止時，デッキ・ルーム灯を長時間点灯したままにしておくとバッテリーあがりを起こすおそれがあります。

## ■シガレット・ライター




1．エンジン・スイッチがＡＣＣまたはＯＮのとき使用します。

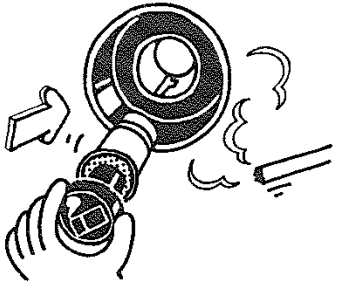
2．ツマミを押し込んだら，すぐ手をはなし，とび出すまで待ちます。






無断複製禁止

3．使用後，ソケットに確実に差し込みます。



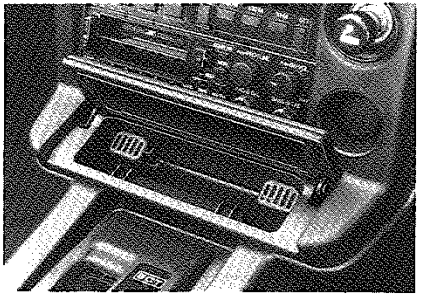
★注意

1．シガレット・ライターが過熱し，非常に危険なことがありますので次のことを厳守してください。
- 押えつけたままにしない。
- 他車のシガレット・ライターをソケットに差し込まない。

2．ソケットからは，湯わかし器など，トヨタ純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。

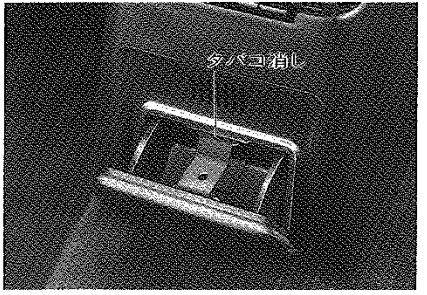
■灰皿

▶フロント側



掃除するときは，灰皿のフタをとじ，上に引き上げると取りはずせます。

▶リヤ側



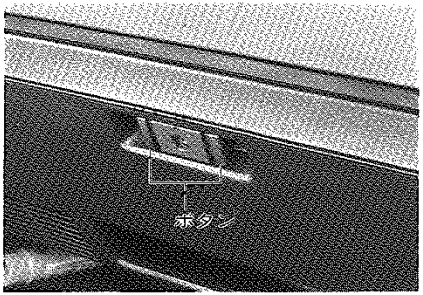

掃除するときは，タバコ消しを押さえたまま手前に引いて取りはずします。

★注意

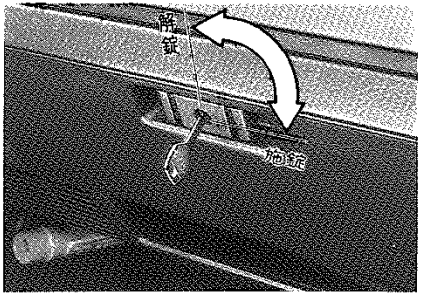
1．マッチ，タバコなどの火は消してから灰皿の中に入れてください。
2．灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。
3．使用後は確実にしめてください。あけたままにするとタバコの火が他の吸いがらに燃えひろがり火災になるおそれがあります。

無断複製禁止

## ■グローブ・ボックス(小物入れ)




1．ボタンを押すとひらきます。




2．キーを差し込んで右へ回し，キーを抜くと施錠できます。サブ・キーは使用できません。

★注意

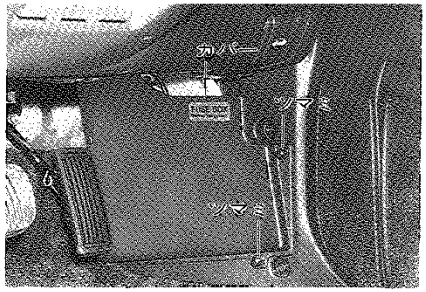
**グローブ・ボックスをあけたまま走行すると危険です。必ずしめてください。**

▶グローブ・ボックス・ランプ

ＳＶ車を除く

ライト・スイッチがＯＮのときに，フタをあけるとグローブ・ボックス内のランプが点灯します。

## ■車検証＆取扱書入れ




運転席足元に備え付けてあります。

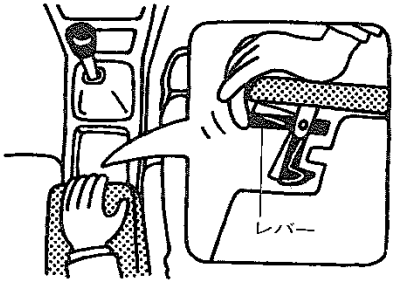
1．ツマミを引っ張り，カバーを手前に引くとひらきます。

2．とじるときは，ツマミを押し込んで確実にロックしてください。



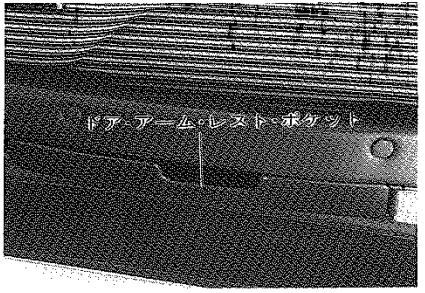
無断複製禁止

## ■フタ付きコンソール・ボックス（小物入れ）＊




レバーを引くとフタをあけることができます。

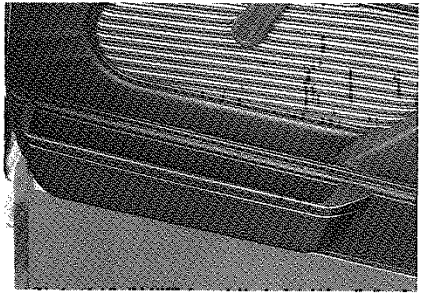
## ■ドア・アーム・レスト・ポケット＊



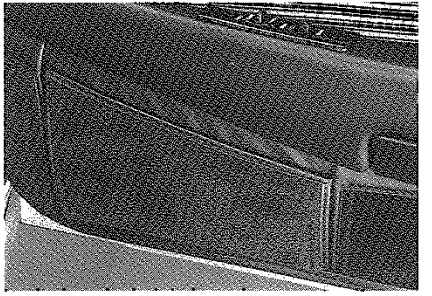

アーム・レストの中に地図などを入れることができます。

## ■ドア・ポケット＊

クーペ／リフトバック

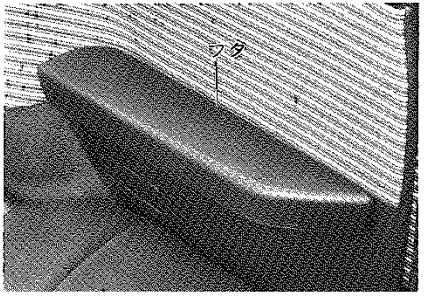


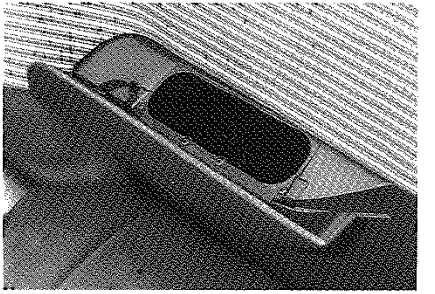
XX



ドア前方に備え付けてあります。

## ■ポケット付きリヤ・アーム・レスト＊



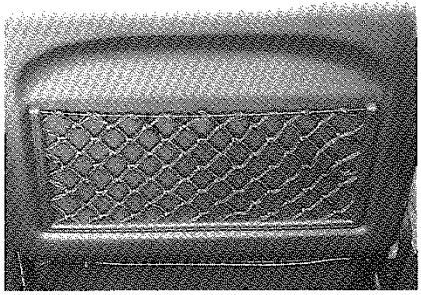



フタをあければ缶ジュースなどを入れることができます。

無断複製禁止

＊印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

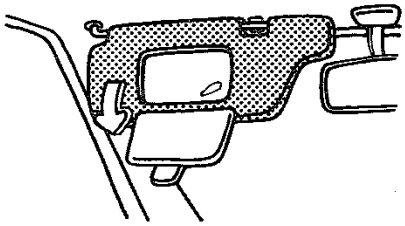
### ■背もたれポケット＊



背もたれの裏側に付いています。
地図や雑誌などを入れるのに便利です。

### ■バニティ・ミラー(化粧ミラー)

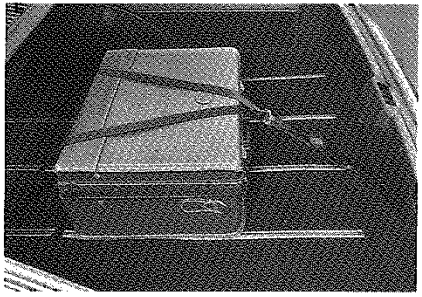
SX，G，2000GT，2800GT車



助手席サン・バイザーの裏側にミラーがついています。

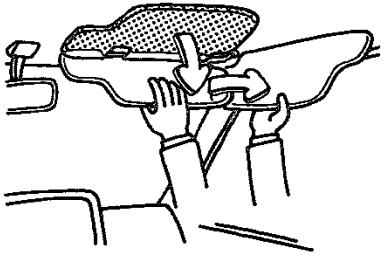
### ■荷物固定ベルト

リフトバック，XX



長い物および移動しやすい荷物を固定するのに便利です。急停車などのとき荷物が移動せず安全です。
長さを調整することもできます。

### ■サン・バイザー(日よけ)



直射日光などで眩しいときに使用します。フックからはずせば，側面に回すこともできます。

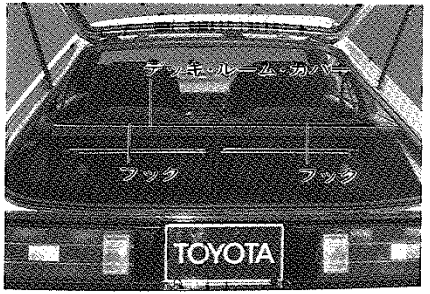


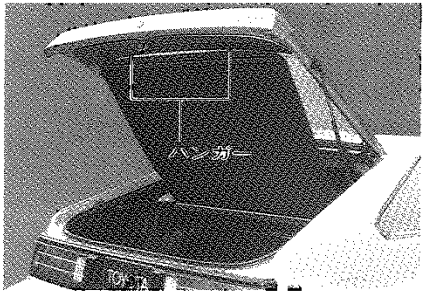
無断複製禁止

＊印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

## ■デッキ・ルーム・カバー＊

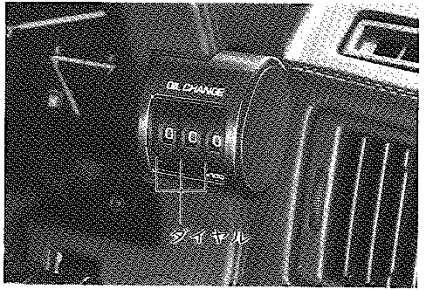
リフトバック，XX




スプリングによって巻き込まれているカバーを引き出してバック・ドア側のハンガーに引っかけます。
積載された荷物などウインドゥ越しに見えるのを防ぎます。
ハンガーからはずせばもとの格納位置に巻き取られます。

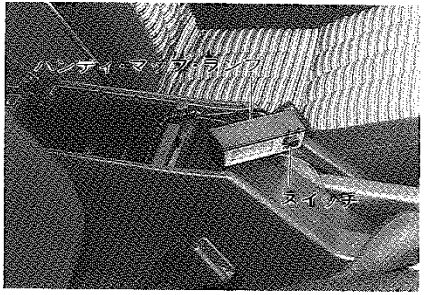
## ■メモライザー＊




オイル交換時の走行距離などをダイヤルを回しておぼえておくことができます。

## ■ハンディ・マップ・ランプ

XX




フタ付きコンソール・ボックス内に収納されており，約80cmの範囲内で自由に取り出して使えます。
ライト・スイッチがＯＮのとき，スイッチを押すと点灯し，もう一度押すと消灯します。

無断複製禁止

＊印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

## ■クルーズ・コンピューター(走行情報表示装置) 2800GT車に注文装備

クルーズ・コンピューターは次の情報を提供します。

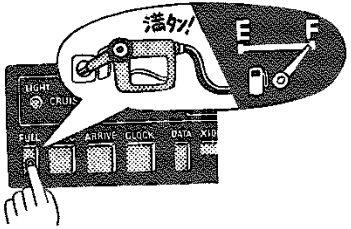
- 航続距離(残り燃料で走行できる距離)
- 消費した燃料の量
- 目的地への到着推定時刻
- 目的地までの残り距離
- 時計

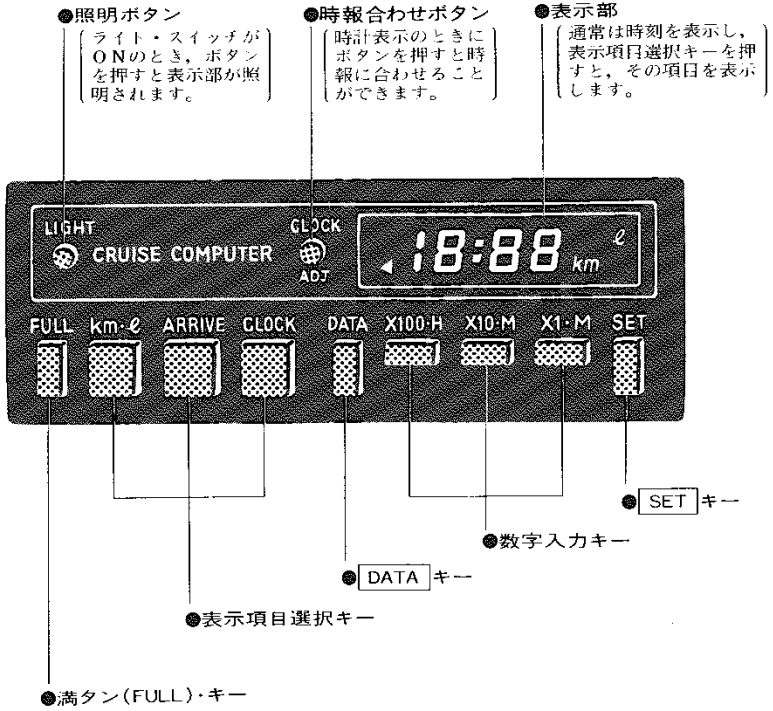
1．エンジン・スイッチがONまたはACCのときに作動します。

★エンジンを止めて長時間ＡＣＣのままにしておくとコンピューターが作動し続け，バッテリーあがりの原因になります。

★バッテリーを一度はずすと，コンピューターに記憶されている情報は消滅します。

2．燃料を満タンに補給したときは必ず満タン(FULL)・キーを3秒以上押してください。



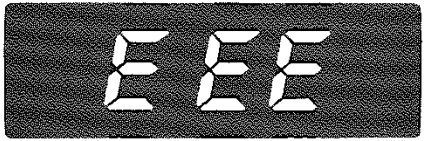






無断複製禁止

〈エラー表示〉

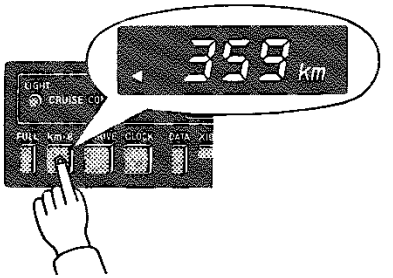
操作手順を間違えたときや必要な情報を入力しなかったときには，表示部が下図のようになります。



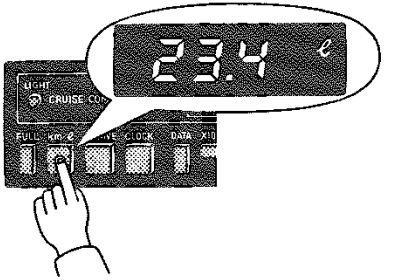

この場合は，もう一度表示項目選択キーを押して最初からデータを入れなおしてください。

▶航続距離および消費した燃料の量を知りたいときは

1．km•ℓ キーを押します。
航続距離が表示されます。




2．もう一度 km•ℓ キーを押します。




満タン・キーを押した時点から後の消費燃料量を表示します。

★新車を受け取った際に，航続距離として表示される数字は，正しい数値を示していないことがあります。燃料を満タンにし，満タン・キーを押してからご使用ください。これによりコンピューターが燃料残量，燃費率などからあと何km走行できるかを計算します。

★表示される航続距離は，運転方法，道路状況などにより増減することがあります。

★消費燃料の数値が表示されるのは，燃料を0.1ℓ以上消費した時点からです。

★注意

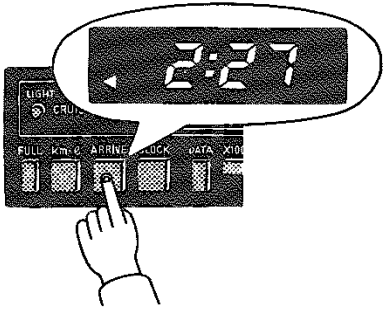
航続距離がまだ十分走行可能な表示をしていても，燃料計がEに近づくか，燃料残量警告灯が点灯したら，早目に燃料を補給してください。

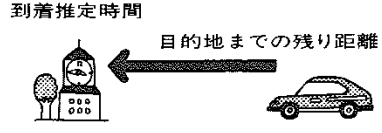
無断複製禁止

▶目的地への到着推定時刻および目的地までの残り距離を知りたいときは

1．目的地までの距離をセットします。(76ページの〈目的地までの距離のセット〉を参照してください。)

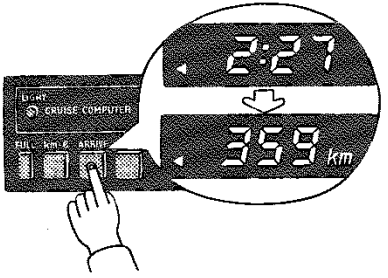
2．ARRIVEキーを押します。



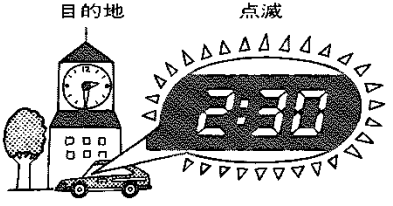




到着時刻はセットされた目的地までの距離と平均車速から推定し表示します。

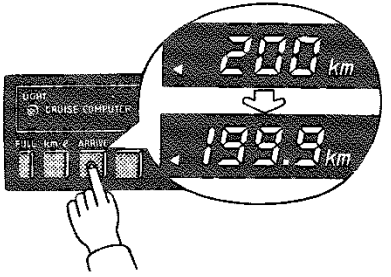
3．もう一度ARRIVEキーを押します。目的地までの残り距離を表示します。




4．残り距離が0になると，到着時刻が点滅します。また，このとき他の項目を表示していても到着時刻表示に自動的に切り替わります。なお，到着推定時刻の表示は，平均車速によって順次修正されます。




★目的地までの残り距離が200km未満になると表示は0.1km単位まで表示します。




5．目的地までの距離は999kmまでセットできます。



無断複製禁止

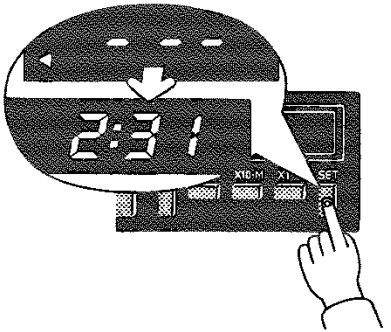
〈目的地までの距離のセット〉

〔例：目的地までの距離が359kmある場合〕

| 手順 | 操作キー | 表示部の表示 |
|---|---|---|
| 1 | ARRIVE | ◂ --:-- |
| 2 | DATA | ◂ ---km |
| 3 (※1) | ×100・H | ◂ 300km |
| 4 (※1) | ×10・M | ◂ 350km |
| 5 (※1) | ×1・M | ◂ 359km |
| 6 (※2) | SET | 2:31 |

(※1)●セットしたい数字が表示されるまで押し続けてください。
●数字はどの位からでも入れることができます。

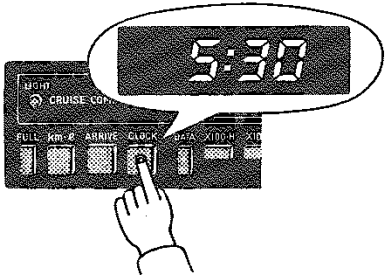
(※2) SET キーを押すと，コンピューターが作動します。走行開始後，約90秒間◂---の表示が現われ，その後到着予想時刻が表示されます。




この場合は2：31に到着することを表示しています。

▶時計として利用するときは

1．CLOCK キーを押します。




2．1：00～12：59までの12時間表示を行ないます。

無断複製禁止

〈時刻修正のしかた〉

〔例：3時21分に修正する場合〕

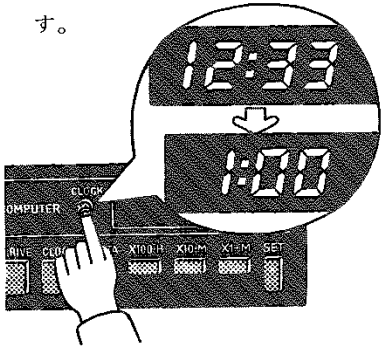
| 手順 | 操作キー | 表示部の表示 |
|---|---|---|
| 1 | CLOCK | 5:30 |
| 2 | DATA | -:-- |
| 3（※1） | ×100・H | 3:00 |
| 4（※1） | ×10・M | 3:20 |
| 5（※1） | ×1・M | 3:21 |
| 6 | SET | 3:21 |

（※1）●セットしたい数字が表示されるまで押し続けてください。
●数字はどの位からでも入れることができます。

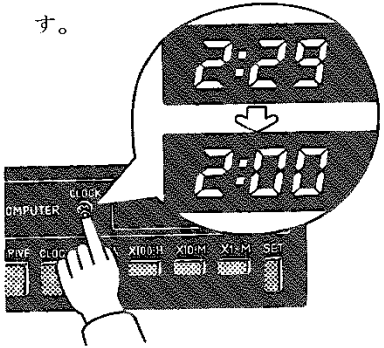
〈時報合わせのしかた〉

時報に合わせるときは CLOCK キーを押したあと時報合わせボタンを押します。

1．30～59分は切り上げて表示されます。




2．0～29分は切り下げて表示されます。




★注意

**走行中の数字の入力（コンピューターに数字を記憶させる）は，必ず助手席の人が行なうようにしてください。**



無断複製禁止

無断複製禁止

# ラジオ,ヒーター,エア・コンディショナーの使い方

**ラジオ，ステレオの使い方**……80
アンテナ……80
ラジオ，カセット・ステレオ……80
**ヒーター，エア・コンディショナーの使い方**……92
吹き出し口……92
ヒーター……93
エア・コンディショナー……97
オート・エア・コンディショナー……99
ワンタッチ式排煙装置……100



無断複製禁止

# ラジオ，ステレオの使い方

★トヨタ販売店で取り付けられたラジオ，ステレオにつきましては別冊の取扱書をご覧ください。

## ■アンテナ

### ▶埋め込み式

リフトバック，XX

リヤ・ウインドゥ・ガラスに埋め込んであります。

★アンテナ入りガラス(室内側)の清掃は，ぬらした布で熱線にそって，軽くふいてください。ガラス・クリーナーなどは使用しないでください。

### ▶引き出し式

クーペのSV車

使用時は，いっぱいに引き出します。

### ▶電動式アンテナ

クーペ(SV車を除く)

1．エンジン・スイッチがACCかONのとき，ラジオの電源スイッチをONにすると，トランク左側にあるアンテナが自動的に上昇します。

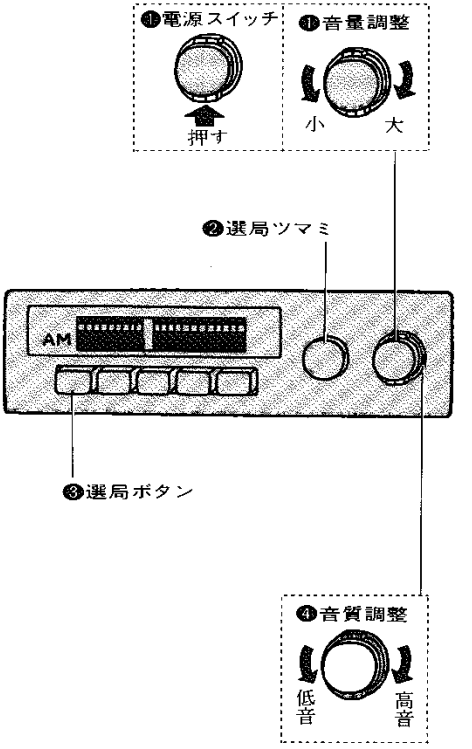
2．また，ラジオの電源スイッチがONの状態で，エンジン・スイッチをACCかONにするとアンテナが自動的に上昇します。

3．アンテナが上昇している状態でラジオの電源スイッチまたはエンジン・スイッチをOFFにすると，アンテナは自動的に下降，収納されます。

★車からはなれるとき，または使用しない場合はアンテナを収納してください。

## ■ラジオ，カセット・ステレオ*

AMラジオ




無断複製禁止

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

▶ラジオ放送を聞くには

1．エンジン・スイッチをＯＮまたはＡＣＣの位置にします。

★エンジン停止時は，ラジオを長時間つけたままにしないでください。バッテリーあがりを起こし，エンジンの始動ができなくなります。

2．電源スイッチ❶を押して電源を入れます。もう一度押すと電源は切れます。

3．音量調整ツマミ❶を回して音量を調整します。

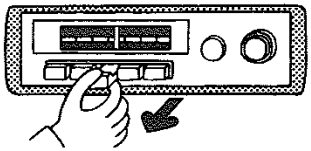
4．選局ツマミ❷を回して希望の局を選びます。

5．選局ボタン❸をあらかじめセットしておけば，ボタンを押すだけで希望の局がワンタッチで選局できます。(〈選局ボタンのセット〉を参照してください。)

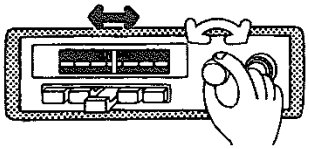
6．音質調整ツマミ❹は好みに応じて調整してください。

〈選局ボタンのセット〉

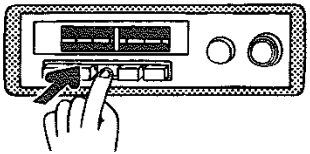
1．選局ボタンの１つを，いっぱいに引き出します。



2．選局ツマミで，選局指針を希望の局に合わせます。



3．引き出した選局ボタンを，いっぱいに押し込みます。



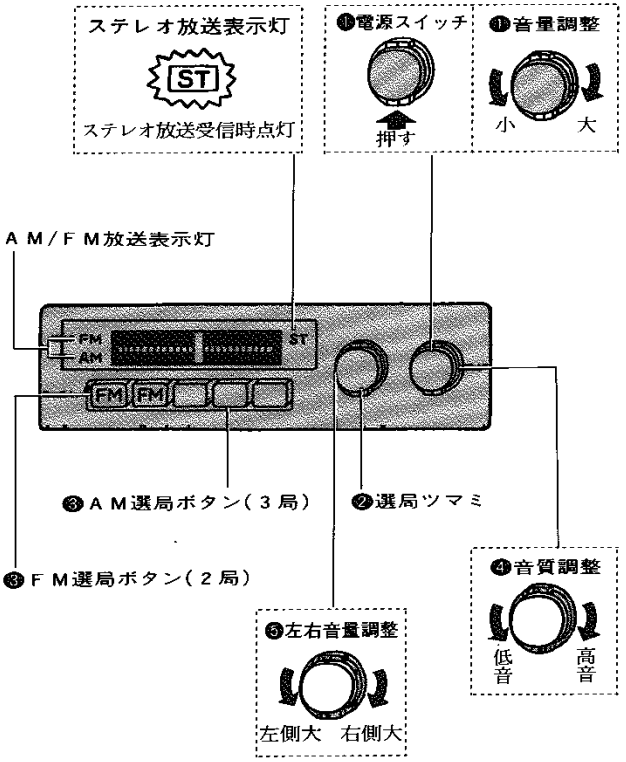
4．以上の操作により，選局指針がどの位置にあっても，選局ボタンを押せば，あらかじめセットした局を受信できます。

5．他の選局ボタンも同じ要領でそれぞれの局にセットできます。

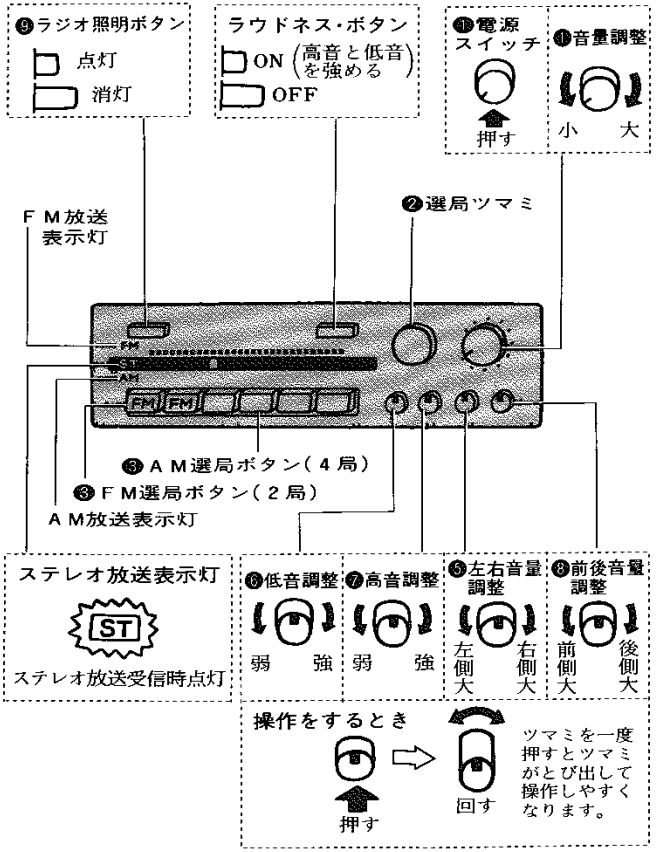


無断複製禁止

## AM／FMマルチ・ラジオ(3スピーカー)




## AM／FMマルチ・ラジオ(5スピーカー)




無断複製禁止

▶ラジオ放送を聞くには

1．エンジン・スイッチをＯＮまたはＡＣＣの位置にします。

★エンジン停止時は，ラジオを長時間つけたままにしないでください。バッテリーあがりを起こし，エンジンの始動ができなくなります。

2．電源スイッチ❶を押して電源を入れます。もう一度押すと電源は切れます。

3．音量調整ツマミ❶を回して音量を調整します。

4．ＡＭまたはＦＭ選局ボタン❸を押してＡＭまたはＦＭ放送に切り替えます。

5．選局ツマミ❷を回して希望の局を選びます。

6．選局ボタン❸をあらかじめセットしておけば，ボタンを押すだけで希望の局がワンタッチで選局できます。(〈選局ボタンのセット〉を参照してください。)

7．次の調整ツマミについては好みに応じて調整してください。

- 音質調整❹
- 左右音量調整❺
- 低音調整❻
- 高音調整❼
- 前後音量調整❽

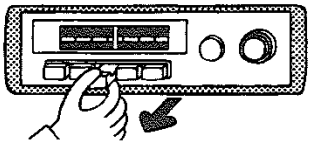
〈ラジオ照明〉

5スピーカー

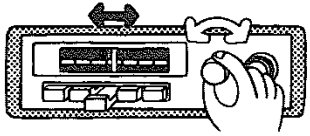
1．ライト・スイッチがＯＮのとき，ラジオ照明ボタン❾を押すとラジオの照明が点灯し，もう一度押すと消灯します。

〈選局ボタンのセット〉

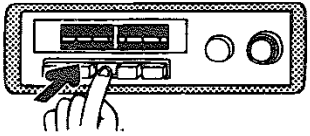
1．選局ボタンの1つを，いっぱいに引きます。



2．選局ツマミで，選局指針を希望の局に合わせます。



3．引き出した選局ボタンを，いっぱいに押し込みます。



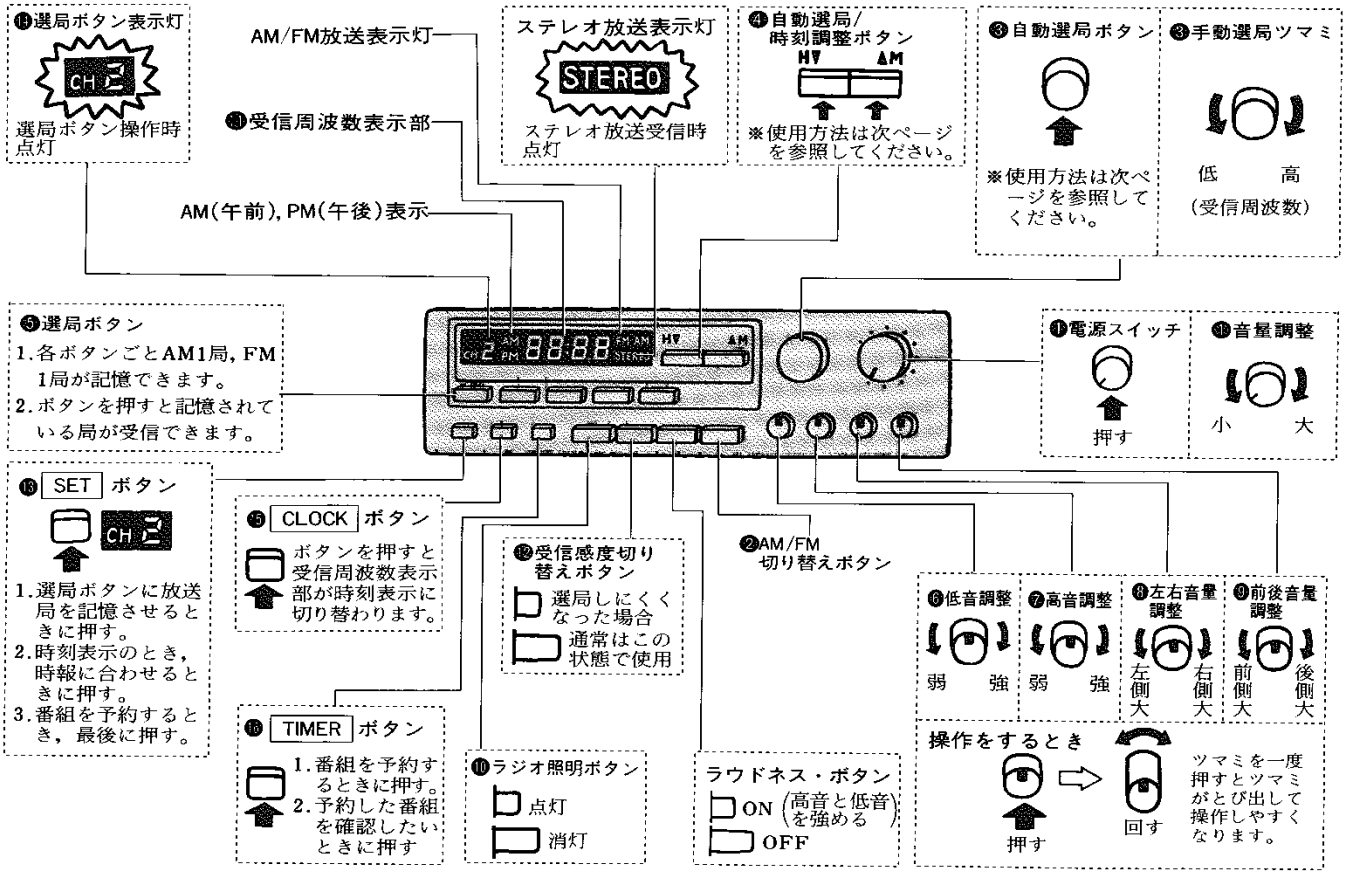
4．以上の操作により，選局指針がどの位置にあっても，選局ボタンを押せば，あらかじめセットした局を受信できます。

5．他の選局ボタンも同じ要領でそれぞれの局にセットできます。



無断複製禁止

## ＡＭ/ＦＭマルチ電子サーチ式ラジオ（番組予約機構付き）




無断複製禁止

▶ラジオ放送を聞くには

1．エンジン・スイッチをＯＮまたはＡＣＣの位置にします。

★エンジン停止時は，ラジオを長時間つけたままにしないでください。バッテリーあがりを起こし，エンジンの始動ができなくなります。

2．電源スイッチ❶を押して電源を入れます。もう一度押すと電源は切れます。

3．音量調整ツマミ❶を回して音量を調整します。

4．ＡＭ／ＦＭ切り替えボタン❷を押してＡＭまたはＦＭ放送に切り替えます。

5．手動選局ツマミ／自動選局ボタン❸，自動選局ボタン❹(〈自動選局のしかた〉を参照してください。)，選局ボタン❺(〈選局ボタンのセット〉を参照してください。)の操作で希望の局を選びます。

6．次の調整ツマミについては好みに応じて調整してください。

- 低音調整❻
- 高音調整❼
- 左右音量調整❽
- 前後音量調整❾

〈ラジオ照明〉

1．ライト・スイッチがＯＮのとき，ラジオ照明ボタン❿を押すとラジオの照明が点灯し，もう一度押すと消灯します。

▶自動選局のしかた

自動選局ボタン❸または，❹を操作して行ないます。

〔自動選局ボタン❸を使用するとき〕

1．ボタンを押すと自動的に周波数の高い方へ選局します。

2．受信すると５秒間停止し，また選局を繰り返します。

3．このとき受信周波数表示部⓫に受信された周波数が表示されます。

4．希望の周波数で停止したらもう一度ボタンを押せばその周波数で固定されます。

5．受信感度切り替えボタン⓬を押しても選局しないときは，手動選局ツマミ❸で選局してください。

〔自動選局ボタン❹を使用するとき〕

1．自動選局ボタン❹の[M]側を押すと現在受信している周波数より大きい数字の周波数，[H]側を押すと小さい数字の周波数の局を自動的に受信し，その位置で止まります。

2．このとき受信周波数表示部⓫に受信された周波数が表示されます。

3．ビルの谷間などで受信電波が弱く選局しにくくなったときは，受信感度切り替えボタン⓬を押してください。

4．受信感度切り替えボタンを押しても選局しないときは，手動選局ツマミ❸で選局してください。

〈選局ボタンのセット〉

1．手動選局ツマミ／自動選局ボタン❸または自動選局ボタン❹で記憶させたい放送局の周波数に合わせます。

2．[SET]ボタン⓭を押します。

3．選局ボタン❺を押します。

以上の操作で選局ボタンに放送局を記憶させることができます。なお，選局ボタン１つに記憶させることができる



無断複製禁止

放送局は，AM，FM各1局づつです。
(例)選局ボタン2にNHK—FM(東京)82.5MHzを記憶させる場合

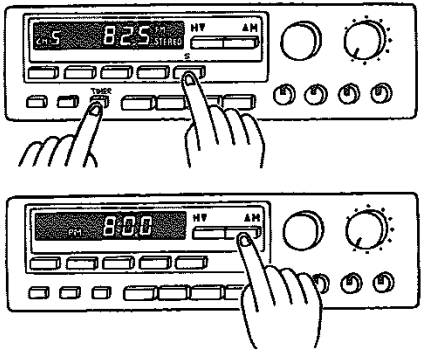
1．AM/FM切り替えボタン❷でFMにします。
2．手動選局ツマミまたは自動選局ボタンで受信周波数（82.5MHz）に合わせます。
3．SETボタンを押します。
4．選局ボタンの2を押します。同時に選局ボタン表示灯⓮がch2を表示します。
5．以上の操作で選局ボタンの2に，NHK—FM（東京）が記憶できます。
6．あらかじめ目的地の放送局の周波数がわかっている場合は，手動選局ツマミでセットしておくことができます。

★車両の整備，ラジオの取りはずしなどによって，バッテリーとの接続が断たれた場合，選局ボタンの記憶は消去されます。もう一度選局ボタンに記憶しなおしてください。

▶番組予約をするには

選局ボタンに記憶されている放送局に限り，AM，FMを問わず2局まで，お聴きになりたい番組を予約することができます。

1．電源スイッチをONにします。
2．CLOCKボタン⓯を押し，ラジオに表示される時刻が正確な時刻に合っているか確認します。
3．TIMERボタン⓰を押してからAM/FM切り替えボタン❷，選局ボタン❺で希望の放送局を選局し，次にH側およびM側の時刻調整ボタンを押して希望の時間をセットします。



★TIMERボタンを押してから5秒以内にセットを開始してください。

4．SETボタンを押すと番組予約が完了します。
5．予約番組の放送時刻になると，下記のようになります。
- 他の放送を聞いているときは，自動的に予約番組に切り替わります。
- テープ演奏中は，テープの演奏を中断して(テープ装着のまま)予約された放送を受信します。
- エンジン・スイッチがACCまたはONであれば，ラジオの電源スイッチがOFFでも電源がはいり，放送が開始されます。

▶予約した番組の確認をするには

1．TIMERボタン⓰を押すと約5秒間予約内容のどちらかが表示されます。
2．再度TIMERボタンを押すと先に表示された予約内容に続き，もう一方の内容が表示されます。

無断複製禁止

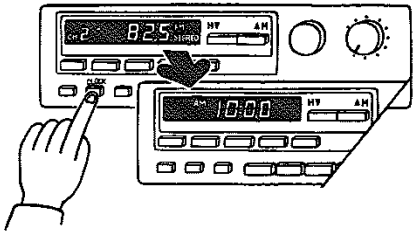
▶予約番組の解除をするには

1．TIMERボタン⑯を押して解除したい予約内容を表示させてから，5秒以内に SET ボタン⑬を押します。

★予約した番組を解除しない限り，エンジン・スイッチがACCまたはONであれば予約時刻になると放送が開始されます。

▶内蔵時計のセットのしかた

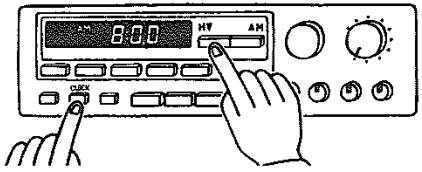
CLOCKボタン⑮を押している間，周波数表示部⑪が時計表示に切り替わります。



時計は12時間表示となっており，AMは午前，PMは午後を表わします。

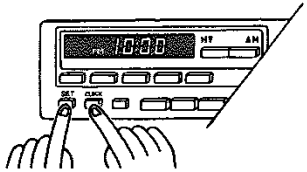
〈時計の時刻調整〉

1．CLOCKボタンを押したまま H 側の時刻調整ボタン④を押すと“時”調整，M 側を押すと“分”調整ができます。

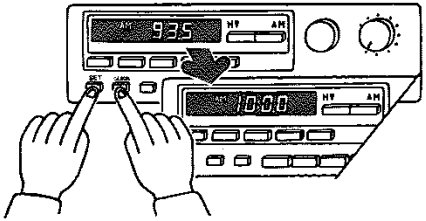


〈時報に合わせるとき〉

1．CLOCKボタンを押したまま SET ボタン⑬を押します。



2．表示は，0～29分の場合は切り下げ，30～59分の場合は切り上げとなります。



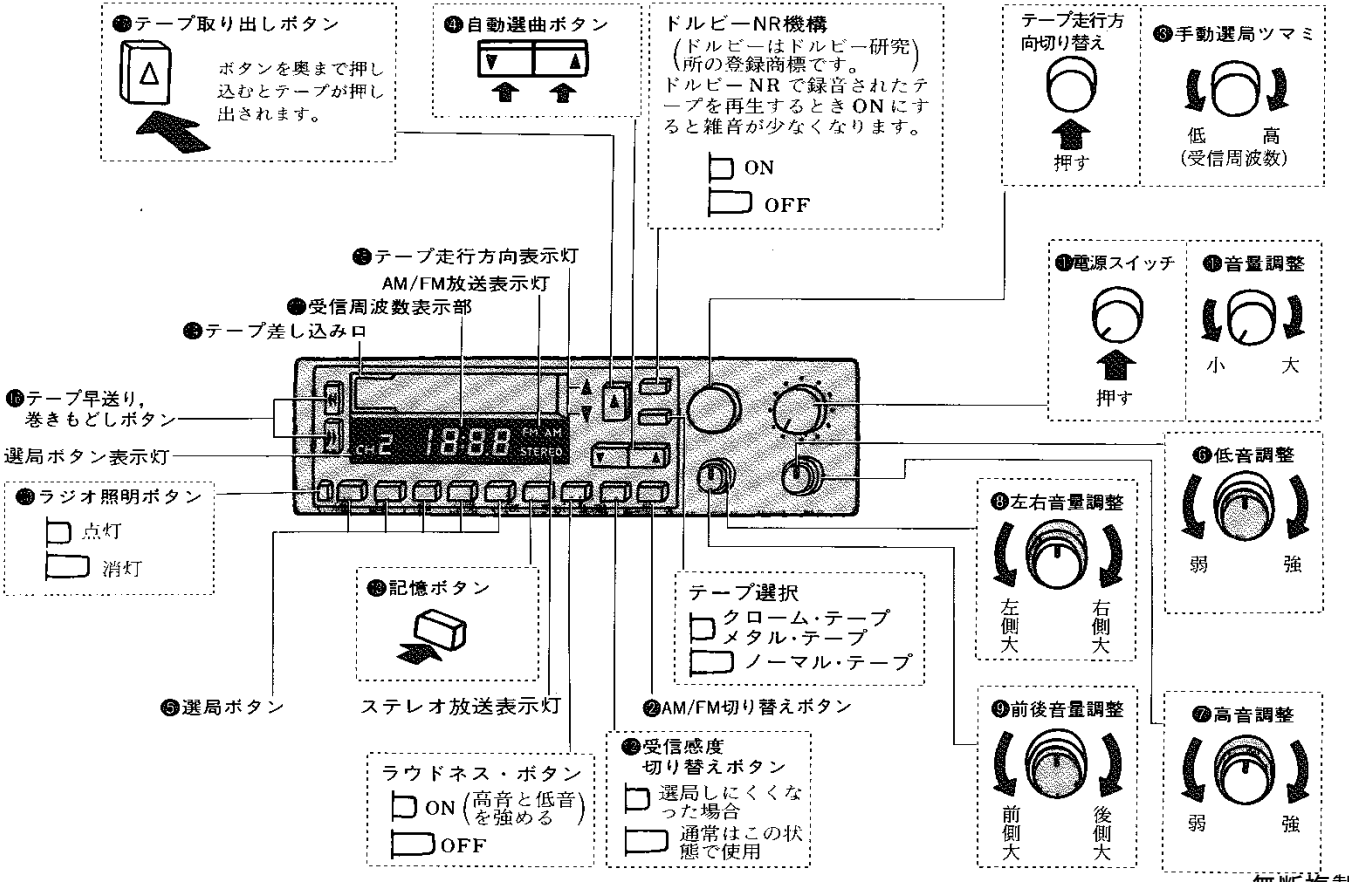
3．時計は SET ボタン⑬をはなした時点から作動を始めます。

4．番組を予約するときに，正確な時刻に合わせてないと，予約した番組をお聴きになることができません。午前(AM)，午後(PM)を間違えないよう時刻を合わせてください。



無断複製禁止

## カセット一体ＡＭ/ＦＭマルチ電子サーチ式ラジオ




無断複製禁止

▶ラジオ放送を聞くには

1．エンジン・スイッチをＯＮまたはＡＣＣの位置にします。

★エンジン停止時，ラジオを長時間つけたままにしないでください。バッテリーあがりを起こし，エンジンの始動ができなくなります。

2．電源スイッチ❶を押して電源を入れます。もう一度押すと電源は切れます。

3．音量調整ツマミ❶を回して音量を調整します。

4．ＡＭ／ＦＭ切り替えボタン❷を押してＡＭまたはＦＭ放送に切り替えます。

5．手動選局ツマミ❸，自動選局ボタン❹（〈自動選局のしかた〉を参照してください。），選局ボタン❺（〈選局ボタンのセット〉を参照してください。）の操作で希望の局を選びます。

6．次の調整ツマミについては好みに応じて調整してください。

- 低音調整❻
- 高音調整❼
- 左右音量調整❽
- 前後音量調整❾

〈ラジオ照明〉

1．ライト・スイッチがＯＮのとき，ラジオ照明ボタン❿を押すとラジオの照明が点灯し，もう一度押すと消灯します。

▶自動選局のしかた

1．自動選局ボタン❹の▲側を押すと現在受信している周波数より大きい数字の周波数，▼側を押すと小さい数字の周波数の局を自動的に受信し，その位置で止まります。

2．このとき受信周波数表示部⓫に受信された周波数が表示されます。

3．ビルの谷間などで受信電波が弱く選局しにくくなったときは，受信感度切り替えボタン⓬を押してください。

4．受信感度切り替えボタンを押しても選局しないときは，手動選局ツマミ❸で選局してください。

〈選局ボタンのセット〉

1．手動選局ツマミ❸または自動選局ボタン❹で記憶させたい放送局の周波数に合わせます。

2．記憶ボタン⓭を押します。

3．選局ボタン❺を押します。

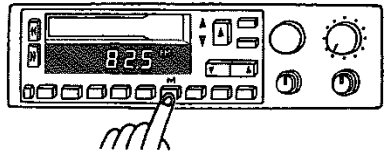
以上の操作で選局ボタンに放送局を記憶させることができます。なお，選局ボタン１つに記憶させることができる放送局は，ＡＭ，ＦＭ各１局づつです。

〔例：選局ボタン2にNHK—ＦＭ（東京）82.5MHzを記憶させる場合〕

1．ＡＭ／ＦＭ切り替えボタン❷でＦＭにします。

2．手動選局ツマミまたは自動選局ボタンで受信周波数（82.5MHz）に合わせます。

3．記憶ボタンを押します。





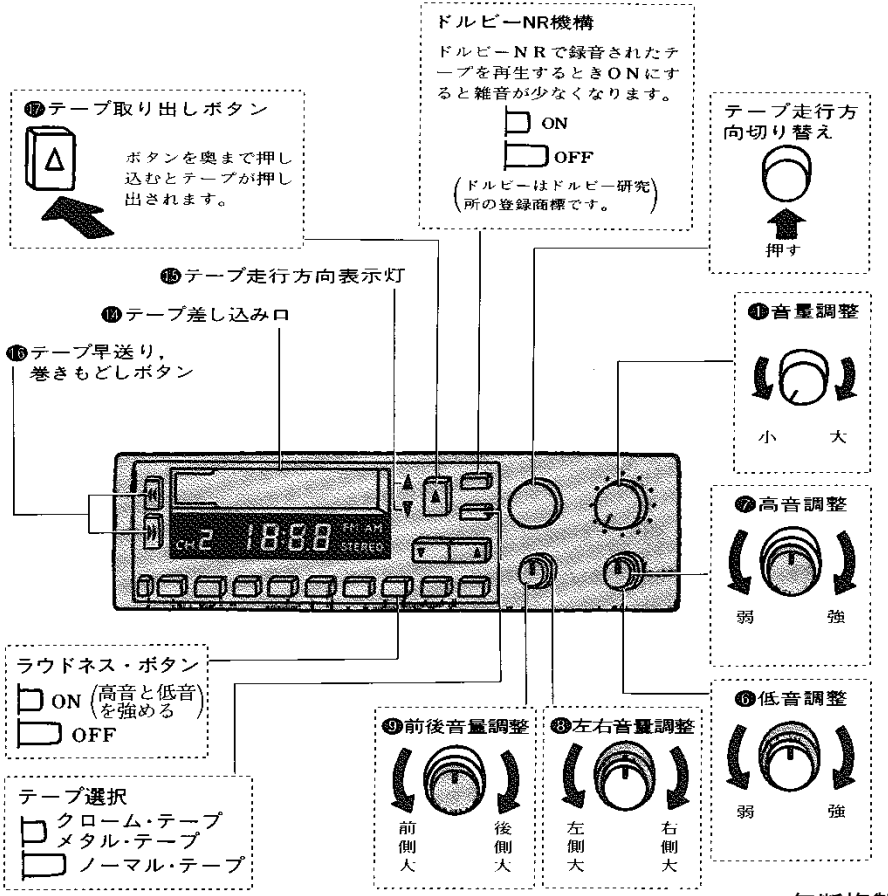

無断複製禁止

4．選局ボタンの2を押します。

5．以上の操作で選局ボタンの2に，NHK－FM（東京）が記憶できます。

6．あらかじめ目的地の放送局の周波数がわかっている場合は，手動選局ツマミでセットしておくことができます。

★車両の整備，ラジオの取りはずしなどによって，バッテリーとの接続が断たれた場合，選局ボタンの記憶は消去されます。もう一度選局ボタンに記憶しなおしてください。




無断複製禁止

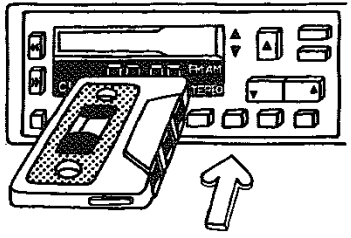
▶テープを聞くには

1．エンジン・スイッチをＯＮまたはＡＣＣの位置にします。

★エンジン停止時は，カセット・ステレオを長時間つけたままにしないでください。バッテリーあがりを起こし，エンジンの始動ができなくなります。

2．ラジオの電源スイッチがＯＦＦでも使用することができます。

3．テープ差し込み口⓭にテープを差し込みます。



4．音量調整ツマミ⓫を回して音量を調整します。

5．次の調整ツマミについては好みに応じて調整してください。

- 低音調整❻
- 高音調整❼
- 左右音量調整❽
- 前後音量調整❾

▶早送り，巻きもどしをするには

1．テープ走行方向表示灯⓮と同じ位置のテープ早送り，巻きもどしボタン⓯を押すと早送り，逆方向のボタンを押すと巻きもどしになります。

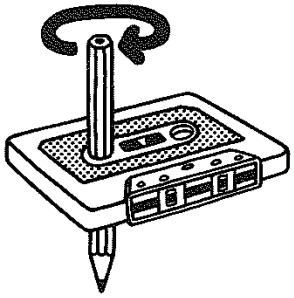
2．早送り，巻きもどしを解除して通常の再生にするときは，押し込まれていない側のボタンを軽く押してください。

▶テープを取り出すには

1．テープ取り出しボタン⓱を奥まで押し込むとテープが手前に押し出されます。

★テープはケースに入れ，直射日光やほこりをさけて保存してください。

★テープは，鉛筆などで軽く外側に回して，たるみを取ってからそう入してください。

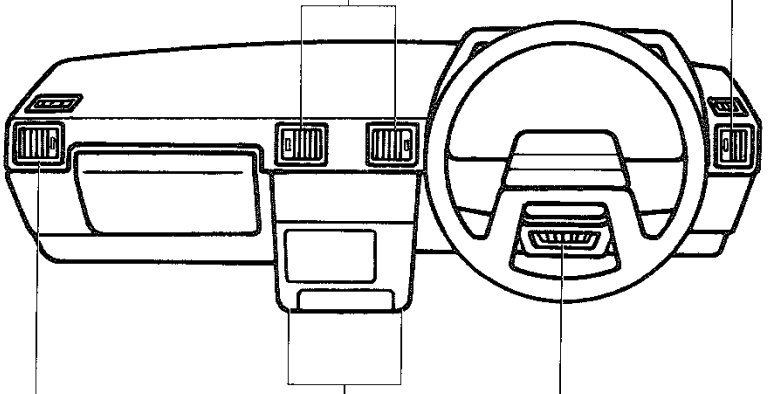




無断複製禁止

# ヒーター，エア・コンディショナーの使い方

■吹き出し口



▶中央
ツマミを動かして風向きを調整します。

▶右側
ツマミを動かして風向きを調整します。

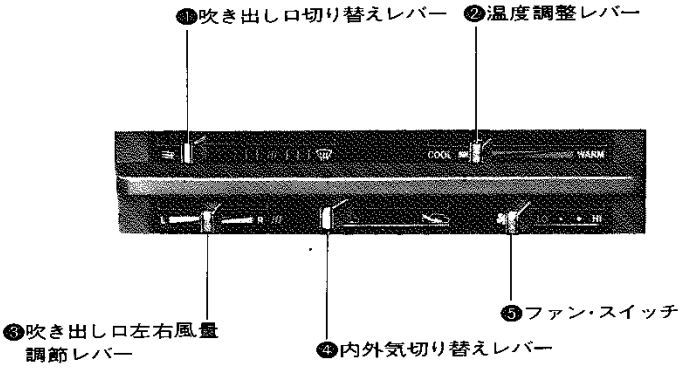
▶左側
ツマミを動かして風向きを調整します。

▶足元
暖房時に温風が出ます。

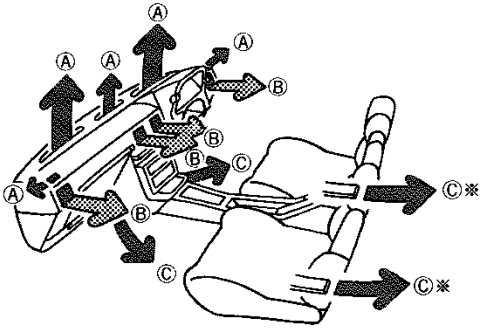
▶ひざ元
エア・コンディショナー付き車のみ
上下に動かすと風向きの調整ができます。不要な場合はとじてください。

無断複製禁止

## ■ヒーター




〈吹き出し口〉




※SV車を除く。ただし，SV車の寒冷地仕様車には注文装備。

### ❶吹き出し口切り替えレバー

（各吹き出し口の風量の割合を無段階に調整することができます。）

換気……上半身，顔面に温風，冷風を送ります。
吹き出し口→Ⓑ

頭寒足熱……頭寒足熱のここちよい暖房を行ないます。
吹き出し口→Ⓑ（ⒶⒸから少々）

暖房……室内暖房（最大暖房）
吹き出し口→Ⓒ（Ⓐから少々）

曇り取り……フロント・ガラスおよびドア・ガラスの曇りを取ります。
吹き出し口→Ⓐ（Ⓒから少々）



無断複製禁止

**❷温度調整レバー**

COOLからWARMまで無段階に温度を調整できます。

**❸吹き出し口左右風量調節レバー**

運転席および助手席の足元への風量を調整できます。

R（右側）……運転席足元の風量が増します。

L（左側）……助手席足元の風量が増します。

**❹内外気切り替えレバー**

内気循環……内気循環式，急速に車内を暖めるとき，または外気がよごれているときなど一時的に使用します。



外気導入……外気導入式に切り替わります。

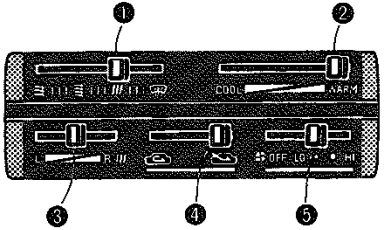


**❺ファン・スイッチ**

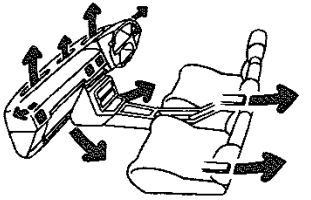
風量を，4段階に調整できます。

**▶通常の暖房**

〈レバーのセット位置〉




〈吹き出し口〉



1．暖かくなってきたら❺のスイッチをOFF側へ，また❷のレバーをCOOL側へ移動させてお好みに合った状態に調整してください。

2．トンネル内，渋滞などで外気がよごれている場合以外❹のレバーはの位置で使用してください。

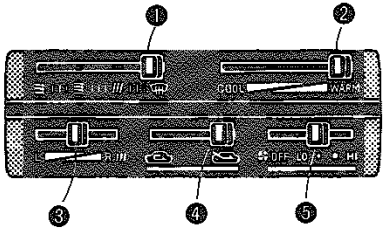
で使用するとガラスが曇りやすくなります。

3．❸のレバーは好みの位置で使用してください。

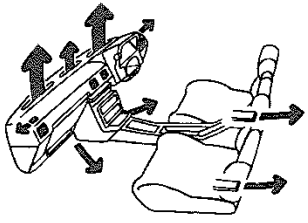
無断複製禁止

▶ガラスの曇りを取るとき

〈レバーのセット位置〉




〈吹き出し口〉



1．❶のレバーを と の中間にすれば曇りを取るのと同時に足元も暖められます。

2．曇りが取れたら❶のレバーを 側へ動かしてください。

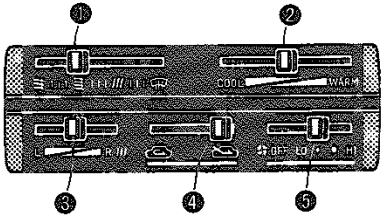
3．夏期の曇り止めには，❷のレバーを適度に調整して使用してください。

4．❹のレバーは必ず で使用してください。

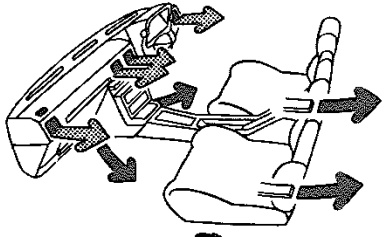
5．❸のレバーは好みの位置で使用してください。

▶頭寒足熱型にしたいとき

〈レバーのセット位置〉




〈吹き出し口〉



1．❶のレバーを に，❷のレバーをCOOLとWARMの中間の位置で使用すれば，暖められた風が足元から，比較的温度の低い風が中央および左右吹き出し口から吹き出します。

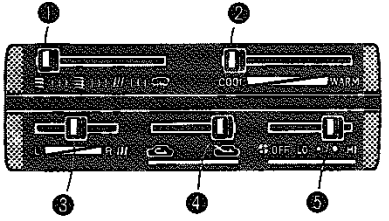
2．❹のレバーを にし，❸のレバーを好みの位置で使用してください。



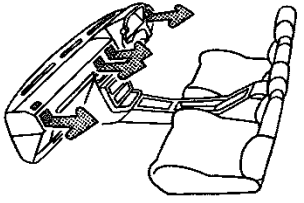
無断複製禁止

▶換気したいとき（強制換気）

〈レバーのセット位置〉




〈吹き出し口〉



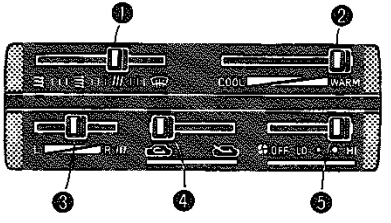
1．外のさわやかな風が中央および左右吹き出し口から吹き出します。

2．❷のレバーをWARM側へ動かすことにより吹き出し温度を暖かくすることもできます。

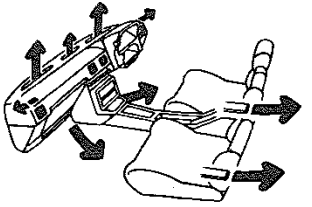
3．❹のレバーは  の位置で使用してください。

▶早く暖房したいとき

〈レバーのセット位置〉




〈吹き出し口〉



1．早く暖房したい場合や，外気がよごれている場合に，一時的に❹のレバーを  の位置で使用します。

2．通常は  の位置にしてください。

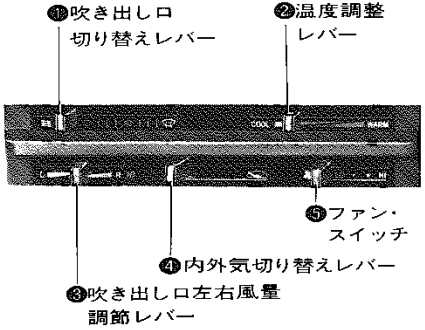
3．❸のレバーは好みの位置で使用してください。

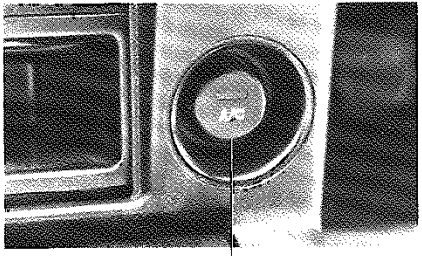



❹のレバーが  のとき❶のレバーを  にしないでください。ガラスが曇り危険です。

無断複製禁止

## ■エア・コンディショナー ＊




ヒーターにクーラーを組み付け暖房，冷房はもちろん，湿気も取り去るオール・シーズン・タイプです。

暖房操作は，「ヒーター」の項目を参照してください。

この項目では，冷房，除湿操作について説明してあります。

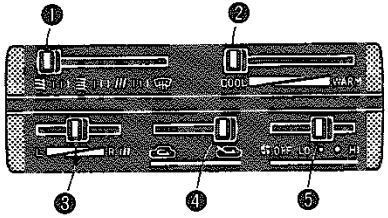
★エア・コンディショナーをクーラーとして使用するときは，ドア・ガラスをしめてください。

★エア・コンディショナー使用中はアイドル回転がふだんより少し高目になります。

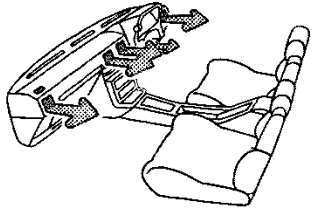
★エア・コンディショナーを長期間使用していると，クーラー・ベルトのゆるみや冷媒ガスの消耗などにより冷えが悪くなることがあります。
冷えや除湿効果が悪いときは，トヨタ・サービス工場で点検を受けてください。

▶通常の冷房

〈レバーのセット位置〉




〈吹き出し口〉



1．❻のスイッチをONにします。

2．室内の換気をし，湿気を取り快適な冷房をします。通常走行中は，この位置で使用してください。

3．❷のレバーをCOOLからWARMの間で調節し，快適な温度にしてください。



無断複製禁止

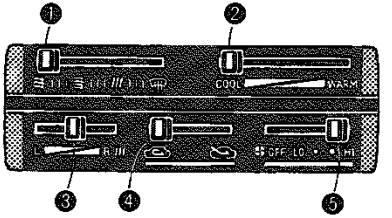
＊印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

4．❺のスイッチを1段目からHIの位置で調整してください。

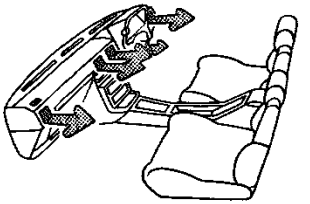
5．渋滞やトンネル内などで外気がよごれているときは一時的に❹のレバーを  の位置でご使用ください。

▶早く冷房したいとき

〈レバーのセット位置〉




〈吹き出し口〉



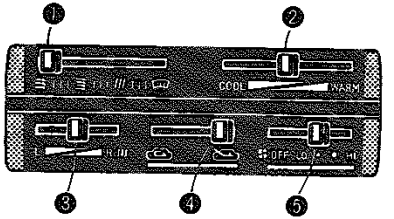
1．❻のスイッチをONにします。

2．直射日光にさらされ室温が非常に高いとき早く室温を下げるには，全ドア・ガラスをあけて換気した後，冷房してください。

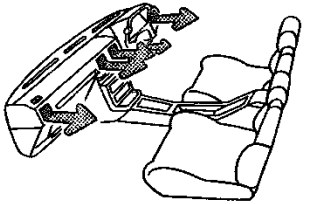
3．なお，この位置で長時間使用する場合は，換気のためときどき❹のレバーを  にしてください。

▶ガラスの曇りを取るとき(除湿)

〈レバーのセット位置〉




〈吹き出し口〉

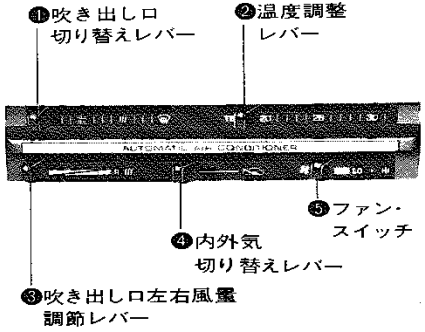


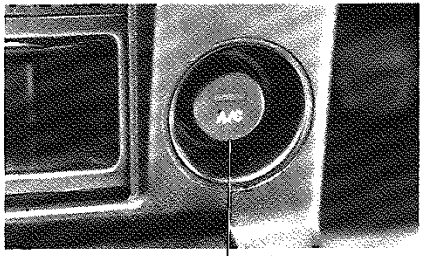
1．❻のスイッチをONにします。

2．雨天時など曇りやすいとき，室内の湿気を取り除きます。
❷のレバーはCOOLからWARMの間で調節します。

無断複製禁止

## ■オート・エア・コンディショナー ＊




❻エア・コンディショナー・スイッチ

コントロール・レバーを一度セットすれば，室内を常に快適な温度に自動コントロールできます。

### ▶操作方法

1．❻のスイッチをONにします。

2．❹のレバーを にします。通常はこの位置でご使用ください。急速暖房あるいは急速冷房したいときは， を使用してください。

3．❷のレバーをお好みの温度に合わせます。平均室温が希望温度になるよう自動的に作動します。

4．❺のスイッチをセットします。

OFF……送風停止

AUTO……風量が自動的にHIからLOWの間に調節され，希望温度に保たれます。

LO・HI……風量を，手動で3段階に調整できます。ただし，この場合室温は温度レバーの目盛りに対し多少ずれることがあります。

5．❶のレバーを切り替えます。

換気……強制換気クーラーとして使用するとき

吹き出し口→Ⓑ

頭寒足熱……頭寒足熱の冷暖房を行ないます。ただし，寒冷時（−10℃以下）に使用すると上下の温度差が少なくなり，中央吹き出し口および，左右吹き出し口から温風が出てきます。

吹き出し口→Ⓑ，Ⓒ

暖房……ヒーターとして使用するとき

ただし，ファン・スイッチをAUTOの位置で使用すると，冷却水温が約30℃

＊印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。



無断複製禁止

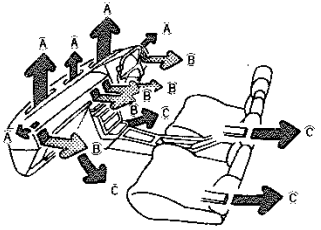
以下のときOFF，約30℃～50℃のときLO，約50℃以上になるとブロアは自動切り替えとなります。

吹き出し口→Ⓒ
(Ⓐから少々)

曇り取り……窓ガラスの曇りを取るとき



吹き出し口→Ⓐ




★冬期に，エア・コンディショナーをヒーターとして使用する場合は，❻のスイッチをOFFにしてください。除湿が必要な場合はＯＮにしてください。

★エア・コンディショナーをクーラーとして使用するときは，ドア・ガラスをしめてください。

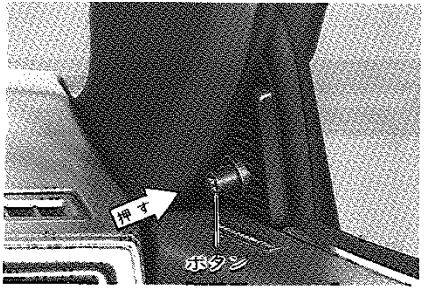
★エア・コンディショナーを長期間使用していると，クーラー・ベルトのゆるみや冷媒ガスの消耗などにより，冷えが悪くなることがあります。冷えや除湿効果が悪いときは，トヨタ・サービス工場で点検を受けてください。

注意

**エア・コンディショナー使用中はアイドル回転がふだんより少し高目になります。**

**■ワンタッチ式排煙装置**

フェンダー・ミラー車




ボタンを押すと，室内のよごれた空気やタバコの煙を車外に排出することができます。

もう一度押すととじます。

★洗車時には閉の位置（ボタンがもどっていること）にしておいてください。

無断複製禁止

このような取り扱いは危険ですからやめてください！

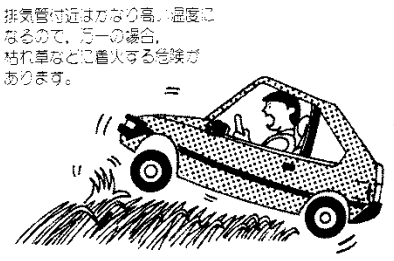
## このような取り扱いは危険ですからやめてください！
## （トヨタからのお願い）

注意

無断複製禁止

# 駐停車について

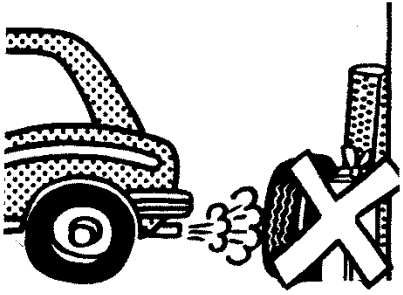
■駐停車するときは枯れ草，わら，紙，布，樹脂，油，古タイヤなど燃えやすいものの付近や上に駐停車しないでください。




★注意

1．走行後の排気管は高い温度になりますので燃えやすいものが近くにあると着火する危険があります。
2．エンジンを空ふかししたり，高回転を長く続けたりした場合には，排気管からの排気ガスが燃えやすいものに当たり着火する危険があります。

■車庫内に停車するときはあらかじめ後方の確認を十分行なって燃えやすいものがないことを確かめてから停車してください。



★注意

1．排気ガスは場合によっては高い温度になるので万一の場合わらなど燃えやすいものに着火するおそれがあります。
2．木材，ベニヤ板などが車両後方にある場合は，車両後端を30cm以上はなして止めてください。
すき間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり，着火する危険があります。

無断複製禁止

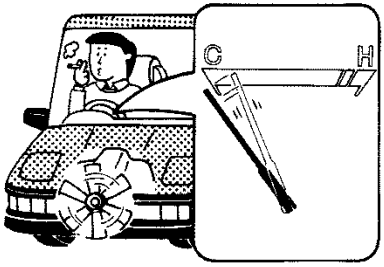
# エンジンの始動について

**■始動前には車両後方に燃えやすいものがないことや排気管に枯れ草などが巻きついていないことを確かめてください。**

**■密閉した車庫内ではエンジンをかけたままにしないでください。**

ガス中毒を起こす危険があります。やむをえない場合は，必ず換気をよくしてください。

**■適切な暖機運転をしてください。**




エンジンが冷えているときは，出力の低下，走行性能の悪化など車の性能が十分発揮できません。
(25ページの「エンジンのかけかた」の項目を参照してください。)

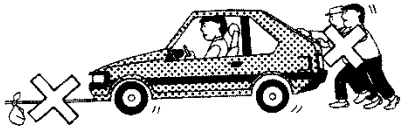
★注意

1．**暖機運転中は回転が高くなりすぎることがあります。始動後約30秒（外気温20℃のとき）で，アクセル・ペダルを軽く踏んで足をはなし回転を下げてください。(EFI車を除く)**

2．**暖機運転中は車からはなれないでください。**

**■バッテリーあがりのとき車を押したり，けん引によるエンジン始動をしないでください。**

触媒装置の温度が異常に高くなり焼損するおそれがあります。
(126ページの「バッテリーあがりの処置」の項目を参照してください。)





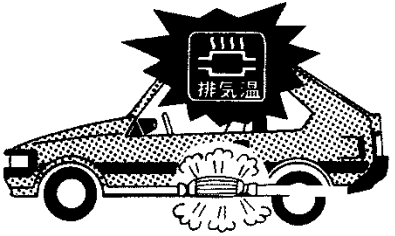
無断複製禁止

# 走行するときは

■次のような取り扱いはしないでください。触媒装置を焼損するおそれがあります。

1．走行中にエンジン・スイッチを切ること。
2．空ふかし直後にエンジン・スイッチを切ること。
3．充電警告灯が点灯または，電圧計が11Ｖ以下を指示したまま運転を続けること。
4．燃料計がＥ以下になった状態で運転を続けること。

■排気温警告灯が点灯したときは触媒装置の温度が異常に高くなったことを示します。



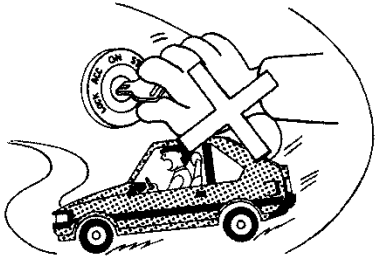

このまま運転を続けますと触媒装置が焼損するおそれがあります。
必ず20ページの「排気温警告灯」の項目を参照して点灯時の処置を行なってください。

■暖機が不十分な状態で発進時，極端にアクセル・ペダルをあおることはやめてください。未燃焼ガスが触媒装置に流れ，触媒装置を焼損するおそれがあります。

■枯れ草などの燃えやすいもののある場所や，フロア下面に枯れ草などを巻き込むおそれのある場所での走行はさけてください。

無断複製禁止

**■走行中エンジン・スイッチは絶対にACCまたはLOCKの位置にしないでください。**



1．ブレーキ倍力装置（ペダル踏力軽減装置）が作用しないため，ブレーキの効きが悪くなります。
2．パワー・ステアリング（ハンドル操作力軽減装置）が作用しないため，ハンドル操作が非常に重くなります。
3．LOCKの位置にするとキーが抜けることがあります。キーが抜けるとハンドルが切れなくなり危険です。
4．各種警告灯が作用しなくなり危険です。

**■長い坂道を下るときはフット・ブレーキとエンジン・ブレーキ(※1)を併用してください。**



フット・ブレーキを踏み続けると，ベーパー・ロック(※2)やフェード現象(※3)を起こし，ブレーキの効きが悪くなることがあり危険です。ただし，ぬれた路面または氷雪路での急激なエンジン・ブレーキの使用はさけてください。

(※1)エンジン・ブレーキとは，走行中アクセル・ペダルから足をはなしたときにかかるブレーキ力。低速ギヤほどエンジン・ブレーキはよく効きます。

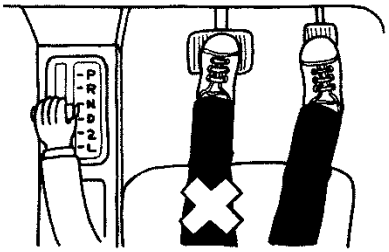
(※2)ベーパー・ロックとは，ブレーキ液が加熱されて，沸騰し泡が発生し，ブレーキ・ペダルを踏み込んでも，気泡を圧縮するだけで，ブレーキ力とはならない現象。

(※3)フェードとは，ブレーキの摩擦面が，加熱されると摩擦力が減るので，同じ力でブレーキ・ペダルを踏んでもブレーキの効きが悪くなる現象。



無断複製禁止

**■オートマチック・トランスミッション車の場合，ブレーキ操作は必ず右足で行なってください。**

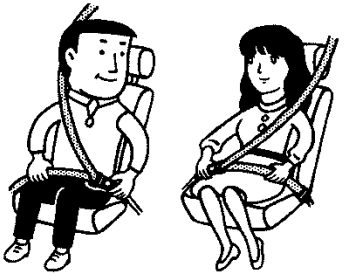



左足でブレーキを踏んだまま，右足でアクセル操作をすると，ブレーキの効きが悪くなったり，ブレーキ・パッドの摩耗を早めるおそれがあります。

**■高速走行中にパンクやバースト（破裂）したときはハンドルをしっかりもって，徐々にブレーキをかけスピードを落としてください。**

急ブレーキをかけるとハンドルを強くとられ危険です。

**■シート・ベルトは必ず装着してください。**



腰部のベルトは腰骨の位置にぴったりと装着してください。
(52ページの「シート・ベルトの装着」の項目を参照してください。)

**■洗車後や水たまりを走行した後はブレーキ・ペダルを軽く踏んで効き具合を確認してください。**

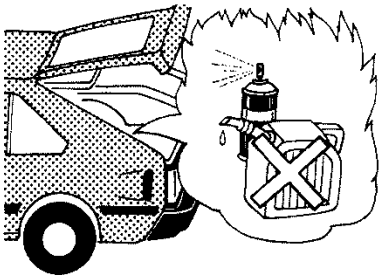


洗車後あるいは水たまり走行後は，ブレーキの効きが悪くなる場合があります。
効きが悪い場合は前後の車に十分注意して低速で走行しながら，効きが回復するまで数回ブレーキ・ペダルを軽く踏んで，ブレーキの湿りをかわかしてください。

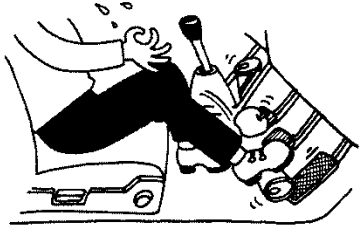
無断複製禁止

# 安全のために

■車内，トランクおよびデッキ・ルーム内に燃料がはいった容器やスプレー缶類を持ち込まないでください。蒸発ガスに引火したり容器が破損すると非常に危険です。



■運転席付近に物を置かないでください。



フロアにころがってブレーキ・ペダルの下にはさまりブレーキ操作ができなくなるなど危険な場合があります。

■水温が高いとき，ラジエーター・キャップをはずさないでください。蒸気や熱湯が吹き出し，危険です。



■ジャッキを使用するときは正しい位置にセットしてください。
また，駐車ブレーキ，輪止めを忘れないようにしてください。
(117ページの「タイヤ交換」の項目を参照してください。)

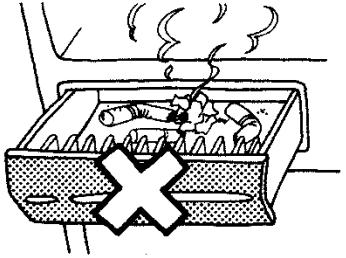


ジャッキがはずれると車が急に傾き大変危険です。



無断複製禁止

■灰皿を使用したあとは必ずしめてください。
あけたままにしておくとタバコの火が他の吸いがらに燃えひろがり，火災になるおそれがあります。

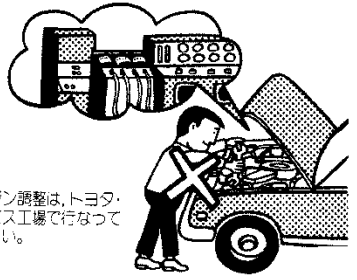


★注意

1．灰皿には吸いがらをためすぎないでください。
2．灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。
3．マッチ，タバコなどの火は消してから灰皿の中へ入れてください。

# 故障を防ぐために

■自己流のエンジン調整は行なわないでください。
部品は勝手に取りはずさないでください。



エンジン調整は，トヨタ・サービス工場で行なってください。

■燃料を補給するときは
必ず**無鉛ガソリン**を補給してください。



有鉛ガソリンやトヨタ純正品以外のガソリン添加剤を使用すると触媒装置の浄化性能を損います。

無断複製禁止

## ■ターボ車の取り扱い

ターボ装置は，エンジンに大量の空気を過給してエンジンから，より大きな馬力を引き出すもので，非常に精密に作られています。

ターボ装置は，毎分10万回におよぶ高回転，700℃以上の高温下で使われ，その潤滑と冷却はエンジン・オイルによってなされています。

したがって，定められたエンジン・オイル交換と高速走行，登坂走行後のアイドル運転をお守りいただかないと，劣化したエンジン・オイルによりターボ軸受部の固着，異音の発生などを起こすことがあります。

ターボ機能を十分発揮させるためにも下記事項を必ず守ってください。

▶エンジン・オイル，オイル・フィルターの交換

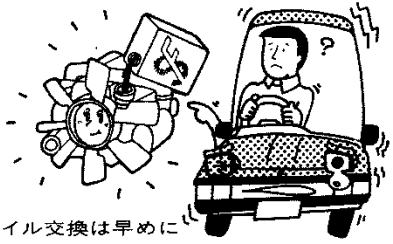
1．交換は必ず下記の時期に行なってください。

〈エンジン・オイル〉

5,000kmごとに交換，ただし期間が6か月を越える場合は，その時点で交換してください。

〈オイル・フィルター〉

10,000kmごとに交換




2．エンジン・オイルはAPI基準SF，SE，SD相当でSAE粘度分類10W－30以上のオイルを使用してください。

次のトヨタ純正キヤッスル・モーター・オイルをおすすめします。

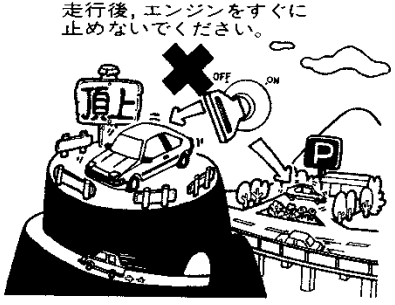
クリーンターボ（SF）

▶エンジン始動時

寒冷時の始動直後は，エンジンの急激な空ふかしまたは急加速をしないでください。

▶エンジン停止時

高速走行，登坂走行直後にエンジンを停止するときは，下記の表にしたがって必ずアイドル運転をしてください。




**エンジン停止前のアイドル運転時間**

| 運転状況 | | アイドル運転時間 |
|---|---|---|
| 市街地，郊外などの一般走行 | | 必要なし |
| 高速走行 | 約80km/h定速 | 約20秒 |
| | 約100km/h定速 | 約1分 |
| 山岳ドライブ・ウェイなどの急な登坂路走行およびレース場など100km/h以上の連続走行 | | 約2分 |



無断複製禁止

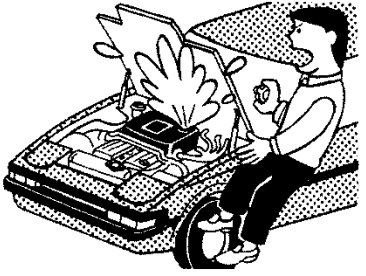
▶インター・クーラー(吸入空気冷却器)

M—TEUエンジンとう載車

1．冷却液の点検・補給および交換はトヨタ・サービス工場で行なってください。

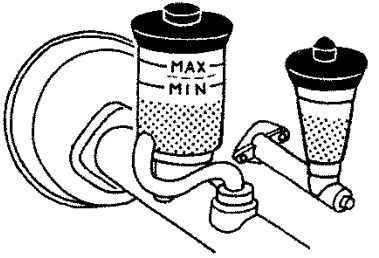
2．通常は2年で交換してください。

★冷却液温が高いとき，インター・クーラーのキャップをはずさないでください。蒸気や熱湯が吹き出し，危険です。



★エンジン警告灯が点灯した場合は必ずトヨタ・サービス工場で点検を受けてください。

■ブレーキ液，クラッチ液が不足しているときは

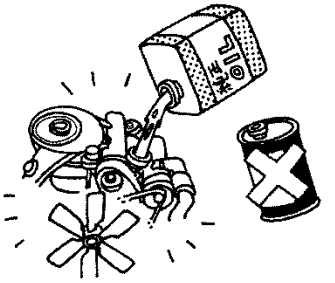



1．液の減りが著しいときは，早目にトヨタ販売店で点検を受けてください。

2．応急処置として補給するときは，タンク内にゴミがはいらないよう十分注意してトヨタ純正ブレーキ・フルード2400Gを使用してください。

3．ブレーキ液に粗悪品を使用したり他の銘柄品を混用するとブレーキ系統に悪影響をあたえ危険です。

■エンジン・オイルを交換するときは



1．オイルは，トヨタ純正キヤッスル製品またはAPI基準SF，SE，SD相当のものを使用してください。

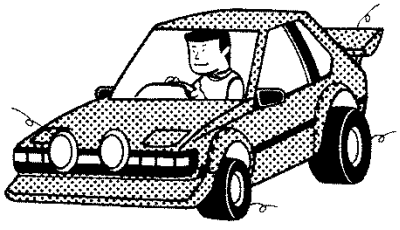
★新車時，キヤッスル・クリーンロイヤルⅡ〈SE〉(ターボ車はクリーンターボ〈SF〉)または相当品質のエンジン・オイルが注入されています。

2．エンジン・オイル添加剤を使用するときは，トヨタの推奨する添加剤を使用してください。

3．オイルを補給するときは同品質のオイルを補給してください。質の異なったオイルやトヨタ純正品以外のエンジン・オイル添加剤を使用するとエンジン性能が低下するおそれがあります。

無断複製禁止

■走行装置などの重要な箇所の改造をしないでください。

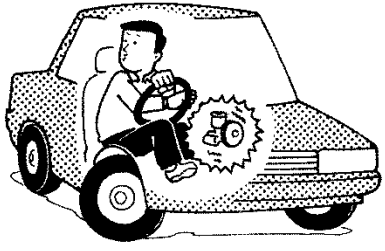


車の性能や機能に適しない部品を装着すると思いがけない事故が発生する場合があります。

1．トヨタが運輸省に届け出をした部品以外のものを装着すると違反になります。
フォグ・ランプ，ラジオ，ステレオなどアクセサリーを取り付けるときはトヨタ販売店にご相談ください。

2．無線装置を取り付けると，電子制御部品の機能に悪影響をあたえ，制御に異常をきたすことがあります。取り付けるときは，トヨタ販売店にご相談ください。

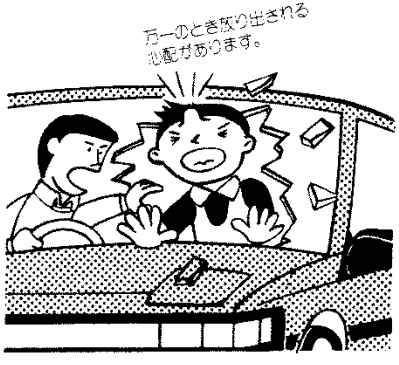
■パワー・ステアリング（ハンドル操作力軽減装置）付き車はハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。



ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けますとオイルの潤滑不良を起こし，パワー・ステアリング・ポンプを損傷するおそれがあります。

# お子様を乗せるときは

■なるべくおとなと一緒にリヤ・シートにすわらせてください。




1．助手席では運転のさまたげになります。

2．運転装置，装備などにさわらせると思いがけない事故がおきるおそれがあります。



無断複製禁止

**■ドアを確実にとじ必ず施錠してください。**

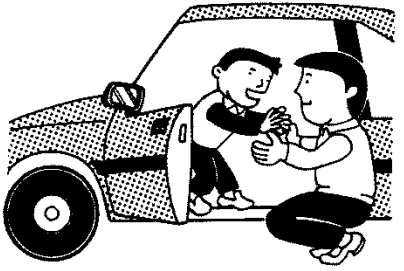



**■ドア，ウインドゥ・ガラス，サン・ルーフの開閉は，必ずおとながしてください。**



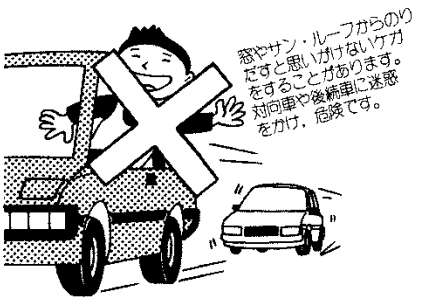

電動ウインドゥのスイッチは必ずおとなが操作してください。お子様がウインドゥ・スイッチをいたずらして手や首をはさむと危険です。

**■車からはなれるときは，お子様を一緒に連れて行ってください。**



お子様のいたずらにより車の発進，火災などの思いがけない事故がおきるおそれがあります。また，炎天下での車内は高温となりたいへん危険です。

**■窓やサン・ルーフから顔や手などを出させないようにしてください。**




無断複製禁止

## いざ！というときのために
## （故障の予防と緊急時処理法）


**工具とジャッキ**……114
格納場所……114
工　具……114
ジャッキ……115
**パンクの処置**……116
スペア・タイヤ……116
タイヤ交換……117
**タイヤ・チェーンの装着**……121
**万一のときの処置**……123
故障したら……123
夜間，休日の修理連絡先……123
走行中，エンジンが停止したときは……124
走行中，車体床下に強い衝撃を受けたときは……124
エンストして始動できなくなったときは……124
保安炎筒の使いかた……125
**故障したときの応急処置**……126
バッテリーあがりの処置……126
オーバー・ヒートの処置……127
けん引のしかた……127
**ヒューズについて**……128
ヒューズ・ボックス……128
ヒューズの交換……131
サーキット・ブレーカー……131
**電球について**……132

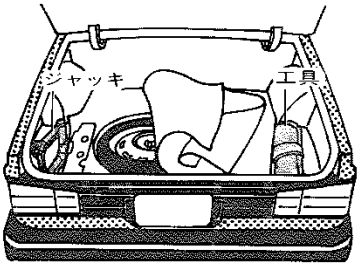



無断複製禁止

# 工具とジャッキ

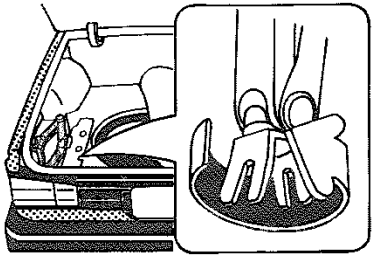
## ■格納場所

クーペ

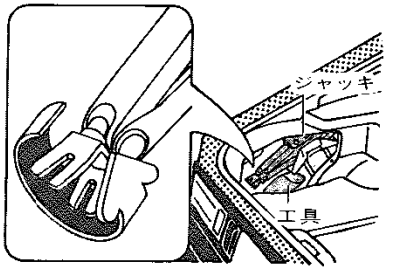



1．トランク左右のカバーの下に格納されています。

2．ジャッキは下図のようにすると取り出せます。



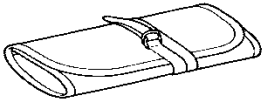
リフトバック，XX




1．デッキ・ルーム左側のカバー内に格納されています。

2．ジャッキは，図のようにすると取り出せます。

## ■工具



●工具袋



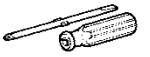
●輪止め



●組スパナ



●プライヤー



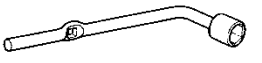
●⊕⊖差替式ドライバー



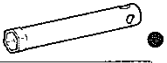
●タイヤ空気圧計



●⊖ドライバー
（サン・ルーフ付き車）



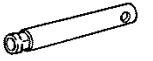
●ホイール・ナット・レンチ



4A-GEU，IG-GEUエンジンとう載車を除く



●ジャッキ・ハンドル・バー



4A-GEU，IG-GEUエンジンとう載車

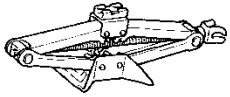


●プラグ・レンチ・バー

●プラグ・レンチ

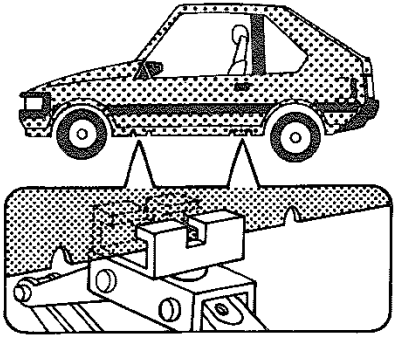
無断複製禁止

## ■ジャッキ



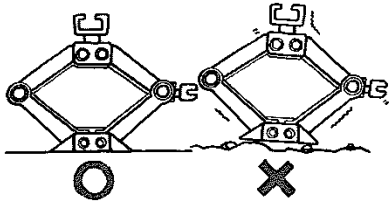
タイヤ交換およびタイヤ・チェーンを装着するときに使用します。

### ▶ジャッキをセットする位置



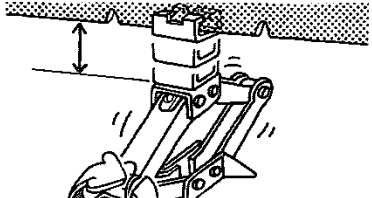
### ▶ジャッキのかけかた

1．ジャッキを地面の平らな固くて安定できるところにセットします。

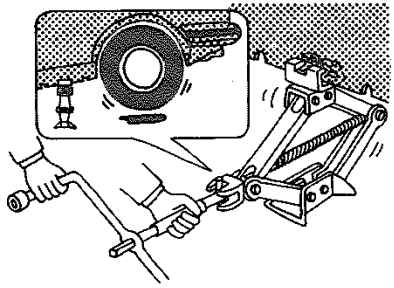


★人や荷物を車からおろしてください。

2．ジャッキを手で回して，ジャッキ・セット位置まで上げます。



3．ジャッキが確実にジャッキ・セット位置にかかっていることを確認し，ジャッキ・ハンドルを使用して，タイヤが地面から少しはなれるまでジャッキ・アップします。



★注意★

**ジャッキ・アップしたら車の下には絶対もぐらないでください。万一，ジャッキがはずれると大変危険です。**



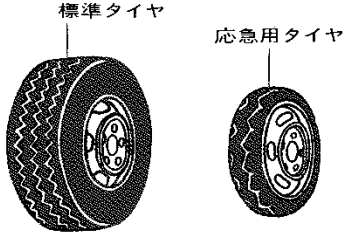
無断複製禁止

# パンクの処置

★作業をするとき車体端部などでケガをしないように注意してください。

★パンクした場合に，エアゾール製品の補修剤を使用したときは，早目にパンク修理してください。

## ■スペア・タイヤ



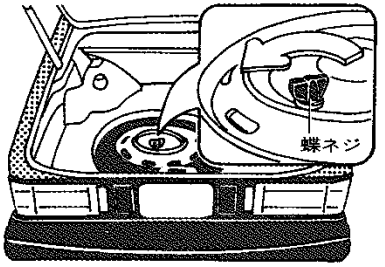

### ▶応急用タイヤ

タイヤがパンクしたとき，一時的に使用するタイヤです。

★この応急用タイヤは標準タイヤより空気圧が高く，また直径がやや小さくできています。したがって，この応急用タイヤをご使用される場合は次の注意事項をお守りください。

- 応急用タイヤの空気圧はときどき点検してください。
  空気圧：4.2kg/cm²（冷間時）
- 応急用タイヤを装着した場合は，100km/h以下で走行し，できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 雪道，凍結路では後輪に応急用タイヤを使用しないでください。(後輪がパンクした場合は，応急用タイヤを前輪に使用し，はずした前輪を後輪につけてください。)
- 応急用タイヤにタイヤ・チェーンを装着しないでください。後輪がパンクした場合は，応急用タイヤを前輪に使用し，はずした前輪を後輪につけてからタイヤ・チェーンを装着してください。
- 応急用タイヤを装着した場合，タイヤの直径が小さいため，車高が少し低くなりますので，突起物などを乗り越えるとき標準タイヤ装着時と同じ感覚で運転しないよう注意してください。
- この応急用タイヤとホイールはすべてセリカの専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたりセリカ以外の車に使用しないでください。

### ▶格納場所




クーペはトランクに，リフトバック，XXはデッキ・ルームに格納してあります。

1．蝶ネジを左に回して取り出します。

無断複製禁止

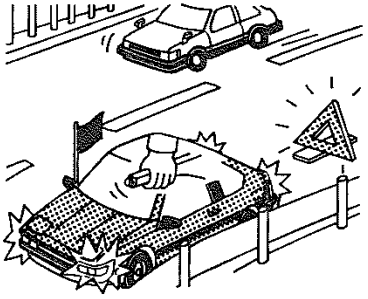
## ■タイヤ交換

### ▶準備

1．交通のじゃまにならず，安全に作業ができる平らな場所に車を止めます。

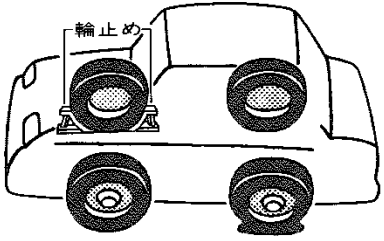
2．非常点滅灯を点滅させ，人や荷物をおろし，停止表示板を使用します。

3．駐車ブレーキ・レバーを引きます。



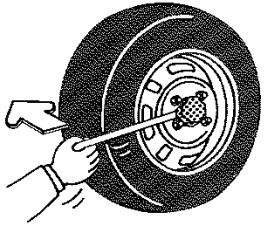
4．工具，ジャッキを取り出します。

5．パンクしたタイヤと対角の位置にあるタイヤの前後に輪止め（とう載工具に含まれています）をします。




6．スペア・タイヤを取り出します。（116ページの「スペア・タイヤ」の項目を参照してください。）

7．ホイール・キャップ，センター・キャップなどを取りはずします。



プラグ・レンチ・バーの柄の先を使うと楽にはずれます。

★直接手をかけて取ると指にケガをすることがあります。

★プラグ・レンチ・バー以外は使用しないでください。

（※1）樹脂ホイール・キャップ付き車は119ページを参照してください。

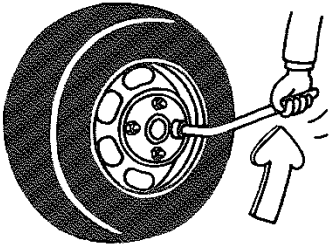


無断複製禁止

▶ジャッキ・アップ

1．ジャッキをセットします。
(115ページの「ジャッキ」の項目を参照してください。)

2．ホイール・ナット・レンチでナットを左に回し，手で回るくらいまでゆるめます。



3．車をタイヤと地面とが，少しはなれるまでジャッキ・アップします。

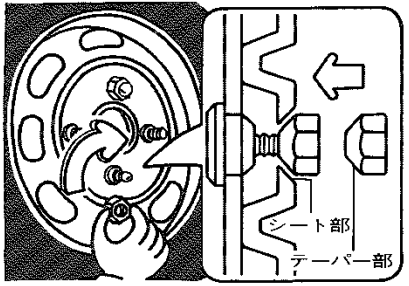
★注意

**ジャッキ・アップしたら車の下には絶対にもぐらないでください。万一，ジャッキがはずれると大変危険です。**

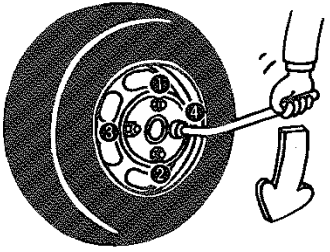
▶タイヤ交換

1．ナットをはずし，タイヤを取り替えます。

2．ナットのテーパー部がホイール穴のシート部に軽く当たり，タイヤがガタつかない程度までナットを右に回して仮り締めします。



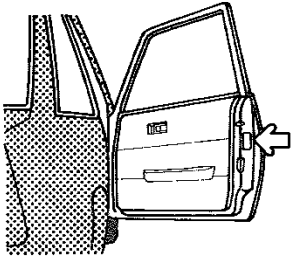

3．ジャッキを下げて図の順序で2～3度にわたり，レンチを使用して手で十分締め付けます。




★注意

**レンチを足で踏んだり，パイプなどを使用して必要以上に締め付けないでください。**

4．取り付けたタイヤの空気圧を調整します。
(運転席側ドア後部に貼られている「タイヤ空気圧」の表を参照してください。)



無断複製禁止

★注意

1．空気圧が不足している場合や，調整ができないときはひかえめな速度で走行してください。
2．空気圧が低いまま走行を続けると，高速走行時タイヤが疲労しバースト(破裂)するおそれがあります。チューブレス・タイヤの場合はタイヤとリムの密着が悪くなり空気が漏れやすくなります。
5．工具，ジャッキ，タイヤを片づけます。
タイヤを格納するときは確実に固定してください。

★応急用タイヤは，標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。パンクしたタイヤは，ただちに修理して，応急用タイヤと付け替えてください。

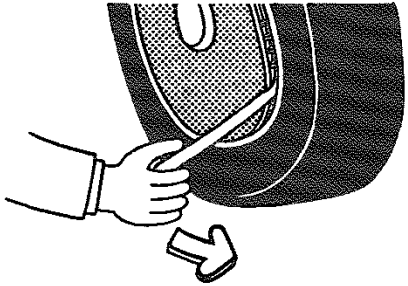
★パンク時に限らず，タイヤを脱着したときは，1,000km走行後，再度ホイール・ナットを締め付け，ゆるみがないことを確認してください。

★注意

1．タイヤ交換後，走行中ハンドルや車体に振動が出た場合はタイヤのバランスの点検をトヨタ販売店で受けてください。
2．タイヤを新品と交換する場合は，トヨタ販売店で相談をしてください。異なった種類のタイヤを個々に使用したり，指定サイズ以外のタイヤを使用することは車の安全走行に悪い影響をおよぼしますので絶対にさけてください。
3．スペア・タイヤの空気圧の点検は，日ごろから怠らないようにしてください。

▶樹脂ホイール・キャップの取りはずしかた

1．プラグ・レンチ・バーの先端を差し込んで，すき間をつくります。

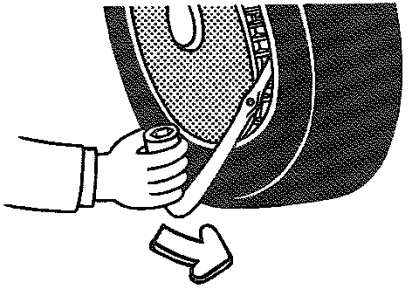


2．プラグ・レンチ・バーの先端を差し込んでホイールとキャップの間にホイール・ナット・レンチが十分はいるまでタイヤ側にこじってください。



無断複製禁止

3．ホイール・ナット・レンチを差し込みタイヤ側に強くこじれば，はずれます。



★直接手をかけて取ると指にケガをすることがあります。

★プラグ・レンチ・バー，ホイール・ナット・レンチ以外は使用しないでください。

▶アルミ・ホイール装着車

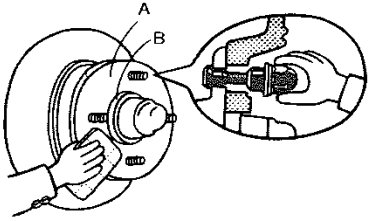
〈アルミ・ホイールの取り扱い〉

1．取りはずしたホイールを直接地面に置くとホイール面を傷つけるおそれがあります。

2．バランス・ウエイトおよびナットはトヨタ純正のアルミ・ホイール専用品をお使いください。

3．傷，変形のあるアルミ・ホイールは再使用しないでください。

4．アルミ・ホイールを再び車両に取り付けるとき図のA，B部のよごれをきれいにふいてからBの部分を確実にはめ，ホイール・ボルトが取り付け穴の中心にくるようにして，ホイール・ナットの座金がホイールに当たるまで手で締めます。



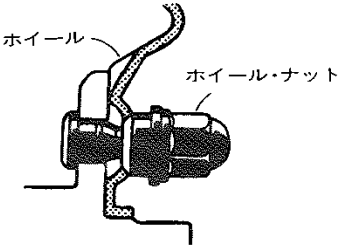

5．ホイール・ナットを締めすぎないよう注意してください。

6．ホイールに傷をつけるおそれがありますので，タイヤ・チェーンを装着しないでください。

雪路走行の予定があるときはスチール・ホイールに付け替えてください。

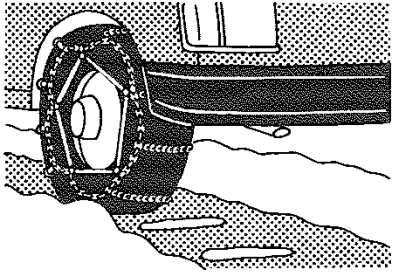
取り付ける場合，ホイール・ナットは下記のように取り付けてください。

スチール・ホイール装着時




無断複製禁止

# タイヤ・チェーンの装着



★タイヤ・チェーンは後2輪に取り付けます。

★作業をするとき車体端部などでケガをしないように注意してください。

★タイヤ・チェーンはタイヤ・サイズに合ったトヨタ純正品または下記指定サイズのものを使用してください。

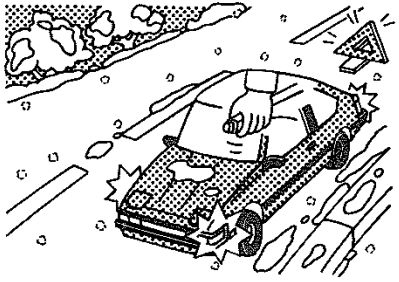
| タイヤ・サイズ | 指定サイズ(JIS表示) |
|---|---|
| 165 S R 13 | 4 5 1 8 1 A |
| 185/70 S R 14<br>195/60 R 15 86 H | 4 5 1 9 1 |
| 195/70 S R 14 | 4 5 1 9 2 |

▶取り付けかた

1．交通のじゃまにならず，安全に作業ができる平らな場所に車を止めます。

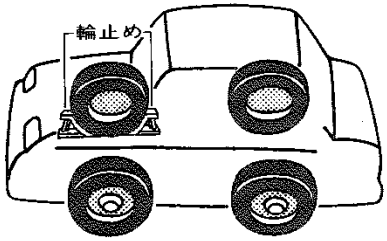
2．非常点滅灯を点滅させ，人や荷物をおろし，停止表示板を使用します。

3．駐車ブレーキをかけます。



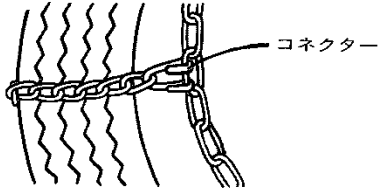
4．工具，ジャッキを取り出します。

5．左側チェーン取り付け時には右側前輪の前後，右側チェーン取り付け時には左側前輪の前後に輪止め(とう載工具に含まれています)をします。




6．後輪をジャッキ・アップします。(115ページの「ジャッキ」の項目を参照してください。)

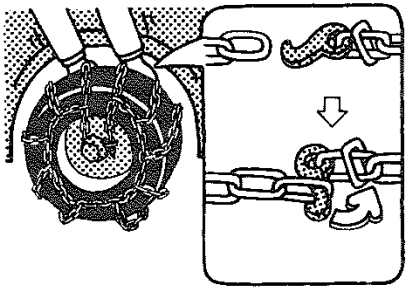
7．コネクターの折り曲げを外にしてタイヤを回しながらチェーンをかぶせます。



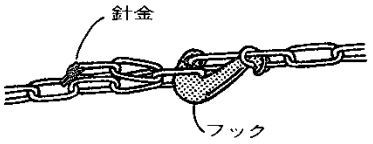



無断複製禁止

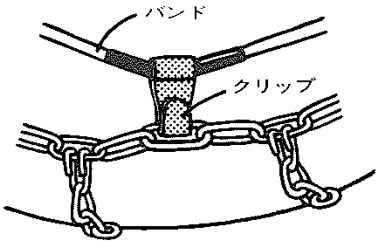
8．チェーンの両端をいっぱい引っ張って内側のフックを，次に外側を連結します。



9．余ったチェーンは車体に当たるのを防止するために図のように針金で結びます。




10．チェーン・バンドはクリップの爪を外向きにし，チェーンにかけます。




11．ジャッキをおろし輪止めをはずします。

12．2～3分走行後，チェーンのゆるみ，はずれなどがないことを確認してください。

★走行中タイヤ・チェーンが切れたり，一部はずれたりした場合は，車体側に当たり悪影響をおよぼしますのでただちに処置してください。

★ホイール・キャップ付き車の場合ホイール・キャップに傷がつくおそれがありますので，タイヤ・チェーンを装着する際には，ホイール・キャップをはずしてください。

★アルミ・ホイール装着車はホイールに傷をつけるおそれがありますので，タイヤ・チェーンを装着しないでください。雪路走行の予定があるときはスチール・ホイールに付け替えてください。

(120ページの「アルミ・ホイール装着車」の項目を参照してください。)

無断複製禁止

▶取りはずしかた

1．チェーン・バンドをはずし，針金を取り，フックは内側から先にはずします。

2．車を少し動かし，チェーンを取り出します。

★注意

**1．タイヤ・チェーン購入時に一度装着して，長すぎる場合はタイヤ・サイズに合うよう切ってください。**

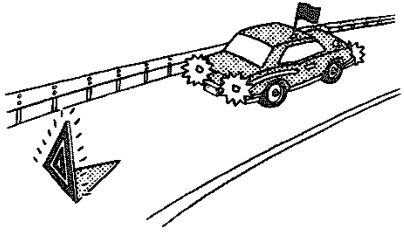
**2．タイヤ・チェーンを装着した場合は，次の速度で走行してください。**
**雪路，凍結路30km/h以下**

**3．乾燥路面でのタイヤ・チェーンの装着はチェーンの寿命を短くしますので，できるだけさけてください。**

**4．前輪にはタイヤ・チェーンを装着することはできません。**

# 万一のときの処置

## ■故障したら



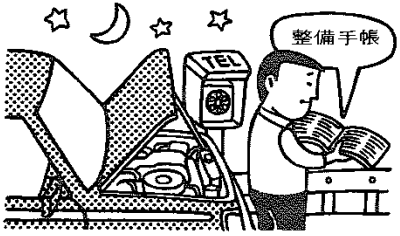
1．車を路肩に寄せ非常点滅灯を点滅させるか，赤旗などを表示します。

2．高速道路や自動車専用道路では，車両後方に停止表示板を置いてください。法律で義務づけられています。

**★非常電話を利用する場合などは，路肩を歩くよう心がけてください。**

## ■夜間，休日の修理連絡先

“整備手帳”巻末のトヨタ・サービス網をご覧ください。






無断複製禁止

**■走行中，エンジンが停止したときは**

運転操作に変化が生じますので，次の方法で車を安全な場所に停止してください。

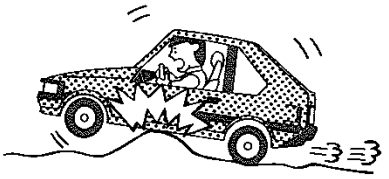
1．**ブレーキ倍力装置（ペダル踏力軽減装置）付き車**

ブレーキ倍力装置が作用しなくなりますので，ブレーキ・ペダルを強く踏んでください。

2．**パワー・ステアリング装置（ハンドル操作力軽減装置）付き車**

パワー装置が働かなくなりますので，ハンドル操作が重くなります。ハンドルを強く操作してください。

**■走行中，車体床下に強い衝撃を受けたときは**



ただちに車を止め，ブレーキ液の漏れや損傷を確認します。

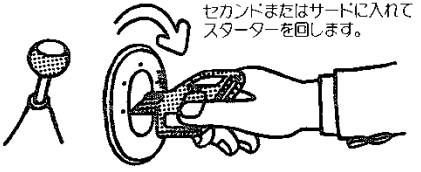
損傷がひどい場合はトヨタ・サービス工場で点検を受けてください。

**■エンストして始動できなくなったときは**

1．付近に人がいる場合は安全な場所まで押してもらってください。




2．マニュアル・トランスミッション車はチェンジ・レバーの位置をセカンドまたはサードに入れ，クラッチを踏まずにエンジン・スイッチをSTARTの位置で保持すれば車を動かすことができます。

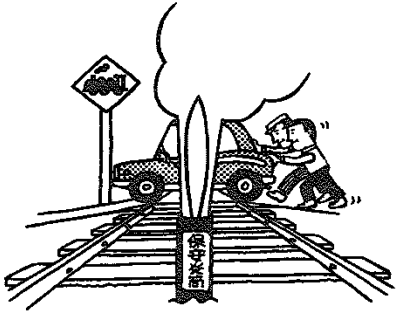



無断複製禁止

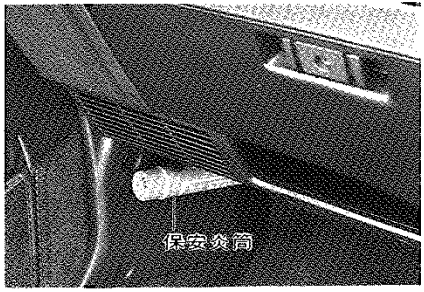
また平たん路の場合はトップにすると早く抜け出せます。
オートマチック・トランスミッション車はエンジン・スイッチで車を動かすことはできません。

3．踏切内で動かなくなり脱輪などすぐ動かせない場合は，ただちに踏切の非常ボタンを押します。

★電車が来そうになったり緊急を要するときは保安炎筒で合図してください。




■保安炎筒の使いかた




踏切内での故障など，非常時に使用します。

1．助手席足元左側に備え付けてあります。

2．発炎時間は約5分間です。
使用方法は保安炎筒のラベルに表示されています。よく読んで万一に備えてください。

3．有効期間はラベルに表示してあります。有効期間のきれる前にトヨタ販売店でお求めのうえ，交換しておいてください。

★注意

**1．お子様にはさわらせないでください。**

**2．非常信号用としてのみご使用ください。**

**3．使用中は筒先を顔や体に向けたり近づけたりしないでください。やけどの危険があります。**

**4．発炎時間は約5分ですので，非常点滅灯を併用するようにしてください。**



無断複製禁止

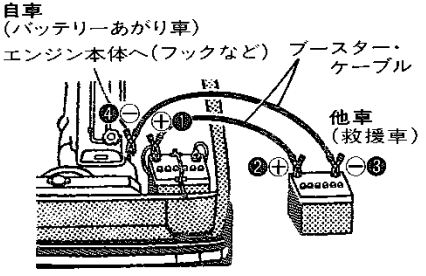
# 故障したときの応急処置

## ■バッテリーあがりの処置

バッテリーあがりによりエンジン始動ができない場合，ブースター・ケーブルがあれば，他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動することができます。

★救援車は必ず12Vのバッテリーが付いている車を使用してください。

1．ブースター・ケーブルを図の番号の順序に接続します。
⊕⊖を間違えないでください。




★①の接続は必ず自車（バッテリーあがり車）の⊕端子にしてください。

★④の接続はバッテリーからはなれたエンジン本体にしてください。バッテリーとバッテリーを直接接続すると，バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

2．接続後，他車のエンジンを始動させ回転数を少し高目にしておきます。

3．始動のしかたは25ページの「エンジンのかけかた」の項目を参照してください。

4．自車のエンジンが始動したら，取り付けたときの逆の順序でブースター・ケーブルを取りはずします。
バッテリーはすぐにガソリン・スタンドやトヨタ・サービス工場で完全充電してください。

### ★注意

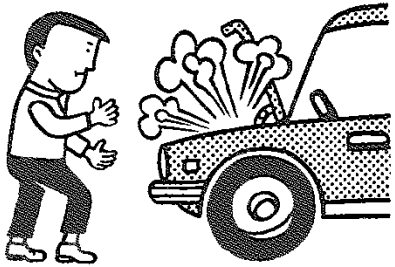
1．絶対に押しがけによる始動はやめてください。

2．ケーブル接続の際には，⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。

3．ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように接続には十分注意してください。

無断複製禁止

## ■オーバー・ヒートの処置

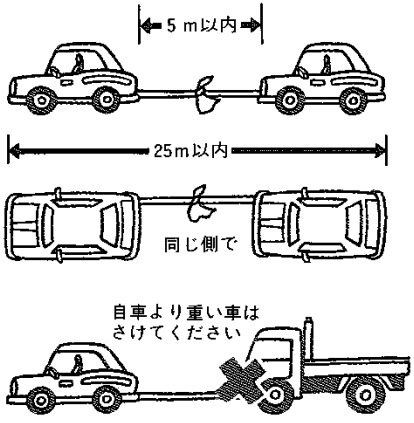


1．安全な場所へ車を止めてください。
2．エンジンをかけたままで，ボンネットをあけ，風通しをよくします。
3．水温計の針が下がってきたら，エンジンを止めます。
4．エンジンが十分に冷えてから，冷却水の有無，ラジエーターのコア部(放熱部)の著しいよごれ，ごみの付着の有無，Vベルトのゆるみを点検します。

★注意

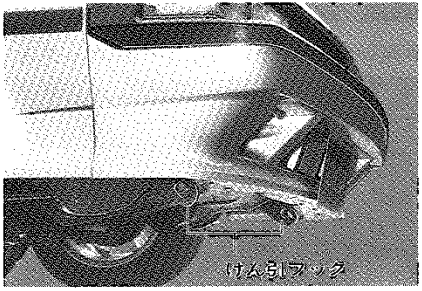
**あわててラジエーター・キャップをはずすと，冷却水には圧力がかかっていますので，蒸気や熱湯が吹き出して思わぬやけどをすることがあります。**

## ■けん引のしかた




### ▶ロープをかける位置

〈フロント側〉




〈リヤ側〉




けん引車は急発進，急停車をしないようにし，けん引される車はけん引車の制動灯に注意し，常にロープをたるませないように気をつけてください。

★注意

**1．けん引される車は，下記事項を厳守してください。**
- **チェンジ・レバーをⓃの位置にする。**
- **エンジン・スイッチをＡＣＣまたはＯＮにする。**
- **けん引される速度は30km/h以内（オートマチック・トランスミッション車のみ）**



無断複製禁止

- けん引される距離は80km以内（オートマチック・トランスミッション車のみ）

2．エンジンが停止していると，いつもよりブレーキの効きが悪くなります。

3．パワー・ステアリング（ハンドル操作力軽減装置）付き車はハンドル操作が非常に重くなります。できる限りエンジンを始動してけん引してください。

4．長坂路を下るときはブレーキが過熱し，効かなくなるおそれがあります。レッカー車にけん引してもらってください。

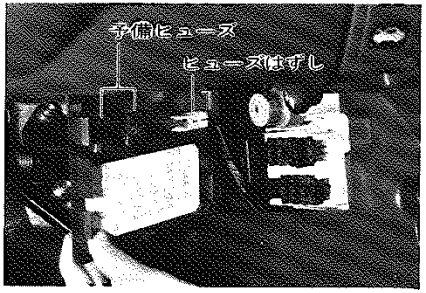
5．次の場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

- エンジンが回っているのに車が動かない，または異常な音がする。
- オートマチック・トランスミッション・オイルがない。

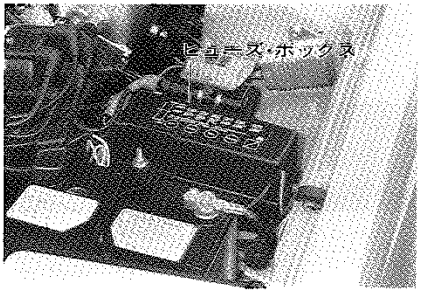
# ヒューズについて

## ヒューズ・ボックス

▶運転席足元ヒューズ・ボックス




▶エンジン・ルーム内ヒューズ・ボックス



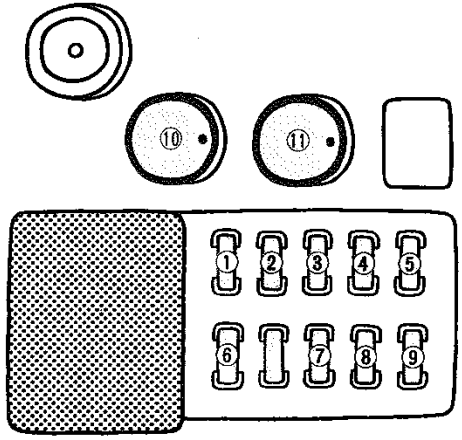

ヒューズ・ボックスは運転席足元とエンジン・ルーム内にあります。

運転席足元のヒューズ・ボックスの中には，ヒューズおよびサーキット・ブレーカーがあります。ヒューズおよびサーキット・ブレーカーの受け持っている装備品は129，130ページの表を参照してください。

★エア・コンディショナーが作動しないときは，トヨタ・サービス工場へご連絡ください。

無断複製禁止

運転席足元ヒューズ・ボックス




〈ヒューズの受け持つ回路〉

| | | | |
|---|---|---|---|
| ① | RADIO<br>ラジオ | 7.5A | ラジオ，ステレオ |
| ② | CIG<br>ライター | 15A | シガレット・ライター，電動フェンダー・ミラー，電動ドア・ミラー |
| ③ | GAUGES<br>メーター | 7.5A | 計器，警告灯類，速度警告装置 |
| ④ | IGN<br>イグニッション | 7.5A | EFI，排気コンピューター<br>排気温警告灯，燃料止めソレノイド |
| ⑤ | ECU IG<br>エレクトロニクスIG | 15A | オート・ドライブ |
| ⑥ | FOG<br>フォグ・ランプ | 20A | フォグ・ランプ |
| ⑦ | DOME<br>ルーム・ランプ | 7.5A | 室内灯，半ドア警告灯，時計<br>エンジン・キー照明，足元照明<br>デッキ・ルーム灯，マップ・ランプ |
| ⑧ | ECU+B<br>エレクトロニクスB | 15A | クルーズ・コンピューター |
| ⑨ | TURN<br>ターン | 7.5A | 方向指示灯 |

(注) 予備ヒューズは運転席足元ヒューズ・ボックスのカバーに取り付けられています。

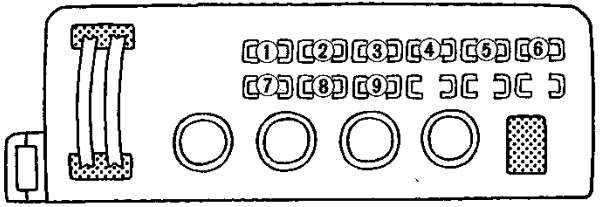
〈サーキット・ブレーカーの受け持つ回路〉

| | |
|---|---|
| ⑩ | リヤ・ウインドゥ・ガラス曇り取り装置 |
| ⑪ | 電動ウインドゥ，サン・ルーフ，電磁式ドア施錠装置 |



無断複製禁止

エンジン・ルーム内ヒューズ・ボックス




〈ヒューズの受け持つ回路〉

| | | | |
|---|---|---|---|
| ① | CHARGE<br>チャージ | 7.5A | 電熱チョーク<br>チャージ・ランプ・リレー |
| ② | ENGINE<br>エンジン | 15A | オールタネータ<br>ボルテージ・レギュレター |
| ③ | HAZ-HORN<br>ハザード-ホーン | 15A | ラジオ，前照灯昇降装置<br>非常点滅灯，警音器 |
| ④ | TAIL<br>テール・ランプ | 15A | 尾灯，番号灯，車幅灯<br>グローブ・ボックス・ランプ<br>チェンジ・レバー位置表示照明<br>時計照明，計器照明，ヒーター照明 |
| ⑤ | HEAD(RH)<br>ヘッドランプ(右) | 15A | 前照灯（右側） |
| ⑥ | HEAD(LH)<br>ヘッドランプ(左) | 15A | 前照灯（左側） |
| ⑦ | EFI | 15A | EFIコンピューター |
| ⑧ | WIPER<br>ワイパー | 20A | フロント・ワイパー&ウォッシャー<br>リヤ・ワイパー&ウォッシャー<br>前照灯クリーナー |
| ⑨ | STOP<br>ストップ・ランプ | 15A | 制動灯，駐車灯 |

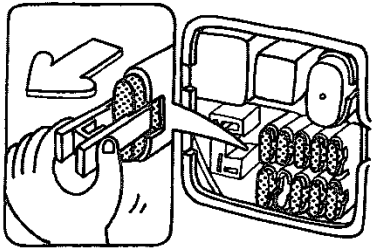
無断複製禁止

## ■ヒューズの交換

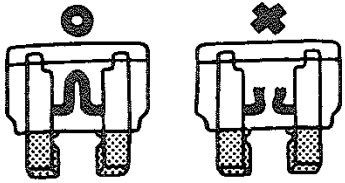
各ヒューズの受け持っている装置が作動しないときは，ヒューズ切れが考えられます。そのときは，次のように処置してください。

▶ヒューズ切れ

1．エンジン・スイッチをLOCKの位置にします。
2．ヒューズにヒューズはずしを差し込んで引き抜いてください。
（運転席足元ヒューズ・ボックスのカバーにヒューズはずしがついています。）



3．ヒューズが下図の右側のようであれば，ヒューズ切れです。予備ヒューズと交換してください。

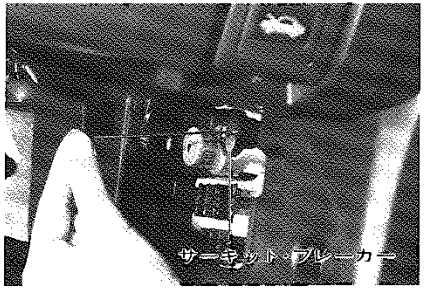


★注意

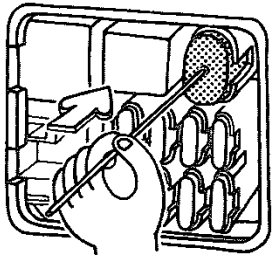
**1．取り付けてあるヒューズと同じヒューズを使用してください。針金，銀紙などを使用すると電線の過熱焼損の原因になります。**
**2．取り替えてもまたヒューズが切れる場合は点検を受けてください。**

## ■サーキット・ブレーカー

（装置を保護するため，電流が流れすぎたとき，電流をしゃ断する装置）




1．エンジン・スイッチをLOCKの位置にします。
2．サーキット・ブレーカーの穴に軽く針金をカチッという音のする位置まで差し込みます。





無断複製禁止

3．これでサーキット・ブレーカーの回路が復帰します。

★マッチ棒など折れやすい物は使用しないでください。

★以上の操作をしても，装備品が作動しないときや，サーキット・ブレーカーの回路が再び切れる場合は，トヨタ・サービス工場で点検を受けてください。

★注意

**電動ウインドゥ，サン・ルーフ，電磁式ドア施錠装置が作動しないときは，トヨタ・サービス工場へご連絡ください。**

# 電球について

## ■電球について

▶フロント側

| | |
|---|---|
| 前照灯 | |
| ハロゲン＊ | 60/55W |
| 白熱灯 | 65/55W |
| フォグ・ランプ | 55W |
| 車幅灯／駐車灯 | 5W |
| フロント方向指示灯（非常点滅灯） | 23W |
| サイド方向指示灯（非常点滅灯） | 5W |

▶リヤ側

| | |
|---|---|
| 方向指示灯（非常点滅灯） | 23W |
| 制動灯／尾灯／駐車灯 | 21/5W |
| 後退灯 | 23W |
| 番号灯 | 10W |

▶室内

| | |
|---|---|
| 室内灯 | 10W |
| ドア・ランプ | 5 W |
| デッキ・ルーム灯 | 5 W |
| ハンディ・マップ・ランプ | 3 W |

★電球の交換は必ず同容量のものにしてください。

★ハロゲン・ランプ(ヨウ素入り電球)は使用時電球が高温になるため，表面に油などが付着すると寿命が短くなります。

電球交換時に手などがガラス部に触れないように注意してください。

無断複製禁止

＊印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

# 車の手入れと経済運転のコツ

**車の手入れ**……134
車を美しく保つには……134
リヤ・シートの取りはずしかた……137
**ムダなく運転するコツ**……137
**寒冷地での取り扱い**……140





無断複製禁止

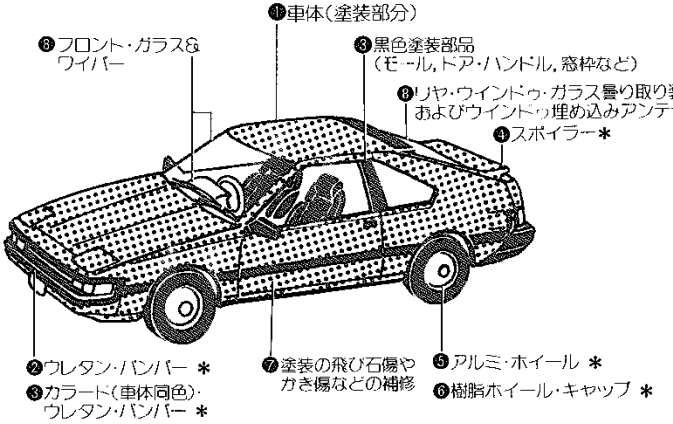
# 車の手入れ

## ■車を美しく保つには

車をいつまでも美しく保つためには，日頃の手入れが必要です。

1．次のような場合は必ず洗車してください。
- 海岸地帯を走行したとき。
- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき。
- コールタール，ばい煙，油煙，樹液，鳥のふん，虫の死がいなどが付着したとき。
- ほこり，泥などで著しくよごれたとき。

2．次のような場所に長時間駐車しますと，塗装の劣化や，車体，部品の腐食などを早める原因となります。十分注意してください。
- 海岸
- ばい煙，油煙，粉じん，鉄粉などの降下の多い場所。
- 化学物質を排出する工場周辺。
- 樹液，鳥のふん，虫の死がいなどの付着の多い場所。




### ❶車体(塗装部分)の手入れ

車体のほこりは柔らかい布か毛ばたきで取ってください。

▶洗車方法

★エンジン・ルーム内の電気部品に水をかけないように注意してください。エンジン始動不良の原因となります。

★下回りを洗うときは，ゴム手袋などを着用してください。手にケガをするおそれがあります。

1．車体の下回り，足回りを洗います。

2．次に，車体に十分水をかけながら，スポンジかセーム皮（鹿のなめし皮）でよごれを洗い落とします。

3．よごれのひどいときは，カー・シャンプーを使用します。

★カー・シャンプーを使用したあとは水で十分洗い流してください。

★自動洗車機を使用すると，ときによりブラシの傷がつき塗装の光沢が失なわれたり，劣化を早めることがあります。とくに，濃彩色車やメタリック車はスリ傷がめだちやすくなり

＊印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

無断複製禁止

ます。

4．塗装面にはん点が残らないように十分水をふき取ります。

▶ワックスがけ

ワックスの中にコンパウンド（みがき粉）がはいっていないものをご使用ください。

1．1か月に1度または水のはじきが悪くなったときに行なってください。

2．洗車後，車体の温度が体温以下のときに行なってください。

3．ワックスは次のトヨタ純正品をお使いください。

オートワックス・フレッシュ
オートワックス・シルバー
オートワックス・ゴールド
オートワックス・メタリック
（メタリック塗装用）

4．上記のワックスを使用しても，よごれがひどく落ちにくいときは，次のトヨタ純正品をお使いください。

オートワックス・ホワイト&クリーン
オートワックス・スピーディ

★これらのワックスの中には微粒なコンパウンド(みがき粉)がはいっていますので，よごれ落ちはよくなりますが，塗装面を削り取るため塗装面の光沢が失なわれる原因になります。また使用した布に色が付着することがあり，とくに濃彩色車ではめだちやすくなります。できる限り3.のワックスを使用してください。

❷ウレタン・バンパーの手入れ

1．車体と同じく洗車したあと次の専用ワックスでワックスがけをします。

オートワックス・ブラック（ウレタン・バンパー用）

2．たわしなど硬い物を使用して洗うと傷がつきますので，セーム皮，スポンジなどをご使用ください。

3．塗装用ワックスや泥が付着すると，ウレタンの目地にはいり白くなることがあります。この場合は，水で洗い落とした後，専用の黒色ワックスを塗布してください。

★コンパウンド入りワックスや，液状ワックスは使用しないでください。

★エンジン・オイル，グリースなどの油分が付着すると，変色，しみなどの原因となります。十分注意してください。

❸カラード(車体同色)・ウレタン・バンパー／黒色塗装部品(モール，ドア・ハンドル，窓枠など)の手入れ

1．車体と同じく，洗車したあとワックスがけをします。

2．たわしなどの硬い物を使用して洗うと傷がつきますので，セーム皮，スポンジなどをご使用ください。

❹スポイラーの手入れ

1．車体と同じく，洗車したあとトヨタ純正ワックスでワックスがけをします。

2．たわしなどの硬い物を使用して洗うと傷がつきますので，セーム皮やスポンジなどをご使用ください。



無断複製禁止

★エンジン・オイル，グリースなどの油分が付着すると，変色，しみなどの原因となります。十分注意してください。

❺アルミ・ホイールの手入れ

★泥の付着，海水，凍結防止剤などにより汚染されると，腐食するおそれがありますので，付着させたままにせず，なるべく早く洗い落としてください。

1．ホイールを洗うときは，中性洗剤を使用してください。

2．ワイヤー・ブラシなど硬い物を使用して洗うと，ホイール面に傷がつきます。セーム皮，スポンジなどをご使用ください。

3．洗車後は十分水洗いをし，車体と同じワックスでワックスがけをしてください。

★コンパウンド入りワックスは，よごれがひどく落ちにくいときだけに限定してご使用ください。

★自動洗車機を使用すると，ときによりブラシの傷がついたり塗装膜の摩耗を早めることがあります。

❻樹脂ホイール・キャップの手入れ

セーム皮，スポンジなどで十分水をかけながら洗ってください。たわしや，自動洗車機の硬いブラシを使用すると塗色部に傷がつきます。

★市販のピッチ・クリーナーなどが樹脂部分に付着すると，破損の原因となりますので，十分注意してください。

❼塗装の飛び石傷やかき傷などの補修

これらの傷は腐食の原因となります。見つけたら早目に補修してください。

❽ウインドゥ・ガラスについて

ワイパーのふきが悪くなった場合は，ガラス・クリーナーで清掃してください。なお，ワイパー・ゴムが古くなっている場合も同様にふきが悪くなりますので最寄りのトヨタ・サービス工場で交換してください。

★曇り取り装置付きのリヤ・ウインドゥ・ガラス(室内側)の清掃は，断線を防止するため，湿った布で熱線にそって，軽くふいてください。

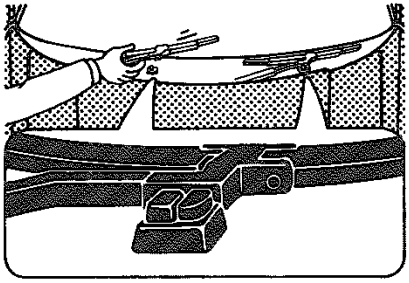
ガラス・クリーナーなどを使用すると，リヤ・ウインドゥ・ガラス曇り取り装置が作動しなくなるおそれがあります。

★ワイパーはウインドゥ・ガラスを清掃するときに便利なよう起こすことができますが，取り扱いを誤るとボンネットやワイパー・モーターを損傷するおそれがありますので次のことに注意してください。

● ワイパーを起こした状態でボンネットをあけないでください。

無断複製禁止

●ワイパーを起こした場合は下図の位置になるよう必ず手でセットしてください。



■リヤ・シートの取りはずしかた

シート・カバーの取り付けなどでリヤ・シートを取りはずすときは，次の要領で行なってください。

1．シートの足元にあるレバー(2箇所)を引き，シート前部を持ち上げます。




★注意

**レバーを引かずにシートを持ち上げると，シート固定具を損傷するおそれがあります。**

# ムダなく運転するコツ

■暖機運転は，長すぎると不経済

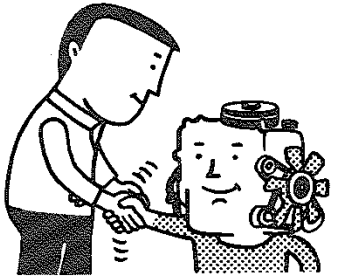


水温計の指針が動き出すまで（40～50℃）になればOKです。
（25ページの「エンジンのかけかた」の項目を参照してください。）



無断複製禁止

## ■エンジンをいたわる気持が，長持ちの秘訣



1．(新車時は特に)控え目な運転をしてください。

2．エンジンをオーバーラン（限界回転数超過）させないために，各チェンジ・レバーの位置での速度が次表の数値を越えないように運転してください。

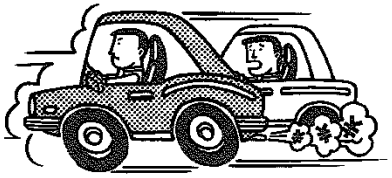
3．特に高速走行時のシフト・ダウン(ギヤを1段落とすとき)はオーバーランに注意してください。

（単位：km/h）

| 排気量 | エンジン型式 | トランスミッション型式 | 1速 | 2速 | 3速 | 4速 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1600 | 4A−GEU | 5速トランスミッション | 50 | 85 | 125 | 170 |
| 1800 | 1S−U | 5速トランスミッション | 35 | 70 | 105 | 150 |
| | | オーバードライブ付き4速オートマチック・トランスミッション | 55 | 95 | 140 | |
| | 3T−GTEU | 5速トランスミッション | 45 | 75 | 115 | 160 |
| | | オーバードライブ付き4速オートマチック・トランスミッション | 55 | 105 | 160 | |
| 2000 | 1G−EU | 5速トランスミッション | 45 | 75 | 115 | 150 |
| | | 2ウェイ・オーバードライブ付き4速オートマチック・トランスミッション | 55 | 95 | 135 | |
| | M−TEU | オーバードライブ付き4速オートマチック・トランスミッション | 50 | 90 | 135 | |
| | 1G−GEU | 5速トランスミッション | 45 | 85 | 125 | 170 |
| 2800 | 5M−GEU | 5速トランスミッション | 50 | 85 | 110 | 165 |
| | | ECT-S(2ウェイ・オーバードライブ付き電子制御式4速オートマチック・トランスミッション) | 60 | 115 | 165 | |

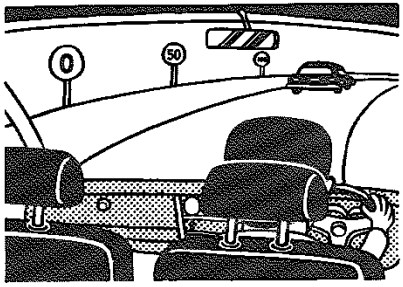
無断複製禁止

### ■不必要な高速運転は燃料のムダ使い

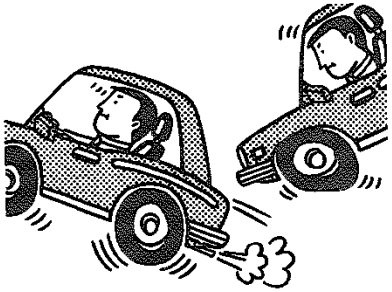


100km/h走行時の燃料消費量は，40km/h走行時の約1.5～1.7倍にもなります。高速道路は80km/h程度で走るのが経済走行といえます。

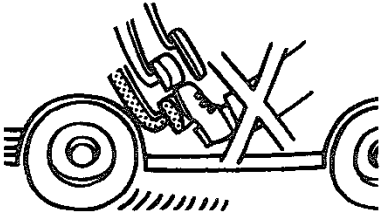
### ■車間距離はゆったりとって，安全プラス経済運転



### ■急発進，急ブレーキは危険をともない不経済



### ■クラッチの適正で確実な操作は，車を長持ちさせる秘訣



1．ギヤを入れるときは，クラッチ・ペダルを十分踏み込んでから行なってください。
中途半端な踏みかたですと，クラッチはもちろんトランスミッションのギヤなども傷めることになります。

2．走行中は，クラッチ・ペダルに足を乗せないようにしてください。

3．発進時は，ロー(1速)・ギヤを使用してください。セカンド(2速)・ギヤ発進など半クラッチの多用はクラッチの摩耗を早めます。

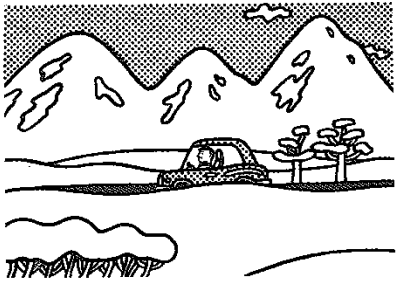


無断複製禁止

# 寒冷地での取り扱い

この項目での寒冷地とは，北海道全域および東北，北陸の積雪地帯および，その他の地域を含めた山岳地，スキー場などの局地的な厳寒地区，多雪地区を対象としておりますが，その他の地域においても，冬期の取り扱いの参考としてください。

## ■安全なウインター・ドライブをするために



1．タイヤ・チェーンの準備

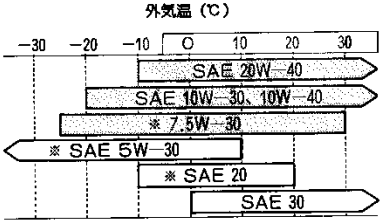
2．スノー・タイヤの装着
スノー・タイヤに取り替えるときは，4輪とも交換します。

3．冷却水の濃度を点検してください。
(寒冷時は，キヤッスル・ロング・ライフ・クーラントの濃度を50%にします。)

4．ウォッシャー液の濃度を50%以上にあげます。

| 使用地域・季節 | 希釈割合 | 凍結温度 |
|---|---|---|
| 通　常 | 原液1に水2 | −10℃ |
| 寒冷地の冬期 | 原液1に水1 | −20℃ |
| 極寒冷地の冬期 | 原液のまま | −50℃以下 |

5．エンジン・オイルの粘度番号は，車の運転条件によって多少異なりますが，外気温によって下表を参考にして使い分けてください。




※印のオイルはターボ車には使用できません。

★外気温が0℃以下になる時期にはSAE 30を，また20℃以上になる時期にはSAE20を使用しないでください。10W−30などのマルチ・グレード・オイルの使用をおすすめします。

6．寒冷地では冬がくる前に，燃料タンクの水分を排出することをおすすめします。
また，水分除去剤にはトヨタ純正キヤスミック・エース・ウォーターカットを使用してください。

7．凍結防止用ワイパー・ゴムの装着
必ずトヨタ純正品を使用してください。

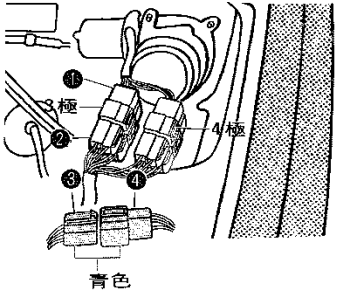
8．ワイパー・モーターのコネクター切り替え
XX車は，フロント・ガラスに多量の雪が積もった場合ワイパーが上がらなくなりワイパー・モーターを損傷するおそれがありますのでワイパー・モーターのコネクターを切り替えてご使用ください。

無断複製禁止

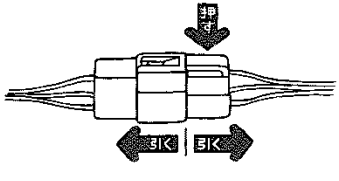
<切り替え方法>

エンジン・ルーム左側うしろにあるコネクターの接続を次のように切り替えます。

1．ワイパー・モーター横のコネクター（3極）❶，❷と下側にある青いコネクター❸，❹を切り放します。

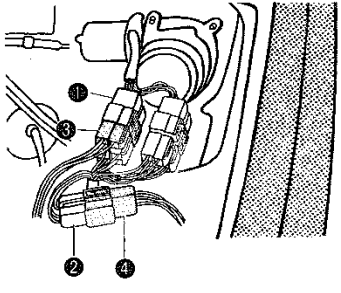



コネクターはフック部を押しながら左右に切り放します。




★切り放すときはコードを持って引っ張らないでください。断線するおそれがあります。

2．1.で切り放したコネクター❶～❹を下図のように切り替えて接続します。




★コネクターを接続したときにカチッと音がしてロックされたことを確認してください。

## ■走行前の点検（運行前点検）

寒冷時には，次の項目を運行前点検のときに実施してください。

1．車の下をのぞいて，足回りに付着した氷塊を部品に傷をつけないように注意して取り除いてください。

2．エンジン始動時にアクセル・ペダルやチョークの作動が円滑かどうか確認してください。

3．フロント・ウインドゥの氷雪を除去する際には，ワイパー・ゴムがガラスに凍結していないか確認してください。



無断複製禁止

**■エンジンの冷えすぎを防ぐには**

1．気温に応じてラジエーター前面にカバーをつけるとエンジンを適温に保つのに効果があります。

2．駐車するときは，ボンネット側を風下にしてください。

**■ドアの凍結時の処置**

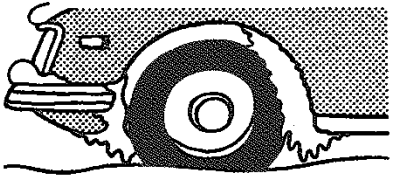
ドアが凍結した場合は無理にあけようとするとドア回りのゴムがはがれたり，き裂するおそれがありますので，湯をかけて氷を溶かしてください。なお，後で水分を十分ふき取ってください。

**■ターボ車はエンジン始動直後に，エンジンの急激な空ふかしまたは急加速をしないでください。**

ターボ機能を損うおそれがあります。

**■雪道走行時，フェンダー裏側に付着した雪が氷結し次第にたい積して，ハンドルの切れが悪くなることがあります。**

ときどき異常のないことを確認してください。



**■アクセル・ペダル凍結防止のため，乗車時，靴に付着した雪をよく落としてください。**

**■凍結するおそれのある場合の駐車は**

寒冷時は駐車ブレーキ・レバーを引いておくとブレーキ装置が凍結するおそれがありますので，駐車ブレーキ・レバーは引かないでください。




1．チェンジ・レバーの位置をマニュアル・トランスミッション車はロー（1速）またはリバース（後退），オートマチック・トランスミッション車はⓅにします。

2．車が絶対に動くことのないように輪止め（とう載工具の中に含まれています）をしてください。

無断複製禁止

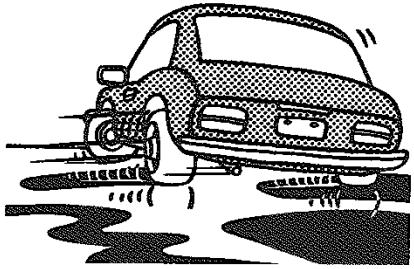
**■寒冷地では雪道走行時あるいは駐車時にブレーキ装置に着氷し，ブレーキの効きが悪くなる場合があります。**

走行中は前後の車や道路状況に注意し，ときどき軽くブレーキ・ペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

また，駐車後走行を開始する場合も，できるだけ早くブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪い場合は低速で走行しながら，効きが回復するまで数回ブレーキ・ペダルを軽く踏んでください。

**■ぬれた路面，氷雪路面，凍結路面ではスリップに注意**



控え目な速度で走り，氷雪路面，凍結路面では，スノー・タイヤ，タイヤ・チェーンを装着してください。

地域によっては，条例などで使用が義務づけられていますので，冬がくる前に準備しておいてください。



無断複製禁止

# 装備品一覧表

装備品の取り扱いは本文中に＊印をつけて説明してあります。なお、装備仕様は変更により車両と一致しない場合があります。

●……標準装備　△……注文装備

| 装備品 ＼ グレード | | | エレクトロニック・ディスプレイ・メーター | 電圧計 | 電動ドア・ミラー | 電動フェンダー・ミラー | 任意速度警報装置 | ワイパー フロント・ミスト | ワイパー フロント・間けつ | ワイパー フロント・間けつ時間調整式 | 前照灯クリーナー | リヤ・ワイパー | 計器照度調整装置 | オート・ドライブ | バーチカル・アジャスタ | スポーツ・シート | サポート ランバー・機械式 | サポート ランバー・空気式 | レスト ヘッド・上下調節式 | レスト ヘッド・前後・上下調節式 | 分割式前倒れリヤ・シート | 電磁式ドア施錠装置 | ウインドウ 電動 ワンタッチ＋キーOFF作動 | ウインドウ 電動 ワンタッチ | サン・ルーフ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 説明ページ | | | 10 | 16 | 35 | 35 | 35 | 39 | 39 | 39 | 41 | 41 | 43 | 44 | 48 | 48 | 49 | 49 | 50 | 50 | 51 | 56 | 57 | 59 | 63 |
| クーペ／リフトバック | 1600(4A-GEU) | GT | | ● | | | | | ● | | | ※2 ● | | | | | | | ● | | ※2 ● | | | | △ |
| | | GT－R | △ | ● | ● | △ | ● | | ● | | | ※2 ● | △ | | ● | ● | | ● | | ● | ● | | | | △ |
| | 1800(1S-U) | SV | | | | | | ● | | | | | | | | | | | ● | | ※2 ● | | | | |
| | | ST | | | | | | | ● | | | | | | | | | | ● | | ※2 ● | | | | |
| | | SX | | ● | ● | △ | ● | | | ● | | ※2 ● | | | ● | | ● | | | ● | ● | | | △ | △ |
| | 1800(3T-GTEU) | GT－T | | ● | ● | △ | | | ● | | | ※2 ● | | | | | | | ● | | ※2 ● | | | | △ |
| | | GT－TR | △ | ● | ● | △ | ● | | ● | | | ※2 ● | △ | | ● | ● | | ● | | ● | ● | | | △ | △ |
| XX | 2000(1G-EU / M-TEU) | S | | ● | ● | △ | | | | ● | | ● | ● | | ● | | ● | | | ● | ● | | ● | | △ |
| | | G | △ | ● | ● | △ | ● | | | ● | ※1 ● | ● | ● | | ● | ● | | ● | | ● | ● | ※1 ● | ● | | △ |
| | 2000(1G-GEU) | GT | △ | ● | ● | △ | ● | | | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | ● | | △ |
| | 2800(5M-GEU) | | ● | | ● | △ | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | | ● | ● | ● | ● | | △ |

無断複製禁止

※1　1G-EUエンジンとう載車のみ
※2　リフトバックのみ
※3　M-TEUエンジンとう載車のみ

| 装備品 / グレード | | | 時計 デジタル | 時計 水晶式三針 | フタ付きコンソール・ボックス | ドア・アーム・レスト・ポケット | ポケットドア 運転席＋助手席 | ポケットドア 運転席のみ | ポケット付きリヤ・アーム・レスト | 背もたれポケット | デッキ・ルーム・カバー | メモライザー | ラジオ AM | ラジオ AM/FM（3スピーカー） | ラジオ AM/FMマルチ（5スピーカー） | ラジオ AM/FM電子サーチ式番組予約機構付き | ラジオ AM/FM電子サーチ式カセット一体 | エア・コンディショナー | オート・エア・コンディショナー | ハロゲン・ランプ | バンパー フロント・ウレタン | バンパー フロント・カラード・ウレタン | バンパー リヤ・ウレタン | バンパー リヤ・カラード・ウレタン | 樹脂ホイール・キャップ | アルミ・ホイール | スポイラー |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 説明ページ | | | 65 | 66 | 70 | 70 | 70 | | 70 | 71 | 72 | 72 | 80 | 82 | 82 | 84 | 88 | 97 | 99 | 132 | 134 | | 134 | | 134 | 134 | 134 |
| クーペ／リフトバック | 1600(4A-GEU) | GT | ● | | | ● | | ● | ※2 ● | | ※2 ● | ● | | ● | | | | △ | △ | ● | | ● | ● | | △ | |
| | | GT−R | ● | | ● | ● | ● | | ● | ● | ※2 ● | | | | ● | △ | | △ | △ | ● | | ● | ● | | | ● | |
| | 1800(1S-U) | SV | | | | | | | | | | ● | ● | | | | | △ | △ | | ● | | ● | | | | |
| | | ST | | ● | | ● | | ● | ※2 ● | | | ● | | ● | | | | △ | △ | | | ● | ● | | | | |
| | | SX | ● | | ● | ● | | ● | ● | ● | ※2 ● | | | | ● | △ | | △ | △ | ● | | ● | ● | ● | | | |
| | 1800(3T-GTEU) | GT−T | ● | | | ● | | ● | ※2 ● | | ※2 ● | ● | | ● | | | | △ | △ | ● | | ● | ● | | △ | |
| | | GT−TR | ● | | ● | ● | ● | | ● | ● | ※2 ● | | | | ● | △ | | △ | △ | ● | | ● | ● | | ● | |
| XX | 2000(1G-EU / M-TEU) | S | ● | | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | | | | △ | △ | ● | | ● | | ● | △ | |
| | | G | ● | | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | | | | ● | △ | | △ | △ | ● | | ● | | ● | ● | ※3 △ |
| | 2000(1G-GEU) | GT | ● | | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | | | | ● | △ | | △ | △ | ● | | ● | | ● | ● | △ |
| | 2800(5M-GEU) | | ● | | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | | | | | ● | △ | △ | △ | ● | | ● | | ● | ● | △ |

無断複製禁止

# 燃料，油脂，冷却水容量

▶エンジン(エンジン・オイル)

| 排気量 | エンジン型式 | オイルのみ交換時 (ℓ) | オイルとフィルター交換時 (ℓ) |
|---|---|---|---|
| 1600 | 4A−GEU | 3.0 | 3.3 |
| 1800 | 1S−U | 3.6 | 3.8 |
| | 3T−GTEU | 3.0 | 3.4 |
| 2000 | 1G−EU | 3.7 | 4.3 |
| | M−TEU | 5.0 | 5.5 |
| | 1G−GEU | 3.7 | 4.3 |
| 2800 | 5M−GEU | 4.6 | 5.1 |

▶マニュアル・トランスミッション(ギヤ・オイル)

4A-GEU, 1S-U …… 1.7ℓ

3T-GTEU, 1G-EU, 1G-GEU, 5M-GEU …… 2.4ℓ

▶オートマチック・トランスミッション(オイル)

1S-U …… 6.3ℓ

3T-GTEU, 1G-EU, M-TEU, 5M-GEU …… 6.5ℓ

▶ディファレンシャル(オイル)

1S-U …… 1.3ℓ

1G-EU …… 1.0ℓ

4A-GEU, 3T-GTEU,
M-TEU, 1G-GEU, 5M-GEU …… 1.2ℓ

▶冷却水

1S-U …… 6.8ℓ

4A-GEU …… 5.6ℓ

3T-GTEU …… 7.6ℓ

1G-EU, 1G-GEU …… 7.5ℓ

M-TEU …… 10ℓ

5M-GEU …… 8.0ℓ

▶燃料タンク容量……61ℓ

▶パワー・ステアリング(液)…… 0.8ℓ

無断複製禁止

# INDEX

## 索引


### ア

足元照明……66
アルミ・ホイール
　取りはずし……120
　手入れ……136
アンテナ……80

### イ

ECT(電子制御式4速オートマチック・トランスミッション)……30
イルミネーテッド・エントリー・システム(エンジン・キー照明，足元照明)……66
インストルメント・パネル(計器盤)……8
イグニッション・スイッチ(エンジン・スイッチ)……24

### ウ

ウインドゥ・ガラス
　電動ウインドゥ……57
　手入れ……136
ウオッシャー
　フロント用スイッチ……39
　リヤ用スイッチ……41
　タンク……42
ウレタン・バンパーの手入れ……135
運転方法……27，104，137
運行前点検……4，141

### エ

エア・コンディショナー
　通常の冷房……97
　早く冷房したいとき……98
　ガラスの曇りを取るとき(除湿)……98
　点検……97
エレクトロニック・ディスプレイ・メーター(デジタル式メーター)……10
エンジン・オイル
　使用オイル……109，110，140
　オイル量……146
エンジン回転計……12
エンジン・キー……24，105，127
エンジン・キーが回らないとき……24
エンジン・キー照明……66
エンジンのかけかた
　エンジンが冷えているとき……25
　エンジンが暖まっているとき……25
　ＥＦＩ付き車……26
　ターボ車……26
エンジンの止めかた……26
エンジン・スイッチ……24，105
エンストしたら……124
エンジン・フード(ボンネット)……60
エンジン・ルーム……108
エンジン・ブレーキ……28，105
エンジン警告灯……19

### オ

オイル
　エンジン……109，110，140，146
　トランスミッション……146
　ブレーキ……110
　クラッチ……110
　パワー・ステアリング……146
オイル・プレッシャー・ウオーニング・ランプ(油圧警告灯)……17
オイル・プレッシャー・ゲージ(油圧計)……17
応急用タイヤ(タイヤ参照)……116
オート・エア・コンディショナーの使いかた……99
オートマチック・トランスミッション
　運転方法……27，106，138
　オイル量……146
　けん引……127
オート・ドライブ(自動定速走行装置)
　働き……44
　使いかた……44
オドメーター(積算距離計)……12
オーバー・ヒートの処置……127
オーバーラン(限界回転数超過)……138
オーバードライブ（4速オートマチック・トランスミッション)
　働き……27
　使いかた……27

### カ

可倒式ドア・ミラー……34
カセット・ステレオの使いかた……89
カセット・テープの取り扱い……91
寒冷地での運転……140
カラード(車体同色)・ウレタン・バンパーの手入れ……135
外装の手入れ……134
ガソリン(燃料)……108
ガソリン・タンク(燃料タンク)……13，61，146

### キ

緊急時の取り扱い(故障したら参照)
キャッスル製品……109，110

### ク

区間距離計……12
クラッチ
　点検……110
　液……110


無断複製禁止

クルーズ・コンピューター
（走行情報表示装置）
働き……73
使いかた……74
グローブ・ボックス(小物入れ)の
施錠・解錠……69

## ケ

計器照度調整……43
計器盤……8
化粧ミラー……71
けん引
ロープをかける位置……127
注意事項……127
オートマチック・
トランスミッション車……127

## コ

高速運転……106, 138, 139
工具の格納場所……114
故障したら
エンスト……124
オーバー・ヒート……127
連絡先……123
バッテリーあがり……126
パンク……116
コンソール・ボックス(小物入れ)……70

## サ

サイ・サポート・アジャスタ(シート参照)
サイド・サポート・アジャスタ
（シート参照）
サン・ルーフ
電動での開閉……63
手動での開閉……64
サーキット・ブレーカー……131

## シ

シート
前後位置調整……47
リクライニング調整……47
バーチカル・アジャスタ……48
サイ・サポート・アジャスタ……48
サイド・サポート・アジャスタ……48
ランバー・サポート……49
ヘッド・レスト……50
シート・ベルト
装着方法……53, 106
取りはずし……53
手入れ……55
室内灯……67
シガレット・ライター……67
シフト・レバー(チェンジ・レバー)……26
車種一覧表……5
触媒装置……20, 104
充電警告灯……16
ジャッキ
格納場所……114
ジャッキ・セット位置……115
純正部品，製品……4, 111
樹脂ホイール・キャップ
取りはずし……119
手入れ……136
チェーン装着時……122

## ス

水温計……15
ステレオ(ラジオ，カセット・ステレオ)
……82, 84, 88
スピードメーター(速度計)……12
スペア・タイヤ
格納場所……116
交換方法……117
スポイラー……134
スポット・ライト……67
スポーツ・シート……48, 49, 50

## セ

積算距離計……12
積雪時……140, 141, 142
背もたれポケット……71
洗車……134
前照灯
点灯・消灯……36
上下切り替え……38
追い越し合図……38
ハロゲン・ランプ……132
前照灯の上向き表示灯……21
前照灯クリーナーの使いかた……41

## ソ

装備品……144
速度計……12
速度警報表示灯……12

## タ

タイヤ
空気圧……118
指定サイズ……119
スペア・タイヤ……116
応急用タイヤ……116
交換方法……117
タイヤ・チェーン
装着方法……121
取りはずし……123
タコメーター(エンジン回転計)……12
ターボ
計器……9, 10, 11
運転方法……26, 109
エンジン・オイル……109
ターン・シグナル・インジケーター・ランプ
(方向指示灯表示灯)……22
ターン・シグナル・レバー
(方向指示レバー)……39
暖機運転……25, 103

無断複製禁止

## チ


チェンジ・レバー
　フロア・チェンジ……26
　オートマチック・
　　トランスミッション……27
チャージ・ウォーニング・ランプ
　(充電警告灯)……16
駐車ブレーキ
　使いかた……33
駐車灯スイッチ……43
駐停車……33，102，142
チルト・ステアリング
　(上下調整式ハンドル)……33


## ツ


ツール(工具)…… 114
2ウェイ・オーバードライブ付き4速オート
　マチック・トランスミッション……30


## テ


手入れ
　洗車…… 134
　ワックスがけ…… 135
　補修…… 136
定期点検…… 4
テンパラチャ・ゲージ(水温計)……15
デッキ・ルーム・カバー……72
デッキ・ルーム灯……67
デジタル式メーター……10
電圧計……16
電球…… 132
電磁式ドア施錠装置……56
電磁式ドア・ロック
　(電磁式ドア施錠装置)……56
電動ドア・ミラー……35
電動フェンダー・ミラー……35
電動ウインドウ……57


## ト


凍結時の処置……142，143
時計……65
トランク……61
トリップ・メーター(区間距離計)……12
トルコン(オートマチック・
　トランスミッション参照)
ドア
　施錠・解錠……55
　電磁式ドア施錠装置……56
ドア・ガラス(ウインドウ・ガラス参照)
ドア・ポケット……70


## ナ


ナンバー・プレート・ランプ(番号灯)… 132


## ニ


荷物固定ベルト……71
任意速度警報装置……35


## ネ


燃料…… 108，139，146
燃料計……13
燃料タンク
　容量…… 13，146
　補給…… 61，108
燃料タンク・キャップ……61
燃料，油脂，冷却水容量…… 146


## ハ


排気ガス…… 102
排気温警告灯…… 20，105
灰皿…… 68，108
ハイ・ビーム・インジケーター・ランプ
　(前照灯の上向き表示灯)……21
発炎筒(保安炎筒)…… 125
ハロゲン・ランプ…… 132
半ドア警告灯……21
ハンディ・マップ・ランプ……72
ハンドル
　上下位置調整……33
ハンドル・ロック……24
ハザード・ウォーニング・スイッチ
　(非常点滅灯スイッチ)……44
バック・ドアの施錠・解錠……62
バッテリーあがり…… 126
バニティ・ミラー(化粧ミラー)……71
バーチカル・アジャスタ
　(シート参照)
バーキング・スイッチ(駐車灯スイッチ)…43
バーキング・ブレーキ(駐車ブレーキ)……33
パワー・ウインドウ(電動ウインドウ)……57
パンク…… 116
バンパーの手入れ…… 135
番組予約……86
バック・ミラー(ミラー)……34


## ヒ


ヒーター
　通常の暖房……94
　ガラスの曇りを取るとき……95
　頭寒足熱型にしたいとき……95
　換気したいとき……96
　早く暖房したいとき……96
　吹き出し口……92
ヒート・ゲージ(水温計)……15
ヒューズ
　取り付け位置…… 128
　容量・受け持ち回路……129，130
　予備ヒューズ…… 128
　交換方法…… 131
非常点滅灯スイッチ…… 44
非常点滅灯表示灯……22


無断複製禁止

## フ

フォグ・ランプ……43
不凍液(冷却水参照)
フューエル(燃料参照)
フューエル・ウォーニング・ランプ
(燃料残量警告灯)……15
フューエル・ゲージ(燃料計)……13
フューエル・タンク(燃料タンク参照)
フロア・シフト(チェンジ・レバー)…26, 27
フロント・シート
前後位置調整……47
リクライニング調整……47
ランバー・サポート……49
バーチカル・アジャスタ……48
サイ・サポート・アジャスタ……48
サイド・サポート・アジャスタ……48
ヘッド・レスト……50
フロント・ルーム・ランプ
(スポット・ライト)……67
ブレーキ
効き…… 105, 106, 143
液の点検…… 110
補給…… 110
ブレーキ・ウォーニング・ランプ
(ブレーキ警告灯)……20
ブレーキ警告灯……20
冬(寒冷地での運転, タイヤ・チェーン参照)
分割式前倒れシート……51

## ヘ

ヘッド・ライト(前照灯参照)
ヘッドランプ(前照灯参照)
ヘッドランプ・クリーナー
(前照灯クリーナー参照)
ヘッド・レスト……50

## ホ

保安炎筒
取り付け場所…… 125
取り扱い…… 125
ホイール・キャップ……119, 136
方向指示灯表示灯……22
方向指示レバー……39
ボンネット……60

## マ

マニュアル・トランスミッション
……26, 138, 146

## ミ

水たまり走行後…… 106
ミラー
防眩式ルーム・ミラー……34
電動ドア・ミラー……35
電動フェンダー・ミラー……35

## ム

無線装置…… 111

## メ

メーター
速度計……12
エンジン回転計……12
水温計……15
燃料計……13
メーター照度コントロール
(計器照度調整)……43
メモライザー……72

## ユ

油圧計……17
油圧警告灯……17
油温警告灯……17
雪道走行(寒冷地での運転, タイヤ・チェーン参照)

## ラ

ライト・スイッチ
点灯・消灯……36
前照灯の上下切り替え……38
追い越し合図……38
方向指示……39
ランバー・サポート(腰部当たり調整)
機械式……49
空気式……49
ランプ(電球)…… 132
ラジオ……80
ラジエーター(冷却水参照)
ラジエーター・キャップ…… 107

## リ

リクライニング(背もたれ角度)調整……47
リモート・コントロール・ミラー
(電動ミラー)……35
リヤ・ウインドゥ・ガラス
曇り取り装置……42
手入れ…… 42, 136
リヤ・ウインドゥ・デフォッガ(リヤ・
ウインドゥ・ガラス曇り取り装置) …42
リヤ・シート
分割式前倒れシート……51
乗り降り……51
取りはずしかた…… 137

## ル

ルーム・ランプ(室内灯)……67

## レ

冷却水
点検…… 140
補給…… 140
レオスタット(計器照度調整)……43

無断複製禁止

## ロ

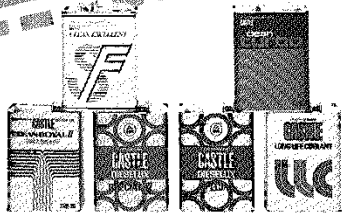
ロープをかける位置…… 127

## ワ

ワイパー
　フロント・ガラス用スイッチ……39
　リヤ・ガラス用スイッチ……41
　ウオッシャー液の点検・補給…… 140
　ワイパー・ゴムの交換……136, 140
ワックスがけ…… 135
ワンタッチ式排煙装置…… 100

無断複製禁止

# トヨタ純正製品




## キヤッスル製品

▶エンジン・オイル　※ターボ車には使用できません。

モーター・オイル・クリーンエクセレント
〔10W－40〕 (SF)

モーター・オイル・クリーンターボ
〔10W－30〕 (SF)

※モーター・オイル・クリーンロイヤルⅡ
〔7.5W－30〕 (SE)

モーター・オイル・クリーンゴールデン
〔10W－40〕 (SD)

モーター・オイル・クリーンスーパー
〔5W－30※, 10W－30, 20W－40〕 (SD)

モーター・オイル・クリーンカスタム
〔20※, 30〕 (SD)

▶マニュアルトランスミッション・オイル

MGギヤ・オイル・スペシャル (GL-3)

MGギヤ・オイル (GL-3)

ギヤ・オイル (GL-3)

▶オートマチック・トランスミッション・オイル

オートフルードDⅡ

▶ディファレンシャル・オイル

ハイポイド・ギヤ・オイルSX (GL-5)

ハイポイド・ギヤ・オイルS (GL-5)
〈独立けん架車，L.S.D.付き車を除く〉

ハイポイド・ギヤ・オイルLSD (GL-5)
〈L.S.D.付き車〉

▶ステアリング・ギヤ・オイル

ギヤ・オイル (GL-3)

▶パワー・ステアリング・オイル

パワー・ステアリング・フルード

▶冷却水(液)

ロング・ライフ・クーラント〈L.L.C.〉

## その他のトヨタ純正製品

▶ブレーキおよびクラッチ液

ブレーキ・フルード2400G

▶ウインドゥ・ウォッシャー液

ウインドゥ・ウォッシャー・フルード

▶水分除去剤

キヤスミック・エース・ウォーターカット

▶エンジン・オイル添加剤

キヤスミック・エース・モーター・オイル・アディティブ・クリーン

〔 〕内は粘度分類表示，( )内はAPI分類表示

## 万一にそなえて

安心のため自賠責保険(強制保険)のほかに任意自動車保険にも加入しましょう。

ご加入の際はトヨタ販売店にご相談ください。

## 不幸にして事故が起きたら！

あわてずに次の処置をしましょう。

①続発事故の防止

②負傷者の救護

③警察への届け出

以上道交法第72条

④相手方の確認とメモ
(氏名，住所，電話番号)

⑤ご購入された販売店と保険会社への連絡

無断複製禁止

セ-1

●お問い合せ・ご相談は右記へ―トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター　名古屋(本部)052(952)3333　東京03(817)7333　大阪06(252)2255
住所〒461名古屋市東区泉一丁目23番22号
●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。●印刷(NA)―昭和60年4月5日　●発行―昭和59年7月30日〈非売品〉

新技術―時代はTOYOTA
無断複製禁止
01999―14012